年　報　第４２集

平成２３年度文化財調査報告書

前橋市教育委員会

はじめに

本書は、平成２３年度の前橋市文化財保護の事業概要、埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本年度は、３月の東日本大震災による余波も冷めやらぬ中、被災した文化財の調査や修理等、大変慌しい中でのスタートとなりました。津波の被害を受けた被災地での惨憺たる状況とは比べるべくもありませんが、本市の被害を見ても自然の猛威を実感せずにはいられませんでした。

震災から１年余り、震災の傷跡がまだ残る町々に、文化財の修復や、継続の危ぶまれた被災地域の郷土芸能や伝統行事が、地域の方々の努力により復活されるというニュースがそこここに聞かれるようになりました。地域に残る文化財や伝統芸能が、地域の方々のよりどころとして、また地域をつなぐ絆の一つとして、心の奥底に古より受け継がれ、歴史的風土を形成してきたということをあらためて実感した一年でした。

文化財や伝統芸能は、こうした、郷土を愛する心を育み、心豊かな地域づくりのために欠かせないものであり、本市でも、郷土芸能の継承推進、啓発事業の推進、史跡環境の整備、市民ボランティアの発掘・育成、文化財調査の推進、文化財施設の整備の６つを具体的な施策として、教育行政方針の一つとして掲げています。

２３年度の文化財保護課の主な事業としては、本書に掲載のとおり、郷土芸能の継承推進のための郷土芸能大会の実施や市民参加型のイベント、市民ボランティアの養成のための歴史学習講座、５年目となる高崎市との連携文化財展などの事業を実施しております。また、文化財調査では、本年度新たに上野国府跡の調査が開始され、永らく謎とされてきた国庁発見への期待に胸をときめかせているところです。

本書をご覧いただいた皆様方の、文化財に対する理解がより一層深まるとともに、文化財保護行政への理解が進む契機となれば幸いです。あわせて、本市の文化財保護行政推進にあたり、ご指導・ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心より御礼申し上げ序といたします。

平成２４年６月

前橋市教育委員会

教育長　佐　藤　博　之

目　　次

はじめに

第１章　文化財調査委員による調査

1　東日本大震災により被災した指定文化財の緊急調査・・・・・・・・・・・・・・1

2　樹木調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3　建造物調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4　市内文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

5　建造物調査（大興寺本堂再調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第２章　新指定の文化財・種別の修正

1　新指定文化財（甲冑）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

2　市指定文化財の種別及び名称の修正について・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第３章　文化財保護事業

1　保護管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

2　整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

3　普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

4　埋蔵文化財発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

5　市内遺跡発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

6　遺跡台帳整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

7　埋蔵文化財普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

8　埋蔵文化財資料整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

9　文化財資料管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

10　山王廃寺等保存整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

11　上野国府に関連する既出資料の集成について・・・・・・・・・・・・・・・・・41

あとがき

第１章　文化財調査委員による調査

１　東日本大震災により被災した指定文化財の緊急調査

(1)　日　　時　　平成２３年４月２６日（火）
(2)　調査対象物件　　石灯籠（市指定重要文化財）
(3)　調　査　者　　松島会長、阿久津委員
　　井上委員、梅澤委員
　　片山委員、村田委員

(4)　概　要

３月１１日の東日本大震災により倒壊、破損した苗ヶ島町に所在する「石灯籠」について、前橋市文化財調査委員による現況の確認・調査を現地で行い、今後の管理及び修理等の方向性を探る事を目的に実施した。

緊急調査の様子

２　樹木調査

(1)　日　　時　　平成２３年１０月６日（木）
(2)　調査対象物件　　ア　横室の大カヤ（国指定天然記念物）
　　イ　時沢の夫婦マツ（県指定天然記念物）
　　ウ　梅花藻（未指定）
　　エ　児童文化センターのシダレソメイヨシノ（未指定）
　　※継続調査中
　　オ　極楽寺の千年ケヤキ（未指定）
　　カ　井出上神社のシイ（市指定天然記念物）
　　キ　大室公園のコナラ（市指定天然記念物）
(3)　調 査 者　　片山委員

(4)　概　　要

樹木等７件の調査を実施。横室の大カヤ、井出上神社のシイ、大室公園のコナラについては、樹勢確認調査を行ない、時沢の夫婦マツについては、県の文化財パトロールの「腐食箇所あり」の報告を受け確認調査を実施した。また、県指定の樹木等の調査として、極楽寺の千年ケヤキ及び児童文化センターのシダレソメイヨシノの現況確認調査を実施し、梅花藻については、桃ノ木川における分布状況確認調査を行なった。

シダレソメイヨシノの調査

(5)　調査データ

ア　横室の大カヤについて

所在地：前橋市富士見町横室 1023-1

指定月日：昭和８年４月１３日（国指定天然記念物）

旧富士見村　目通り周計測値：約 7.3m（指定台帳）

約 8.2m（旧富士見村パンフレット）

調査結果

幹周り 849cm、樹高 22.5m、根回り 23.65m、枝張り東西 25.6m、南北 25.5m

実（種子）の大きさの比較

	期　日	22年11月9日	23年10月6日
	測定数	78個	158個
長さ(cm)	最小～最大	1.2～2.5	1.2～2.4
	平　均	2.0	2.0
幅(cm)	最小～最大	0.4～1.3	0.8～1.3
	平　均	1.1	1.0

現　　状

樹勢回復工事等が昨年（平成 22 年 11 月）に行われた。樹勢回復工事では主幹の治療として腐朽部の除去や殺菌剤の塗布などを実施した。土壌改良工事として、根本部分に盛り土と土の固結対策として空気を注入した。また土壌改良剤と完熟堆肥を施した。混み合っていた枝部分は日当たりと通風に配慮した枝切りも行われている。

これらの工事などの結果、通風や日当たりがよくなり、根本の土も柔らかくなっていた。これら一連の工事などによる樹勢への影響は来年には表れてくるものと思われる。

所有者によれば、今年は昨年以上に実の付きが良いとのことで、非常に数多くの実が落ちていた。落下した実を無作為に拾って長さと幅を測定した。昨年と今年の結果を比較のため表にして示した。実の長さと幅は両年ともほぼ同じであった。この結果は、実の付きが極端に悪かったという一昨年（平成 21 年）ともほぼ同じであった。

実の大きさは、所有者が保存していた平成 20 年の長さは約 3cm、幅が約 1.5cm であり、平成 21 年から急に小さくなったとのことである。実の大きさは樹勢を示すとするならば、昨年に実施した樹勢回復工事等によって、来年の実の大きさは平成 20 年以前と同様になるものと期待される。

この横室の大カヤは樹齢 1000 年以上と推定され、日本有数の巨木で国指定天然記念物である。現在の樹勢は旺盛とみられるが、老木でもあり注意を払って保護を続けていくべきものと考える。

イ　時沢の夫婦マツ

所在地：　前橋市富士見町時沢 3164

県天然記念物

調査結果

ａクロマツ：　幹周り 333cm、樹高 16.0m、根回り 11.76m、
枝張り　東西 11.8m、南北 12.8m

ｂアカマツ：　幹周り 229cm、樹高 7.0m、根回り（根元周 2.8m）
枝張り　東西 6.40m、南北 4.75m

現　　状

a クロマツ：　先端は切除されているが、樹勢は旺盛で葉の付きも豊富である。

昨年、マツカレハの幼虫により食害を受けたとみられる枯れた枝が残っている。しかし他の部分への広がりは見受けられない。

先端付近にサクラ類とみられる実生が付いて成長しており、この部分に腐りがあるとみられるので、腐りが進行しないよう実生は除去した方がよい。

b アカマツ：　平成22年3月9日の雪害で枝が折れ、支柱が倒れたので剪定と支柱の修理が行われた。クロマツと同様に先端が切除されたこのアカマツは、切除部の下に1本のみの枝が垂れ下がって付いており、そこに支柱が設置されている。斜めに傾いた幹の上部にあたる材部は腐っており、下部に残った樹皮部分でこのアカマツは生きている。幹上部は腐りが進んで、ところどころの材部はめくれあがっており、内部はすでに空洞化しているとみられる。

この腐ってめくれ上がった部分は、防腐剤を塗布するなどの処置が必要であろう。アカマツに残されたわずか1本の枝は、付いている葉の量からみてかなりの負担が枝にかかっており、強風などの影響を強く受けるのではないかと懸念される。クロマツに比べてアカマツの樹勢はかなり弱いものとみられる。

ウ　梅花藻（ばいかも）

調査地：　前橋市荒牧町（天神橋）・下小出町（観音橋）・桂萱町（石関橋）

指定年月日：　未指定

調査結果：

a 天神橋：　橋の上流部、下流部ともにバイカモの群落が流水中に点在していた。蕾は少し見られたが花は確認できなかった。水がやや濁っていた。

b 観音橋：　橋の下流部にのみ、数多くのバイカモの群落が流水中に点在していた。2m以上に生長している株が多く、開花も確認された。水がやや濁り、流水中には投げ込まれた自転車が数台点在し、それにゴミがからまっていた。

c 石関橋：　橋の下にバイカモが1株のみ確認された。水は濁りがなかった。

現　　状

桃ノ木川のバイカモは関根町の桃の木橋付近から、小屋原町の繁年橋まで分布している。前橋市におけるバイカモの分布は桃ノ木川とその支流の佐久間川及び広瀬川とその支流の端気川である。

県内におけるバイカモの分布は利根・沼田地域や尾瀬地方及び吾妻郡など山間地であり、水温の低い水が流れる河川のみである。

広瀬川と桃ノ木川は田口町で分流するが、桃ノ木川を流れる水のほとんど全ては広瀬川から供給されている（田口町と荒牧町の2箇所で広瀬川の水が加わる）。この両河川を流れる水は沼田市岩本町で取水され、佐久発電所を経由して田口町に至るが、直射日光を受ける機会が少なくて温まらずに流下する。桃ノ木川ではバイカモの生育する場所の水温は夏でも約20℃である。

冷水域に生育し「清流のシンボル」と称されるこのバイカモが、市内を流れる広瀬川と桃ノ木川などに生育していることを広く市民に知らせ、他に誇りうる貴重な存在であることを認識させることが必要であろう。

エ　児童文化センターのシダレソメイヨシノ　　※継続調査中
所在地：　前橋市西片貝町五丁目　児童文化センター敷地内
指定年月日：　未指定

調査結果：幹周り 225ｃｍ、樹高 11.5m、根回り 20.55m、
枝張り　東西 15.6m、南北 13.2m

現　　状

シダレソメイヨシノはオオシマザクラとシダレザクラ（エドヒガン）の種間雑種と考えられる栽培品種で、明治期から栽培されていたらしい。

児童文化センター敷地内には野生種や栽培品種を含む数多くの桜類が植えられている。このシダレソメイヨシノは敷地内に１本あり、意図的に植えられたものと推測される。枝ぶりはシダレザクラのように枝垂れず、やや横に広がってから垂れ下がる。　開花時期や花の形などはソメイヨシノとよく似ている。

本種が植栽されている場所は新宿御苑、昭和記念公園、奥多摩森林公園など比較的少ないようである。また県内に本種が植えられているという情報はなく、極めて珍しい。樹高は 5m 程度であまり大きくならないと記されているが（勝木 2004）、児童文化センターの株は 11.5m ある。植えられている場所の約 2m 西側には佐久間川が流れ、根の伸長は川の護岸で遮られており、枝は川の上に垂れ下がっている。東側は広場になっているが、枝は切られており垂れ下がりの枝はない。

シダレソメイヨシノとして保存するならば、東側の土地を十分に確保して、枝は樹種本来の伸長と垂れ下がりを保証する必要がある。また、根際近くにキノコが出ている場所があるので、キノコは除去して腐りの進行を防ぐのが良い。

オ　極楽寺の千年ケヤキ
所在地：　前橋市亀里町 604 番地の 1　　極楽寺
指定年月日：　未指定

調査結果
幹周り 498cm、樹高 18.5cm、根回り 21.58m
枝張り　東西 18.60m、南北 14.28m

現　　状

ケヤキは本堂の東南に位置し、根本に接する西側は浅い窪地で水が溜まっている。この窪地の方向には根は見られず、南北と東に根が広がって伸びている。主幹は約 7m 上部で切断されており、そこから枝が広がって出ている。切断された部分から下の西側部分は根元まで腐りが入っていると見られ、樹皮がめくれている。腐朽はかなり進んでいるとみられ、西側の根元付近にはキノコの生えていた跡があり、長さ約 1m のキノコが残っていた。また、切断された幹部分も腐りがあるようで、ケヤキとは異なる 2 種以上の樹木の芽生えが伸びている。

檀家（故人）の緻密で克明に記された平成 6（1994）年 4 月 8 日付の日記によれば、切断された主幹部の半径は 57cm と記されているので、切断面の幹周囲は 3m 以上あったものと推定される。またこのとき切断面の中心部は腐朽していたので、計測可能な周辺部の年輪数とその長さとの比から求めた推定年輪数は 627 であったと記録されている。また地面から 1.5m の幹周りを測定し 453cm であったと記し、幹上部切断面の半径と年輪数を基礎にして計算しこのケヤキの年齢を 793 年と算出している。

この檀家が得た年輪数や高さ 1.5m の幹周りを基準にすれば、調査で得られた幹周り 498cm の値からこのケヤキの年齢は約 1000 年とみても大きな差はないと推定される。

このような古木の場合、材の部分が腐朽して失われていることが多く、切り口で年輪を直接に計測できる例は少ないと思われる。この「千年ケヤキ」の場合は、推定であっても直接

に切断面の年輪を数え、その材の長さの比から計算した数値は貴重である。切断されている部分の腐朽防止などで手を加える際に、年輪が計測できる機会があれば、より具体的な資料が得られるものと思われる。いずれにせよ、現在、切断された部分とその下部（幹の西側部分）の腐朽防止は早めに具体的な対策をとる必要があろう。

カ　井出上神社のシイ

所在地：　前橋市飯土井町甲１　井出上神社境内

指定年月日：　平成 12 年 4 月 12 日

調　　査

日が陰り、測定器具の使用が困難なため、現状を目視により調査を行った。

現　　状

樹木は、外観上、旺盛で多量な葉を付けている。主幹が中央部で枯れており大きなキノコが付着している。このキノコは、腐朽進行を抑えるため、早めに除去した方がよいと思われる。

毎年、数多くの実（種子）を生産しているようで周囲には実生がある。また西側の空き地や小さな岡にはこのシイに匹敵する高さに生長した（子）シイがある。

キ　大室公園のコナラ

所在地：　　前橋市西大室町 2545　　（大室公園）

指定年月日：　平成 23 年 6 月 8 日

現　　状

現状を目視調査した。枯れ枝が樹下の通路上にあり、落下による危険防止のため撤去が必要である。主幹と思われる先端部が折れているのが確認された。

根元付近にはカミキリムシ類と思われる搾孔痕がみられた。また樹幹には土で覆われたアリの通路があり。アリや卵がその中に確認された。

コナラの樹勢は旺盛で、葉を十分に茂らせており、数多くの実（種子）も付けていた。

大室公園のコナラの実（どんぐり）

3　建造物調査

(1)　日　　時　　平成２３年１０月１８日（火）
(2)　調査対象物件　　ア　大興寺本堂
　　イ　二宮神社社地内建造物
(3)　調　査　者　　村田委員
(4)　概　　要

大興寺本堂の調査では、過年度（昭和６０年度）に建造物調査が行なわれたが、再度視点を変えて状況確認調査を行なった。二宮神社地内物調査では、本殿及び十二天（現社務所の一部）を中心に文化財としての価値を判断するための基礎的資料を得ることを目的として調査を実施した。

大興寺本堂にて

4　市内文化財調査

(1)　日　　時　　平成２３年１０月２１日（金）
(2)　調査対象物件　　ア　上泉の獅子舞（市指定有形民俗文化財）
　　イ　石灯籠（市指定重要文化財）
　　ウ　二之宮の式三番叟（市指定有形民俗文化財）
　　エ　鉄錆六十二間筋兜黒漆浅葱素懸威最上伍枚胴具足
(3)　調　査　者　　梅澤会長、阿久津委員、井上委員、片山委員、村田委員
(4)　概　　要

上泉の獅子舞及び二之宮の式三番叟の調査では、現在の指定種別（有形民俗文化財）を無形民俗文化財へ修正すること前提として、民俗調査を実施した。

石灯籠については、市が実施した耐震補強工事の完了確認調査を実施。

未指定の文化財の調査として、過日、市が購入した松平大和守家に由来する「鉄錆六十二間筋兜黒漆塗浅葱素懸威最上伍枚胴具足」については、文化財としての価値を判断するための基礎的資料を得ることを目的として調査を実施した。

二宮神社での調査風景

5　建造物調査（大興寺本堂再調査）　※継続調査中

(1)　日　　時　　平成２３年１２月５日（月）
(2)　調査対象物件　　大興寺本堂
(3)　調　査　者　　村田委員
(4)　概　　要

前回行なわれた調査の結果、おおよその建築時期や建物の様子が判明した。本調査は、さらに内容を進め、詳細な痕跡調査を実施し、建物の性質や原形をさぐるための資料およびデータ収集を行なった。

大興寺再調査の様子

第２章　新指定の文化財・種別の修正

１　新指定文化財

前橋市指定重要文化財	前橋領主松平大和守家の甲冑〔表紙写真〕
指定年月日	平成２４年３月１５日
所在地	前橋市岩神町三丁目１番１号 前橋市総合教育プラザ
所有者及び管理者	前橋市
概要	

「前橋市所有の甲冑（鉄錆六十二間筋兜黒漆浅葱素懸威最上伍枚胴具足）」については、天保１４年（１８４３年）５月２５日条『川越記録』（松平家記録１９１冊）に藤枝政右衛門（英一）宛に川越藩武具方奉行より藩御用向として「右者武具方御用向之儀、武具方奉行ヨリ申聞候旨…云々」と申し渡しがなされている。藤枝政右衛門（英一）は川越藩のお抱え鉄砲鍛冶であり、特に上職人とされ、刀鍛冶としても「玉鱗子」の号を持つ職人で、弟子皆伝書には、「細工器用ニシテ何デモコシラエル」とある。藩における地位は上職人であり、天保１１年には藩主斉典に直接鍛刀の技術を指導したことにより、小役人格を申し付けられている。天保１４年９月朔日条（『松平家記録１９１冊』、川越記録）には、藤枝政右衛門より藩の御小納戸方へ「右者大小一腰、御具足御胴一ツ出来候様」と報告されている。

本甲冑に付属する天保１４年（１８４３年）孟秋付けの「御具足目録」には「川越候の命ずるところ」とあり、ここでいう川越候とは「斉典」と推察できる。このことは前述の『川越記録　１９１冊』の天保１４年５月、同９月朔日の記事に合致する。この記事には甲冑一式の作者の名前は出てこないが、甲冑に付随する目録にある甲冑の製作者「明珍紀宗保」は、当時、著名な甲冑師として世に知られており、藤枝政右衛門から、著名な甲冑師に発注しているとも考えられる。甲冑の兜、面頬、当世袖、喉輪、胴など小板にはすべてに「明珍紀宗保」の文字が刻まれている。

松平大和守家は、徳川家康の次男の結城秀康の５男、直基を祖とし、大和守を受任したことから始まる。５代松平朝矩が寛延２年（１７４９年）姫路から前橋に移封されたことにより、前橋藩を継ぐが、前橋城は利根川の浸食を受け、二の丸に移した本丸さへも保つことができなくなり、朝矩は川越へ移ってしまう。その為、以後、前橋は川越藩の前橋分領として陣屋支配をうけることになるが、町方としての格が残され、その後も『前橋祇園祭礼絵巻（文政１１年）』に見られるような華やかな町人文化が育まれていくことになる。

慶応３（１８６７）年、１１代松平直克が前橋城を再築し、再入城を果たす。その際、前橋の町民が藩主を迎えるにあたって再築前橋城の費用を負担するなど、前橋と松平氏との関係の深さが窺える。その様子は「前橋藩松平家記録　御再築城別記録」においても知ることが出来る。

本甲冑が製作された時の藩主は、松平斉典である。斉典は前橋が川越藩の分領となった時代の藩主（在任期間１８２６年～１８４９年）である。斉典は、天保６（１８３５）年の時の将軍　徳川家斉より一字を賜って旧名を矩典から「斉典」へと改名している。また、それより前、文政１０（１８２７）年には、将軍家斉の２４男「斉省（紀五郎）」を養子に迎えいれることにより幕府への急速な接近策をとると共に内政的にも財政再建に励み、農村復興に取り組む一方、文武両道を奨励し、藩校「講学所」を開講（１８２７年）するなど名君といわれた人物である。川越市に現存する「本丸御殿」（１８４８年）なども斉典によって建てられたものである。

特筆すべき事として、斉典の時より御紋に「三つ葉葵」を使うようになった。本甲冑にも、随所に「三つ葉葵」が使われており、御家門の甲冑としての豪華さが窺える。斉典自身は、前橋分領時代の藩主ということで、前橋との地縁はやや薄いが、当時、前橋分領が重要な財政基

盤であったことから勧農役所の設置、永続金制度を行なうなど興農政策に努め「糸の町前橋」の基盤はこの藩主の代になったとも言え、その治政上の業績は大きい。

このようなことから、松平大和守家は、現代までの前橋の歴史を語る上で大変に重要な位置を占めている。

【指　定　理　由】

本市の近世の歴史を辿る上で、重要な存在である「松平大和守家」に由来するものであり、保存状態、製作の精妙、豪華さは大名所用甲冑の姿をよく伝えている。
本市が所有している松平家関係の資料と共に前橋市の基礎ともなる近世前橋藩を伝える重要な歴史的資料である。

2　市指定文化財の種別及び名称の修正について

(1)　概　要

「上泉の獅子舞」及び「二之宮の式三番叟　附伝授書」は共に、昭和４５年２月１０日に市指定有形民俗文化財として指定された。前者は「獅子頭」が指定になり、後者は「伝授書」が指定を受ける形となった。しかしながら実際には、上泉の獅子舞も三番叟も「舞の部分」が当該文化財の活動の中心であり、上泉の獅子舞はこの獅子頭を用い、式三番叟の舞は「伝授書」に記されている内容を形として演じているわけである。

こうした現状を受け、民俗芸能としての文化財的価値の再確認を行い、指定種別及び指定名称の整合性を検討することとなり、平成２３年１０月２１日、前橋市文化財調査委員５名全員による、芸能の伝承の状況、由緒・来歴、保存組織の確認等の調査が行なわれた。

調査の結果、全会一致で種別及び名称の修正が適当という判断がなされ、最終的に平成２４年２月３日に開催された文化財調査委員会議において、報告し承認された。

今回の修正は物件の指定ではなく、すでに指定された物件の修正であるため、前橋市教育委員会教育長に対する事務委任規則第２条に基づき教育長決裁により修正を行うものとし、教育委員会へはその旨の報告後、修正後の指定書の再交付をもって新種別・名称に指定されているものとした。

(2)　対象物件

①名　　称　上泉の獅子舞
指定年月日及び指定種別　昭和４５年２月１０日指定市指定重要有形民俗文化財
所　　在　　地　前橋市上泉町２７１　　諏訪神社
管理者及び所有者　上泉獅子舞保存会

②名　　称　二之宮の式三番叟　附　伝授書
指定年月日及び指定種別　昭和４５年２月１０日指定市指定重要有形民俗文化財
所　　在　　地　前橋市二之宮町８８６番地　二宮赤城神社
管理者及び所有者　二宮赤城神社

(3)　修正後の種別及び名称

①旧名称「上泉の獅子舞」　→　新名称「**上泉の獅子舞　附　獅子頭三点**」
旧種別「有形民俗文化財」　→　新種別「**無形民俗文化財**」

②旧名称「二之宮の式三番叟　附伝授書」→　新名称　「**名称は変更なし**」
旧種別「有形民俗文化財」　→　新種別　「**無形民俗文化財**」

第３章　文化財保護事業

1　保護管理運営事業

(1)　国有文化財管理

文部科学省（文化庁）が所有する、国有文化財、天川二子山古墳と総社二子山古墳の２箇所について、自治会役員等を国有文化財看視人として委託し、見回り看視、清掃等の日常管理を実施した。また、同古墳の除草等については、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに業務委託し、総社二子山古墳は地元の総社地区史跡愛存会に業務委託のうえ、６月下旬と９月の計２回実施した。

総社二子山古墳除草作業

(2)　国・県・市指定文化財管理

今年度実施した市指定文化財の種別及び名称の修正による種別間の文化財異動と新指定を加えた平成２４年３月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定名称	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	5	40	138	183
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	23	23
無形民俗文化財	0	2	21	23
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	18	58	240	316
登録有形文化財	21			21
登録有形民俗文化財	1			1
重要美術品	8			8

① 史跡等の除草及び竹片付け

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積（㎡）
1	亀塚山古墳	市指定	山王町 1-28-3	4,968
2	金冠塚古墳	市指定	山王町 1-13-3	4,814
3	今井神社古墳	市指定	今井町 818	4,624
4	車橋門跡	市指定	大手町 2-5-3	750
5	天神山古墳	県指定	広瀬町一丁目 27-7	730
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町四丁目 9-3	20,000
7	蛇穴山古墳隣接地	国指定	総社町総社 1587-2	5,674
8	宝刀山古墳	国指定	総社町総社 1606	2,204
9	女堀	国指定	富田・東大室・二之宮・飯土井他	59,986
10	不二山古墳	市指定	文京町三丁目 151-6	1,142
11	荒砥不二山古墳	県指定	西大室町 813-2 他	2,700
12	大胡城跡	県指定	河原浜町 660-1 急傾斜地 660-31, 32	24,934 3,700
13	堀越古墳	県指定	堀越町 861-1	582
14	大日塚古墳	市指定	五代町 214	1,124
15	総社古墳隣接地		総社植野 365-2	792
				138,724

○国指定史跡女堀二之宮町 353-2 地内の竹片付け

実施期間　23 年 5 月 10 日～6 月 17 日

実施場所　女堀東沼　1,680 ㎡

竹処理の様子

処理後

② 樹木管理

大胡城跡他樹木選定及び伐採管理を行った。

剪定１０本　伐採２９本

天川二子古墳樹木伐採２本

宝塔山古墳枯損木１本

前二子他樹木管理業務１３本伐採

樹木女堀伐採業務９本伐採

③ その他の環境整備

イ．市が管理している史跡等について、職員の見廻り巡視を行い、見学路・景観確保のためゴミ拾いとともに、折枝や枯木の発見に努めた。

ロ．市が直接管理する国指定史跡４ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカプセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注入を職員により実施した。

(イ)実 施 日　平成23年6月17、20日(金、月)

(ロ)実施場所　①天川二子山古墳　②総社二子山古墳　③宝塔山古墳　④蛇穴山古墳

(ハ)樹木本数　81本(四ヶ所合計)

ハ．市が管理している、国指定史跡の女堀二之宮町地区の急傾斜を除く東沼・西沼全体に生えている竹に竹稈注入を行い竹の枯渇を計った。

(イ)実 施 日　9月13日～9月15日(3日間)

(ロ)実施場所　国指定史跡女堀　二之宮町地区竹稈注入本数およそ500本。

ニ、本年は、ススメバチが異常発生をしたため、八幡山古墳他７件の駆除を行った。

(3) 文化財の保護

① 文化財パトロール

市内を１０地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月１度書類の提出をお願いし、その報告の内容により、除草や倒木や説明板等の対処をした。また、その報告書は、文化財の状況をＡＢＣＤで評価してもらい具体的に分かるようにしている。

平成２３年度は、文化財保護指導員・担当地区とも変更なかった。

第一回会議の様子

第１回会議は、４月２７日（水）に行った。平成２３年度事業概要や平成２４年度事業計画及び平成２３年度文化財パトロール報告のまとめを報告し、説明板の破損状況や文化財の管理状況・樹木の伐採など文化財保護の率直な意見交換をした。そして、文化財保護指導員の資質の向上を図るために、１１月２５日（金）情報交換会を開催した。

４月から１０月までのパトロール報告や保護指導員が常々感じている事や至急やってもらいたい事などの意見が出た。その後、現地見学を行い２３年度の元総社町蒼海地区発掘現場を視察しを行い、指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。

現地見学の様子

② 文化財防火訓練及び防火査察

ア 防火査察

第５８回文化財防火デーにより、４０件の文化財査察対象物に対して９班編成を組み、前橋市消防局(各消防署)及び㈱東京電力等と協力して、合同立入査察を実施した。

査察の様子

○平成２４年１月２３日(月)

（１班中央消防署：４施設　９：３０～）

東照宮前橋藩松平家奉納装束一式、八幡宮文書(一巻九通)・伯牙弾琴鏡、臨江閣本館・茶室・別館、典籍前橋藩松平家記録(404冊)・酒井家資料(129点)前橋祇園祭礼絵巻(二巻)(市立図書館)、神明宮の甲冑・奈良三彩

（８班北消防署：３施設　９：３０～）

日輪寺寛永の絵馬他、前橋藩家老小河原左宮

の甲冑付旗差物、善勝寺鉄造阿弥陀如来坐像
（２班中央消防署：５施設　１３：３０～）
東福寺鰐口、松平藩主画像他一件、旧蚕糸試験場事務棟、上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞、石造薬師三尊立像（宝禅寺）
（９班白川分署：５施設　１３：３０～）
横室の歌舞伎衣装、珊瑚寺の板碑と多宝塔、時澤の仁王と多宝塔、萩林庵の阿弥陀像、原西の阿弥陀像
○平成２３年１月２４日（火）
（３班東消防署：６施設　９：３０～）
旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対（金蔵院）、五十山薬師如来十二神将（堀越町堀下自治会）、大胡神社の算額他、阿久沢家住宅、金剛寺十一面観音木像他、諏訪神社歌舞伎舞台他
（４班東消防署：５施設　１３：３０～）
諏訪神社狂歌合の額他、三夜沢赤城神社本殿内宮殿他、近戸神社御興地、三番叟かしら対附属古文書（前橋市）、木造十一面観音立像（室沢自治会）
○平成２３年１月２５日（水）
（６班南消防署：２施設　９：３０～）
円満寺薬師如来座像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像、円満寺薬師如来座像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像、
（５班西消防署：４施設　３：３０～）
上野総社神社本殿他、徳蔵寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一対、大徳寺総門・多宝塔、光巌寺薬医門・打敷・油単並びに幡
（７班南消防署：６施設　９：３０～）
旧関根家住宅、無量寿寺地蔵菩薩立像・無量寿寺十一面観世音立像、二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納曽利面、産泰神社本殿・幣殿拝殿神門及び境内地他、慈照院千手観音座像、円満寺薬師如来座像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像、旧アメリカンボード宣教師館（共愛学園）

イ　文化財防火訓練

粕川町月田にある「近戸神社」で参拝者による、タバコの投捨てにより裏山から出火、宮司が火災を発見し１１９番通報をするとともに社務所にいた氏子らと懸命な初期消火活動を行うが拝殿への延焼に延焼拡大したもの。さらに、神輿（市指定重要文化財）が保管されている社務所まで延焼危険が迫っているため、消防隊と共に総力で神輿の搬出を行う。初期消火活動中に２名の負傷者が発生したものを想定した防火演習で、車両１２台総勢９７名が参加し中継送水・放水訓練を行い延焼拡大防止訓練に望んだ。さらに猛火から負傷者の救出演習、担架に載せて病院へ搬送する実際さながらの訓練も披露された。

○平成２４年１月２９日（日）
午前１０時００分から午前１１時００分まで
会場：前橋市粕川町月田１２６１番地
「近戸神社」
指定物件
①市指定文化財　近戸神輿　　計１件
参加機関
前橋市消防局、東消防署、南消防署、中央消防署高度救助隊、前橋市消防団第５方面団、文化財保護課、近戸神社　（演習参加者９７名）

防火訓練の様子

③ 寄付の受入

平成23年度は、以下６件の貴重な文化財資料等を受け入れた。
○刀剣（古刀脇差：無銘〔直江志津〕）
○米粉製造機（米ミル）他
○雛人形五段飾り一式（大正初期）
○曹洞宗柳原山源英寺傳燈録　５冊
○竹まぶし織機及び繰糸鍋
○軍衣一式

刀剣（古刀脇差：無銘〔直江志津〕）

④　刀剣の製作承認

市内在住の髙橋恒厳氏から２口（太刀１、刀１）の承認申請があり、すべてを承認した。
承認後は県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ、承認した旨を通知した。

⑤　刀剣の手入れ

本市が寄附受入を行った刀剣を、良好な状態で保存するため、専門的な技術者による手入れを行っている。今年度も例年通り、９月と２月の２回実施した。

対象刀剣類は７種５２口。今年度は、錆のあるものなど、別途委託を要するものは見受けられなかった。

刀剣手入れの様子

⑤　市内所在の文化財の異動

今年度の異動は県重文３件が指定解除、市重文２件が県重文へ格上げ、国登録有形（建造物）１件が登録抹消となった。

詳細は以下一覧の通り。

種別	名称	内容
県重	刀 無銘（伝元重）一口	指定解除（H23.9.20付）
県重	刀 銘土佐藩工佐行秀造之 一口	指定解除（H23.9.20付）
県重	短刀 銘源左衛門尉信国 一口	指定解除（H23.9.20付）
市重	典籍前橋藩松平家記録	県重へ格上げ（H24.3.23付）新名称「前橋藩松平大和守家記録」
市重	松平藩主画像	県重へ格上げ（H24.3.23付）新名称「松平大和守家歴代藩主画像附その他画像10幅」
登録	旧麻屋呉服店店舗	登録抹消（H24.2.7付）

⑥ 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更は、市指定文化財が３件、県指定文化財が１件であった。

詳細は一覧の通り。

種別	名称	内容
市重	石灯籠	東日本大震災により被災した墓石の修復及び耐震補強工事
市重	おびんづる様	移設工事
市史	前橋藩主酒井氏歴代墓地	東日本大震災により被災した墓石の修復
県天	時沢の夫婦マツ	強風により折損した部分の復旧及び鋼製支柱の設置改修

⑦ 阿久沢家住宅について

平成22年度末に管理責任者に選任されたことから、今年度より阿久沢家住宅を守る会に管理を委託した。

また、24年度での買い上げの準備として土地の不動産鑑定評価や、平面・用地測量を行った。

阿久沢家住宅

(4)　前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園のこの場所に解体移築し、昭和５７年４月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。日常管理を前橋市シルバー人材センターに委託し、見学者の受付と館内外の清掃を行っている。このほかに管理業務では、消防設備保守点検、樋及び周辺清掃業務を委託している。

建物内に４つの展示室(①開所当時の様子を示

す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座繰器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕信仰の資料）を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、春のバラフェスタが東日本大震災の影響で中止となったが、バラフェスタが観光バスのツアーコースに入っているため、春のバラフェスタは中止となってもゴールデンウィークから団体客が多数来館し、７，２６１人の見学者があった。また、バラフェスタの期間中富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て座繰り体験コーナーを設けている。今年は薔薇の開花が例年よりかなり遅く震災の影響でバラフェスタが中止となったため、毎年やっている座繰り体験コーナーを４回のところを３回で行った。秋のバラフェスタは予定通り行われたため、例年通り３回行った。春・秋合わせて１９５人が座繰り体験を楽しみ、自分で挽いて採った糸はお土産としてプレゼントした。また、今年は伝道師協会により桑の木細工教室が行われ、例年になく来場者に喜ばれ、３２３人が桑の木の木工細工に挑んでいた。バラフェスタでは、いろいろなイベント行われており、その１つとして来場者は存分に楽しんでいる。

平成２３年度はパンフレットを３，０００部増刷した。

座繰り体験の様子

(5) 総社資料館の管理・活用

平成２３年度の開館日数は　１９７日、来館者数は５，５３６人であった。東日本大震災の影響で北蔵の壁が一部崩落し、５月いっぱい休館を余儀なくされたが修理後の６月から開館することができた。あわせて緊急時の避難マニュアルも作成し、説明員に周知した。来館者は開催年より引き続き同水準で、微増した昨年度よりも若干（100 名程度）増やすことができた。来館者の中心は小学校による学校単位での利用によるもので、天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、４，０６８人が訪れた。また市外小学校からの見学申込みもあり、周知度が増してきていることが窺える。

秋元歴史まつりでは、同実行委員会により、館林市所蔵の秋元氏関連の品々が展示された。また今回も昨年に引き続き、富岡製糸場世界遺産伝導師協会の協力で「座繰り体験教室」も実施し、大変好評であった。今回は武者行列が予定された（当日途中で中止）ため、鎧の試着体験と記念撮影、総社地区史跡巡りは行われなかった。

３月には説明員研修を実施した。今回は近隣ではあるが、高崎市の文化財や関連施設を改めて学ぶ機会とし、高崎市歴史民俗資料館・滝の慈眼寺・観音山古墳・観音塚考古資料館・観音塚古墳・かみつけの里博物館と保渡田古墳群・上野国分寺跡を見学した。民具や古墳に関わる展示・解説は、総社資料館での説明にも関連があるので、参考にできる点が多かったと思われる。

当年度より小学３年生の民具関連の見学が増えたことから、西倉の展示品の整理やキャプション等の充実が、次年度の課題となっている。

また、学校への周知や資料館への来館者用にパンフレットを用意しているが、今回は総社公民館や駐車場の移転・変更等を反映した上、1000部増刷した。

秋元まつり特別展示

説明員研修視察（高崎市観音塚古墳）

(6)　前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民族資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は2回の企画展を開催し多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。開館日数は169日入場者数合計1,565人を数えた。

企画展の様子

企画展概要

①「まやはし」の時代―前橋の中世遺跡―

期間　4/29～8/31

前橋の中世遺跡に注目し、発掘された資料をもとに、「まやはし」と呼ばれた時期の前橋地域の一面を紹介する。

②「前橋祇園祭礼絵巻と前橋藩松平家」

期間　10/8～24/1/29

粕川歴史民俗資料館では秋季企画展として、市指定重要文化財「前橋祇園祭礼絵巻」や、この度新たに市の所蔵となった松平家由来の甲冑など、前橋藩松平家に関わる資料を展示しています。近世以降の前橋の魅力と歴史について概観することができます。

(7)前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

施設は無人となった。

施設内の警備保障、昇降機、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(8)　大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

6月13日に開催された大室イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座繰の体験を行い、多くの参加者を集めた。

(イ)管理業務実施日は以下のとおりである。

4月から11月まで:月曜日を除く毎日。

12月から　3月まで:土・日・祝日。

前二子、後二子石室鍵開け　午前9：00

前二子、後二子石室鍵閉め　午後4：00

(ロ)点検場所

1.前二子古墳　2.中二子古墳　3.後二子古墳

4.付小古墳

※清掃は石室開閉時に実施している。

(ハ)年末年始休業

12月27日(月)から1月4日(火)まで

(9)　大室公園民家園の管理・活用

民家園は赤城型民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。

平成23年度開館日数は237日、民家園来園者数は記帳者の確認だけで 2,555 人となっている。6月 13 日に開催された大室イベントではスタンプラリーの会場とともに、ふかし饅頭の体験会場が開催された。

ふかし饅頭体験の様子

また、古墳の語り部による勾玉作りが、8 月 6 日（土）開催されおよそ 30 人が参加した。

(10)　臨江閣の管理・活用

平成２０年度から臨江閣の管理活用は、生涯学習課から文化財保護課へ替わった。それまで臨江閣は中央公民館の別館として利用されていた。明治時代に建てられ指定文化財になっている建物の保護と文化財としての普及活用を主眼としたため、所管換えが行われた。

日常管理については、管理人を２名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバー人材センターへ委託した。このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、庭内の樹木は、一括管理が効率的判断し、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。

また、管理人・消防設備点検業者・消防署を呼んで９月と３月には消防訓練を行っている。

施設の活用では、展示室では「前橋空襲と都市の復興」を開催している。

今年は東日本大震災の影響で、４月・５月のイベントはほとんどが中止となった。例年なら４月となると３月とは打って変わってお茶会等の色々なイベントが目白押しに開催しているが４月は０件で５月も３件ほどだった。市主催の見学会が中止になるなど団体見学も減少した。９月の秋以降はお茶会等を中心にお香の会や百人一首大会や講演会と演奏会、また、今年はアート展も３回開催

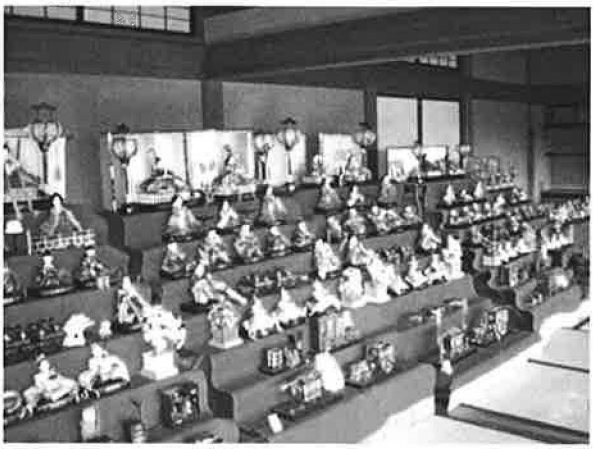
消防訓練の様子

された。変わったところでは日本舞踊教室の発表会も行われたりした。

見学会も秋以降は増え学校関係の学習見学や各種団体の視察見学が頻繁にあった。結婚衣装・七五参・成人式の衣装を着ての撮影が結婚企画会社や写真館の記念撮影会、雑誌・企画会社等の撮影は１年通して変わらず利用された。今年は結婚企画会社や写真館の記念撮影が撮影場所として広まっているのか昨年に比べるとかなり増えた。

２・３月には、市民の寄贈による雛人形を展示し好評を博した。最後に臨江閣への平成２３年度の入場者数であるが、団体利用や観光に力を入れているが、震災の影響もあり見学・利用など、１８，０３９人で昨年より１，０００人ほど減った。

保全修理では、別館と茶室が地震により壁が落ちるなど多少の被害があったが、大きな被害はなかった。そのほか本館と別館と茶室の屋根や戸や樋の補修工事を行った。本館の玄関脇の土台改修も行い施設の保全に努めた。パンフレットについては４，０００部増刷した。



雛人形の展示

2　整備事業

(1)　前橋市史跡整備委員会

平成18年度の発足以来、前橋市内の史跡整備に関して６年にわたる検討を重ねてきた。本年度はその結果を提言書としてまとめ、提出した。

①　第９回前橋市史跡整備委員会

ア　開催日及び会場　平成23年７月15日
前橋市総合福祉会館第２会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、右島副委員長、小島委員、飯森委員、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ　内容　事務局より提言書案を提示し、その内容について協議・検討を加えた。

②　第10回前橋市史跡整備委員会

ア　開催日及び会場　平成24年２月17日
前橋市役所３階 32会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、右島副委員長、小島委員、飯森委員、教育長、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ　内容　事務局より提言書案（修正版）を提示し、その内容について修正を加えて、提言書を作成した。

③　前橋市史跡整備委員会提言書提出

ア　開催日及び会場　平成24年２月17日
前橋市役所３階 32会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、右島副委員長、小島委員、飯森委員、教育長、管理部長、事務局（文化財保護課）

ウ　内容　第10回前橋市史跡整備委員会終了後に、阿久津委員長から教育長に提言書の提出があった。

(2)　臨江閣整備活用検討委員会

平成２３年度において本市を代表する近代和風建造物である臨江閣の末永い保存・活用を図るため、その整備及び活用について検討・協議を行い、課題等を抽出し、今後の整備等に向けた基本的な考え方をまとめる。

①　第１回前橋市江閣整備活用検討委員会

ア　開催日及び会場　平成23年6月29日
臨江閣別館南側和室

イ　出席者

〈委員〉村田委員、清水委員、千木良委員（代理出席長谷川昇）、齋藤総務課、中西教育施設課長

〈事務局〉文化財保護課

〈その他〉総務課：高橋課長補佐、戸嶋主任
教育施設課：鈴木主任

ウ　内容　事務局より臨江閣の概要、工事履歴、利用状況、課題等を説明し、その内容について協議・検討を行った。

主な意見

・施設の改修（雨漏り・本館の戸の開閉・文化財の活用・給湯施設・耐震補強
・設備について（冷暖房について・省エネ照明器具
・その他（二階大広間・前橋公園側からの出入り・使用料の徴収・庭園内の小川について・ライトアップについて・雛人形の飾り付けについて）

②　第２回前橋市江閣整備活用検討委員会

ア　開催日及び会場　平成23年8月31日
臨江閣別館南側和室

イ　出席者

〈委員〉　村田委員、清水委員、千木良委員、齋藤総務課長、中西教育施設課長、

〈事務局〉文化財保護課

〈その他〉総務課：高橋課長補佐、戸嶋主任
教育施設課：鈴木主任

ウ　内容　事務局より第１回委員会会議の協議内容確認後、前橋観光ボランティア会・前橋茶道会で意見を取りまとめしておいてもらいその内容について協議・検討を加えた。

主な意見

・臨江閣の使い勝手について。
・工事予定について

臨江閣での検討委員会

(3)　前橋市臨江閣整備委員会

臨江閣を末永く保存整備し、積極的な利活用を図っていかなければならない。そのため、本市を代表する近代和風建造物である臨江閣の整備について、文化財保護、建造物調査、整備工事等の専門的な見地から検討し、及び協議を行う。

①　第１回前橋市江閣整備委員会

ア　開催日及び会場　平成23年10月27日
臨江閣別館南側和室

イ　出席者

〈委員〉梅沢委員長、村田委員、松野委員、樽井委員、(オブザーバー)群馬県文化財保護課飯塚文化財活用係長

〈事務局〉田中管理部長、中西教育施設課長、公園管理事務所上野維持管理係長、文化財保護課

ウ　内容　事務局より経緯、整備内容、事業計画、今後の委員会の予定を説明し、その内容について協議・検討を行った。

主な意見

・コンサルの選び方

・耐震構造等について

・工事現場説明会、ホームページに委員会報告を載せる。

② 前橋市江閣整備委員会による臨江閣別館内部調査

ア　開催日及び会場　平成23年11月23日
臨江閣別館

イ　出席者

〈委員〉村田委員、松野委員、内田委員

〈事務局〉文化財保護課

ウ　内容　別館屋根裏に入り内部の老朽化等の現状把握や耐震補強の方策に関連して内部構造の確認を行った。

別館での調査

③ 第２回前橋市江閣整備委員会

ア　開催日及び会場　平成24年2月21日
中央公民館５６学習室

イ　出席者

〈委員〉梅沢委員長、村田委員、松野委員、樽井委員

〈事務局〉田中管理部長、中西教育施設課長、総務課高橋補佐、公園管理事務所上野維持管理係長、文化財保護課

ウ　内容　事務局より第１回委員会会議の協議内容、整備活用基本計画案についての説明があり、その内容について協議・検討を行った。

主な意見

・国指定文化財の可能性もある。

・バリアフリーについて。

・出入りについて

第２回整備委員会の様子

(4)　保存修理事業

① 臨江閣保存修理事業

平成２２年度から３年計画で本館と茶室の保存修理を行うものである。２年目の今年は本館車寄せ両脇土台改修工事・銅板屋根改修工事・茶室工事及び雨戸・硝子戸・雨樋の改修を行った。内容はこのまま放置すると危険な状態であるため、車寄せ両脇土台の取替え・銅板屋根の一部張替えやたたき直し・戸の調整・雨樋アンコウの交換、そして、茶室床の間の壁塗り替えを行った。

ア　工事概要
車寄せ両脇土台改修工事
銅板屋根改修工事
茶室補修工事
雑工事

イ　事業費　3,299,100円
(内訳)
県補助金　1,099,000円
市負担金　2,200,100円

② 上野総社神社保存整理事業

本殿屋根のこけら葺きの損耗が顕著であることや壁画の剥落等の劣化が生じていることから補修を行うもので、４年計画事業の３年目である。

ア　工事概要
仮設工事、屋根工事（既存葺材解体・処分等）

イ　事業費　7,511,700円
(内訳)
県補助金　5,258,000円
市負担金　1,126,000円

③ 石灯籠保存修理事業

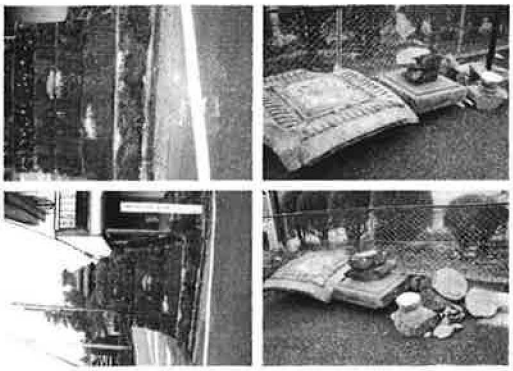
本文化財は平成２３年３月１１日東日本大震災により被災し倒壊した。その後同年４月２６日に前橋市文化財調査委員による緊急調査を行ない、修理に向けての方向性を出した上、６月に地元自治会により修理が行なわれた。しかし

ながら、耐震補強が不十分であったため、再度、市教委の主導の下、１０月より耐震工事を実施。平成２４年２月３日調査委員会議での報告をもって工事完了の承認を受け完了に至った。

ア　工事概要

補強工事（基壇と灯篭のアンカー固定等）

イ　事業費　　288,897 円



被災した石灯籠

修復・耐震補強工事完了直後の様子

④ 宝塔山階段整備・大室付替え道路整備事業

古墳北側にある石階段及び石積が経年により崩れかけているため、改修工事を行った。

ア　工事概要

階段の不陸調整と階段脇の石垣の改修

イ　事業費　　1,197,000 円

また、大室古墳資料館用地に隣接する民有地への進入路の整備を行った。

ア　工事概要　　道路の整備

イ　事業額　　1,816,500 円

(5)　文化財めぐり等案内板の整備

① 市指定文化財説明板等の建替等

劣化により読めなくなった箇所の説明板の建替・書替、標柱の書替を行った。

ア　工事概要

亀塚山古墳、前橋藩刑場跡供養塔ならびに道しるべ、石製鴟尾・根巻石・塔心礎の説明板の建替

金冠塚古墳、前橋天神山古墳の説明板の書替

前橋藩刑場跡供養塔ならびに道しるべ、上野国山王廃寺塔心柱根巻石の標柱の書替

イ　事業費　　1,281,000 円

② 地区の文化財めぐり案内板の書替

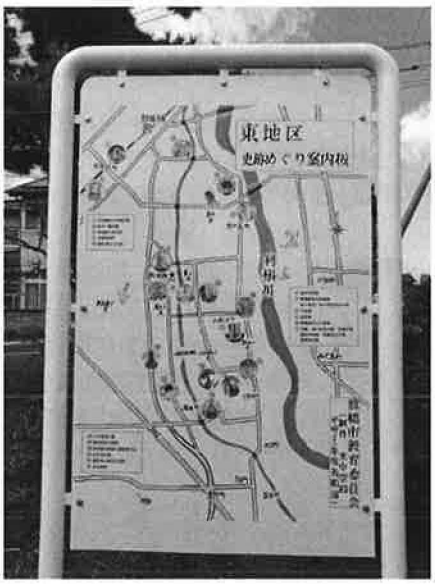
桂萱及び東市民サービスセンター内に設置してある地区の文化財めぐり案内板の老朽化に伴い、書替を行った。あわせて宝塔山古墳の標柱の書替を行った。

ア　工事概要

案内板の原画を桂萱中学校及び東中学校美術部に原画の製作を依頼し、書替工事を行った。

イ　事業費　　273,000 円

桂萱地区文化財めぐり案内板



東地区文化財めぐり案内板

3　普及事業

(1)　前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎の連携文化財活用事業の第５年次にあたる本年度は、「東国千年の都」文化財展のテーマを２部構成として開催した。

① 内　容

第一部

『いい顔してるね。－出土品にみる顔の世界－』と題し、子孫繁栄を祈る顔（土偶）や王の墓を邪悪なものから守る顔（埴輪）、国の安寧を託された顔（仏像）など、さまざまな「顔」が表現されている出土品を紹介した。

第二部

『古代の寺・役所、探しています』と題し、前橋市の山王廃寺跡の調査や、高崎市で実施予定の多胡郡衙（役所）の確認調査など、両市におけるプロジェクトを紹介した。

② 期日・会場

・前橋会場　平成24年１月７日～16日
　　前橋プラザ元気21

・高崎会場　平成24年１月21日～30日
　　高崎シティーギャラリー

③ 結　果

来場者数は総計で3,610人であった。うち前橋会場は2,524人であった。

前橋会場のアンケート結果では、この文化財展の感想として「興味深いテーマだ」90.4%、「展示されていた遺跡を訪ねてみたい」82.1%、「もっと続けてほしい」83.9%（回答者218人の複数回答）と好評を得た。

(2)　第39回前橋市郷土芸能大会

① 日　時　平成２３年１１月１９日（土）

② 会　場　前橋市民文化会館　小ホール

③ 内　容

前橋市内の５団体に、近隣市町村からの招待団体を加えた計６団体の公演が繰り広げられた。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ、恒例となっている。

今年度は、桐生市教育委員会を通じて出演の推薦依頼をし、同市指定重要無形民俗文化財「涌丸獅子舞」に出演いただいた。

また、恒例行事の一つとなっている抽選会も実施した。これは大会に余興的な要素を持たせつつ、最後の公演まで活気を持たせ、より多くの方に来場いただくというねらいで実施している。

今回は市内外２１の企業・団体からご協賛を頂き、90本近い当選本数で、盛大に開催することができた。さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行った。

これらの取組みにより、公演ごとの観客の増減が少なくなり、最後まで多くの観客を維持することができた。（延べ580名入場）

大会全体の所要時間は、各出演団体の協力により、ほぼ時間通りに進めることができた。今後も、よりスムーズな進行に向け、工夫と努力を重ねたい。

郷土芸能の名称	保　存　会　名	所在地
前橋鳶木遣り	前橋鳶伝統文化保存会「華粋会」	城東町二丁目
江田鏡神社の獅子舞	江田町獅子舞保存会	江田町
青柳の祇園	青柳町郷土芸能保存会	青柳町
涌丸獅子舞	涌丸獅子舞保存会	桐生市黒保根町
植野稲荷神社太々神楽	植野稲荷神社太々神楽保存会	総社町植野
込皆戸操り人形式三番叟	込皆戸三番叟保存会	粕川町込皆戸

公演の一場面

(3)　普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始した。平成23年度は、９月と３月に実施、このうち第１回目は、宮城地区の赤城南麓の歴史文化に触れる探訪で鼻毛石の豪族北爪氏との関係が深い赤城寺や１７世紀末と推定され、県内最古の民家の１つで国指定重要文化財である阿久沢家住宅及び境内に数多くの文化財が点在している金剛寺等を拝観した。第２回目は富士見地区の身近な歴史を学ぶ旅で、赤城街道歴史めぐりと題し火災に遭いながらも災難を逃れた仁王像がある

安楽寺や東国花の寺100ヶ寺の１つである珊瑚寺及び地域の信仰史を語るものとして貴重な西原の阿弥陀座像及び上毛かるたにもあり県史跡である船津伝次平の墓を、また途中予定コースではないが赤城の大鳥居の前の鳥居である小暮神社の旧小暮一の鳥居にも立ち寄った。普段見ることの出来ない建物内部を見て回ることが出来て貴重な体験をした。

〈第１回目〉
日時　９月３０日（金）13時30分～17時
案内　赤城寺副住職・金剛寺住職・前橋市文化財保護指導員
参加者　２３名
コース　赤城南麓の文化財めぐり
「文化財の魅力に触れる散策紀行」

赤城寺 → 阿久沢家住宅 → 金剛寺

〈第２回目〉
日　時　３月１５日（木）13時30分～17時
案　内　安楽寺住職・珊瑚寺住職・前橋市文化財保護指導員
参加者　２３名
コース　身近な歴史を学ぶ旅
「赤城街道歴史めぐり」

安楽寺　→　珊瑚寺　→
西原の阿弥陀座像及び船津伝次平の墓

小暮神社（旧小暮一の鳥居）の見学風景

② 出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として授業を行うものである。

依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、延べ１６校９５２名に対応した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名　学年	実施内容（実施場所）
4/27	桃井小６年	総社二子山古墳見学
5/20	滝窪小６年	土器づくり
5/25	伊勢崎宮郷第二小　４年	大室古墳群見学
6/15	桃井小　６年	勾玉造り
9/13	群大附属５年	前橋城・臨江閣関係
9/13	粕川小６年	大室古墳群見学
10/14	粕川小４年	昔の道具・くらし
10/20	城南小４年	前橋城・臨江閣関係
11/11	桃瀬小６年	前橋空襲について
1/18	月田小４年	昔の道具・くらし
1/20	大胡小３年	昔の道具・くらし
1/27	宮城小３年	昔の道具・くらし
2/7	春日中１年	広瀬朝倉地区の古墳
2/8	滝窪小３年	昔の道具・くらし
2/10	大胡東小３年	昔の道具・くらし
3/9	朝倉小３年	広瀬朝倉地区の古墳と勾玉造り

勾玉作りの様子

③ 文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料のか貸し出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
・青白磁渦文瓶 元総社蒼海遺跡群(25)出土	群馬県立歴史博物館
・獅噛環頭大刀柄頭 大胡地区出土 ・金銅製椎柄頭 初室古墳出土	高崎市

・山王廃寺伽藍指定復元図 ・宝塔山古墳の石室と石棺写真	㈱山川出版社
・山王廃寺関係 女性頭部像写真	㈱吉川弘文館
・郷土芸能ＤＶＤ 春日神社太々神楽	エフエム群馬
・「日輪時十一面観音」写真	㈱ロム・インターナショナル
・東照宮尊影　絹本着色写真	群馬県広報課
・絵図データ　４点 （再築前橋城・廃城期前橋城・松平時代の前橋城・酒井氏時代の前橋城）	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

④　職場体験学習

今年度は、２件の依頼があった。そのうち１件は高校からの依頼を受け入れた。

実施概要は以下の通り。

○9/12～9/14　桂萱中学校　第２学年　９名

○10/11～10/14　群馬県立前橋商業高等学校　第１学年　４名

⑤　出張事業・出前講座

○講師派遣

指定文化財や遺跡などについて市民が理解を深められるよう、本課職員や各資料館解説員、市民

ボランティアが案内を行なった。

・対応団体　　２１団体

・参加者延べ人数６７７人

・説明、案内箇所等

大室古墳群、臨江閣、粕川歴史民俗資料館等

○出前講座（生涯学習課事業）

本課として３つの講座を設定しそれぞれ実施した。状況は以下の通り。

ⅰ.「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」　２団体　２２７名

ⅱ.「古代の東国に咲いた華　山王廃寺」　３団体　８３名

ⅲ.「文化財のあらましと保護行政について」　１団体　１８名

⑥　講座　前橋の文化財

文化財ボランティアの養成を目的とし、一般から受講者を募集して開催、各回土日の午前中を開催時間とし、室内での座学と野外学習を交互に行った。

延べ292名、一回当たり平均24名が受講した。

初年度であったので、初歩的で広範な内容となった。

今後、実際のボランティア活動へ結びつく内容に充実させていくことが必要となる。

○日程・内容

月日	内　容	講師※敬称略
7/10	女堀と二宮赤城神社	能登　健
7/16	女堀を歩く	小島 敦子
7/24	赤城山の自然と文化	職 員
8/7	覚満渕を歩く	片山 満秋
8/28	総社古墳群と山王廃寺	右島 和夫
9/4	秋元氏の足跡を歩く	関口 淳七
9/17	中世の城館ネットワーク	飯森 康広
9/25	前橋城を歩く	職 員
10/16	前橋の古墳を探る	職 員
10/23	大室古墳を歩く	大室古墳の語り部
11/6	市民解説ボランティアの楽しみ	千木良 玄
11/13	前橋の近代化遺産を歩く	原田 恒弘

※敬称略

講座での野外学習（龍海院）

⑦　普及資料作成

○前橋の文化財の作成

市内の文化財を紹介する「前橋の文化財」の改訂版を平成11年の増補版以来、12年ぶりに作成した。作成部数は3,000部である。

市内の代表的な文化財約250点を19のテーマに分けて、興味のあるテーマから見られるように編集した。

文化財保護課及び前橋観光コンベンション協会にて１部500円で販売している。

新版「前橋の文化財」

⑧　総社神社本殿保存修理工事現場見学会

群馬県指定重要文化財上野総社神社本殿では、２３年ぶりに５カ年計画（平成２１年度～）で屋根の葺き替えや彩色の補修などの大きな工事が行なわれている。

この機会に、昔から受け継がれてきた建築技術や工法などを一般市民に見学していただき、文化財の修理について知っていただくと共に広く文化財の普及・啓発に努めていくために見学会を実施した。

○実施日時
　平成２４年３月１５日（木）
　　１３：３０～１６：００
○場所　　総社神社本殿
○共催　　総社神社、文建協
○参加人数　２０名

本殿屋根を間近に見ての説明の様子

(4)　公民館・資料館連携事業

歴史や文化財に関する体験学習や文化財の見学等を各公民館や資料館と共同で開催し、市民が郷土の文化財に直接触れ楽しみながら歴史を学習することを目的に実施した。

講師として本課職員や外部依頼講師が対応した。

	日時・主催	内　　容	参加数
1	平成23年 ８月３日 9:30～11:30 城南公民館	城南公民館　少年教室「勾玉作り教室」 会場：城南公民館 講師：本課職員	小学生 20人
2	平成23年 ８月10日 9:00～11:30 城南公民館	城南公民館　少年教室「大室古墳公園めぐりお火おこし体験」 会場：大室公園 講師：大室古墳の語り部、本課職員	小学生 20人

(5) 大室古墳群公開・普及イベント2011
　　“おもしろイベント！　古墳探検”

①　趣　旨

平成16年に整備事業の完了した大室古墳群を歴史遺産として広く市民に周知し、活用促進を図り、もって文化財の愛護精神の高揚を図ることを目的に開催した。イベントでは、市民ボランティア解説員「大室　古墳(つか)の語り部」による古墳見学会をはじめ各種体験イベントやスタンプラリーなどを行った。

②　開催日

平成２３年６月１２日

③　内　容

ア　市民ボランティア解説員の会「大室　古墳（つか）の語り部」による古墳案内
イ　古墳めぐりスタンプラリー
ウ　体験コーナー（まが玉づくり、火おこし体験、座繰り体験、桑の木細工）
エ　「ふかしまんじゅう」をつくろう（宮城ふかしまんじゅう愛好会）
オ　観光物産品の販売

④　開催結果

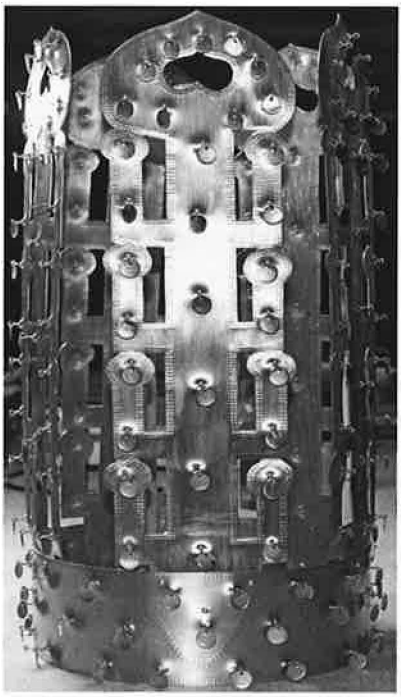
当日は、好天に恵まれ2,100人以上もの見学者及び参加者があった。アンケートにも「来年度以降も継続して開催して欲しい」などの意見があり、イベント開催については好評であった。

体験イベントの様子

(6)　前二子古墳石室復元市民プロジェクト

市民ボランティアの手により、国指定史跡・前二子古墳の石室を、発掘当時 1878 年の状態に復元する。

平成 18 年度から 20 年度までの第 1 期、平成 22 年度から 24 年度を第二期として事業を実施する。今年度は山王町にある金冠塚古墳から出土した冠を制作した。



制作した冠

① ８月２２日
実行委員会総会
・委員８名、監事１名、顧問１名

② ９月１５日～１０月１０日
広報まえばし、ホームページ等でボランティアを募集
・２６名の応募

③ １０月２９日
オリエンテーション
・「大室　古墳の語り部」による古墳案内、活動内容の説明他

④ １１月３日～１６日
冠制作ワークショップ
・会　場　総合福祉会館　造形創作室
・制作数　27 点

⑤ １２月１日～２７日
制作品の展示
・会　場　総合教育プラザ３階企画展示室

⑥ ２月２６日
完成記念考古学講演会
・会　場　総合福祉会館　２階ホール
・講　演
「古墳時代後期における朝鮮半島と東国　―金冠塚古墳の冠を通して―」
右島和夫先生（県文化財保護審議委員）
・参加者数　150 名

(7)　大室古墳群市民ボランティア解説員の活動

市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し、市民ボランティア解説員の会「大室　古墳（つか）の語り部」が活動を開始し６年目となった。

春から秋にかけての定例説明会、また、団体・個人からの見学依頼を受けての案内のほか、大室イベントへの協力や、まが玉づくり教室の開催など、今年も積極的な活動を行った。

また、年度末には今年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。

① 古墳見学会（夏季特別教室含む）
○定例説明会
（５月～１０月の主に第１土曜日）
９時 30 分から 11 時頃までを受付時間、民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けするなどして案内。一周一時間程度。
見学者　計６３名

② 学校・一般団体等の案内
・８団体へ実施
見学者　計１７０名

③ 各イベント等への協力（古墳案内）
・ ６月１２日　大室古墳群イベント
見学者　計３０名

古墳案内の様子

(8)　文化財保存団体への育成補助

総社地区および荒砥地区において、その地内に残る文化財の説明板や標注の設置を継続的に行っている団体や、市内各所で活動している郷土芸能保存団体に補助金を交付した。

また、県指定文化財「上野総社神社本殿」をはじめ、市指定文化財「酒井家歴代墓地」や「大前田諏訪神社獅子頭」に関して、参拝者や見学者の安全の確保や文化財の保存と継承を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

○総社地区史跡愛存会
○荒砥史談会
○横室歌舞伎保存会
○前橋市郷土芸能連絡協議会
○宗教法人　総社神社
○宗教法人　龍海院
○大前田諏訪神社獅子舞保存会

(9)　文化財調査事業

①　近代和風建築総合調査

ア　調査の目的

前橋市内に残る近世以降の建築物について、文化財としての価値判断を行い台帳化を図ることを目的とする。(平成21年度からの3ヵ年事業)

イ　調査の概要

調査期間　平成23年７月～平成24年３月

調査対象　明治初年～昭和20年頃までに、日本の伝統様式・技法によって建てられた木造建築物。

調査方法　緊急雇用創出事業として前橋市教育委員会が調査主体となり、近代和風建築について専門的な知識を有する民間の団体に調査を委託して実施。

調査内容　平成21年度から平成22年度に行った第１次調査（悉皆調査）および平成22年度に行った第２次調査（第１次調査結果の精査並びに重要物件の平面図等の作成）の結果を報告書にまとめる。また必要に応じて補足調査を行う。

ウ　調査結果

昨年度までの実施結果を精査し、また必要に応じて細くで調査を行い、最終的に報告書としてまとめた。

②　山車・屋台総合調査

ア　調査の目的

前橋市内に現存する江戸・明治期の山車・屋台の調査を実施することで、貴重な山車・屋台の状況を把握し、さらに、それらをリスト化する事により、今後の保存活用の資料とするために実施。

イ　調査期間

平成２３年５月１９～８月２０日
※準備調査期間を含む

ウ　調査対象

江戸～明治期に創建された前橋市内に現存する山車及び屋台。

エ　調査について

今年度は、大胡町、下石倉町、上佐鳥町、駒形町、青柳町、富士見町横室において１３物件の調査を実施した。日本工業大学黒津教授の指導の下、図面作成のための基礎的なデータ収集及び写真撮影を行い、さらに地元の方の協力を頂いて組立も可能な限り実施し、実物に即したデータの収集にも努めた。

オ　今後の予定

実調査は今年度までとし、今後は、昨年度までの市内の山車屋台のデータを集約し、「前橋市の山車屋台の調査報告書」としてまとめていく予定である。

駒形町「上町」の山車調査

4　埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成２３年度の発掘調査をふりかえって

1）発掘調査事業

詳細は、平成23年度埋蔵文化財調査事業一覧表に掲載した通りである。発掘調査業務９件、整理業務２件で総数11件であった。内訳は、直営事業２、委託事業8、民民事業１である。発掘調査事業での調査面積は、13,847 ㎡で、直営3,000 ㎡、委託10,741 ㎡、民民106 ㎡であった。

① 元総社蒼海遺跡群（38）

８ヶ所の調査区の調査を行った。ほとんどの調査区からは、古墳～奈良・平安時代の集落が検出されている。この中で15区からは、古墳時代後期の集落と100個体近い土器と石製模造品を使った祭祀跡が検出された。重なった杯の出土状態から祭祀を行なった結果であるものと考えられる。また、この祭祀跡と重複して古墳時代前期の前方後方形周溝墓が検出された。

16区からは、榛名山噴火に伴う洪水層に覆われた古墳時代のミニ水田跡が検出された。また、洪水層の上部から古墳時代後期の6世紀後半の住居跡が検出された。

② 上野国府跡

平成23～27年度まで５ヵ年計画で上野国府範囲確認調査を開始した。現在、元総社蒼海地区の区画整理事業が進行中である。平成11年度に開始された区画整理事業も平成33年度に終了を予定しており、区画整理地内に10,000 ㎡強の公園の設置が計画されている。そこで出来うる限り公園用地の有効活用を図っていきたいと考えている。そのためにも、一日も早く、国府の中心施設である国庁跡を発見し、保存・活用する必要がある。

そこで区画整理地内の過去の調査歴、国府の中心施設が設置可能な広く平らな地形、地元に残された地名から区画整理地内に4カ所の推定地（案）を想定した。4ヶ所はA案～D案と名前をつけ、それぞれ調査を行って施設の有無について見極めていく計画である。

平成23年度は、有力視されるA案についての調査を行ったが、結論として　　はこの案の区域には国庁の存在の可能性が低いことが判明した。それは、A案区域について、範囲確認調査と区画整理がらみで発掘調査を対象に広範囲に実施した。しかし、ここからは古墳時代や奈良・平安時代の集落、蒼海城の堀跡が検出されたに過ぎず、国府の施設は検出できなかった。ただし、古代の大溝が１条検出されており、この溝については今後引き続き分析を加えていく必要がある。

③ 元総社蒼海遺跡群（39）

元総社蒼海遺跡群（32）と（37）に挟まれた調査区からは、奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。樹木移転などが完了しないため、調査は平成24年度まで継続され、年度をまたぐこととなった。

④ 前橋城（三の丸門東地点）

三の丸にあたる部分から堀跡と石垣が検出された。石垣の石には記号や漢数字の墨書が検出された。石垣の工事の際に書かれたものであり、積み石の工程を探る上で興味深いものである。

⑤ 大渡道場遺跡

調査の結果、6世紀の水田跡、畠跡、平安時代の住居跡、中世の多数の遺構、遺物が発見された。この中で常滑産の蔵骨器には「女」と刻書されていた。また、中世の溝から572枚の備蓄銭が６サシの状態で出土した。銭種は41種、約2kgの重量であった。

⑥ 朝倉工業団地遺跡群

端気川を挟んでの調査となった。左岸からは奈良・平安時代の集落、浅間Ｂ軽石に覆われた平安時代の水田跡、榛名山火山灰に覆われた古墳時代の水田跡が検出された。右岸からは古代の溝や古代の集落が検出された。官衙を思わせるような特徴的な土器や遺物が検出された。

⑦　朝倉伊勢西№2 遺跡

№1に隣接した調査であったが、№1に比べ遺構数が各段に増加した。№1と同様に奈良・平安時代の集落のほか、東の調査区では粘土採掘坑、西の調査区で溝や堰跡が検出された。

⑧　総社稲荷塚大道西№2 遺跡

小さな範囲の調査であったが、10軒を超える住居跡落が見つかった。

⑨　総社町屋敷南遺跡№2

宝塔山古墳の周堀の調査を行った。周堀の底面から調査の結果、畝跡や工作痕が多数検出された。古墳の規模は、墳丘長50m、周堀を含めた規模は90mとなる。

2）遺跡台帳整備事業

文化財保護法第95条に規定されている埋蔵文化財包蔵地を把握し、周知するための遺跡分布地図作成業務が、平成15年度より開始された。具体的な方法は、悉皆的に現地踏査を行い、かつ過去の調査データ、文献の洗い出し作業である。調査は前橋市全域を対象とし、後に合併範囲を加え、16ブロック（旧前橋12、旧町村4）に区分した。調査にあたっては、さらに1ブロックを一筆毎に分けて遺物採集や地形観察など現地踏査で行なってきた。

【遺跡台帳整備年次計画】

平成15年度　城南地区踏査
平成16年度　元総社・総社・清里地区踏査
平成17年度　桂萱・永明地区踏査
平成18年度　南橘・芳賀地区踏査
平成19年度　東・上川淵・下川淵地区踏査
平成20年度　大胡・城南地区踏査
平成21年度　富士見地区踏査
平成22年度　旧市内の遺跡地図素図完成
平成23年度　前橋・大胡・宮城・粕川地区遺跡分布地図の線引き
平成24年度　富士見地区遺跡分布地図作成、遺跡分布地図印刷・配布

具体的には以下の流れとなる。

(1)　昭和9年、昭和43年の現形図を現在の地図枠に合わせる。約270枚
(2)　踏査成果図の作成。遺物点数区分を図化。約150枚
(3)　個別遺跡カードの作成
(4)　遺跡カードのデータベース化
(5)　個別遺跡カードを元に地図に発掘調査区域を記入。約2,000遺跡
(6)　(1)～(5)の地図を総合して遺跡範囲を線引きした素図を作成
(7)　素図を再点検し、印刷原稿作成
(8)　前橋市遺跡分布地図の印刷・刊行
(9)　これとは別に遺跡全体図集成作業を1/2,500の地図に編纂
(10)　採集遺物のうち重要品について分別し図化作業

なお、隣接市町村はすでに遺跡分布地図が出来上がっているため、隣接する市町村との調整も必要となってくる。

3）遺跡資料整備事業

本事業は、埋蔵文化財発掘調査によって記録された各種資料や出土遺物等を活用を目的で整備を行い、その成果を広く市民に公開することが目的である。また、図面、写真、報告書について収蔵はもとよりデジタルアーカイブも目的としている。

平成23年度については以下の作業を行なった。

・貸出用資料の準備
・埋蔵文化財の展示や貸し出し
・各種パンフレットの作成

・富士見地区発掘調査要覧作成
・発掘調査報告書の pdf 化
・遺跡発掘調査写真のデジタル化
・中央書庫を新設し、郷土コーナーを設置
・上野国府関連遺跡文献目録の作成
・上野国府関連出土品図録の作成
・上野国府関連遺跡の遺構・遺物収集・分析　　を実施した。

埋蔵文化財の貸し出し展示は、けやきウォーク１階、サンデンフォレスト森の教室、文化財保護課玄関、粕川歴史民俗資料館、総社資料館、大室公園公園管理事務所ホール、公民館や小・中学校のほか、平成 23 年度は富士見公民館の文化祭にあわせて富士見地区の縄文土器を展示した。資料の貸し出しは出土品をはじめ写真などを依頼に応じて行なった。

普及パンフレットは、「い・せ・きワールド in 前橋」A4 版４頁、「大室古墳群」A4 版 20 頁、「山王廃寺跡」A4 版 16 頁、「上野国府跡」A4 版４頁を発行した。

発掘調査遺跡要覧は、富士見地区で実施した緊急発掘調査のうち未報告遺跡の整理を行い調査要覧を作成した。その目的は、基礎資料にするとともに普及啓発の資料とした。具体的な作業の内容は、遺物については、注記、接合、実測、トレース、拓本、版組、写真撮影を行なった。遺構図面に関しては、全体図作成、遺構図作成など行った上で、編集、校正を行い、pdf ファイル化を図った。

要覧作成にあたっては、１遺跡６頁程度を基本とし、一覧表・発掘調査抄録・解説文など 2.5 頁、位置図・周辺図・グリッド図・遺構全体図で２頁、遺構全景写真・遺構写真・遺物写真で 1.5 頁とした。なお、平成２３年度については富士見地区を作成した。あわせて王山古墳の埴輪類の整理、前二子古墳の副葬品の整理、柳久保遺跡群旧石器、内堀遺跡群旧石器報告書のインデザイン編集も行った。

今後、報告書が未刊行の前橋天神山古墳や山王廃寺第１次、昭和 54～56 年度の富田遺跡群・西大室遺跡群・清里遺跡群・鶴谷遺跡群についても整理を取り組んでいかなければならない

【調査要覧掲載遺跡数】

大胡地区…68、宮城地区…17、粕川地区…89、富士見地区…17　合計 191 遺跡

【要覧作成年次計画】

平成 18 年度　大胡地区要覧（１）・60 遺跡、PDF で編集しＣＤ化
平成 19 年度　大胡地区要覧（２）・８遺跡、PDF で編集しＣＤ化
平成 20 年度　宮城・粕川地区要覧（１）・50 遺跡、PDF 編集しＣＤ化
平成 21 年度　宮城・粕川地区要覧（２）・56 遺跡、PDF 編集しＣＤ化
平成 22 年度　平成 20・21 年度の継続
平成 23 年度　富士見地区要覧・17 遺跡、PDF 編集しＣＤ化

このほか、発掘調査報告書 211 冊の pdf 化、山王廃寺、王山古墳、天神山写真の 35 ㎜フィルムのデジタル化も行なった。

4）開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議が合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均 150 件以上、年間にして 2,000 件もの協議に対応した。このうち 1,000 ㎡を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数 47 件であり、このうち調査に移行したものは２件であった。このほか立会調査が 34 件であった。今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の刊行再整備とＧＩＳ活用を早急に進める必要がある。

5）遺跡ＧＩＳ業務

国庫補助事業として、平成２０年度～２４年度の５ヵ年事業として実施中である。前橋市統合型遺跡 GIS 業務に遺跡地図を掲載し、開発部局との調整に際して、多くの遺跡の保存を図っていきたい。

平成２０年度データ項目入力作業、（156 遺跡と指定文化財）
平成２１年度　　データ項目入力作業、城南・大胡・粕川地区遺跡範囲の線引き
平成２２年度　　データ項目入力作業、遺跡範囲の線引き
平成２３年度　　データ項目入力作業、遺跡枠の色塗り
平成２４年度　　データ項目入力作業

(2) 平成２３年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺　跡　名	コード	代表地番	調査面積	方式	調査原因	調査期間
1	元総社蒼海遺跡群（38）	23A130-38	総社町総社 3598-3	3,000	直営	区画整理	23/5/10～23/12/21
2	上野国府跡範囲確認調査	23A147	元総社町 2025	309	直営	範囲確認	23/7/25～23/12/22
3	元総社蒼海遺跡群（39）	23A130-39	総社町総社 3097	828	委託	区画整理	24/3/10～調査中
4	前橋城（三の丸門東地点）	23H54	大手町 2-3-1	248	委託	解体工事	23/5/11～23/6/20
5	大渡道場遺跡	23A144	大渡町 2-3-5	1,110	委託	新築移転工事	23/4/19～23/6/21
6	朝倉工業団地遺跡群	23G74	下佐鳥町 20	6,365	委託	区画整理	23/5/25～23/8/19
7	朝倉伊勢西No.２遺跡	23G71-2	朝倉町 145	1,684	委託	道路改良工事	23/10/21～24/1/23
8	総社稲荷塚大道西No.２遺跡	23A132-2	総社町総社 3026	106	民民	鉄塔建設	22/9/26～23/10/25
9	総社町屋敷南遺跡No.２	23A139	総社町総社 1602-2	197	委託	道路改良工事	23/6/6～23/8/10
10	元総社蒼海遺跡群（37）	23A130-37	総社町総社 3099	整理作業	委託	区画整理	22/12/1～23/3/28
11	朝倉伊勢西No.１遺跡	22G71	朝倉町 147	整理作業	委託	道路改良工事	23/7/14～23/10/31

(3) 平成２３年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報　告　書　名	遺　跡　名	発　行　者	発行年月日	備　考
1	総社町屋敷南遺跡	総社町屋敷南遺跡２	前橋市教育委員会	2011. 8. 10	
2	南部拠点遺跡群No.６	南部拠点遺跡群No.６	前橋市教育委員会	2011. 9. 30	
3	朝倉伊勢西No.１遺跡	朝倉伊勢西No.１遺跡	前橋市教育委員会	2011. 10. 31	
4	前橋城（三の丸門東地点）	前橋城（三の丸門東地点）	前橋市教育委員会	2011. 11. 30	
5	大渡道場遺跡	大渡道場遺跡	前橋市教育委員会	2011. 12. 22	
6	総社稲荷塚大道西No.２遺跡	総社稲荷塚大道西No.２遺跡	前橋市教育委員会	2012. 1. 16	
7	朝倉工業団地遺跡群	朝倉工業団地遺跡群	前橋市教育委員会	2012. 2. 15	
8	山王廃寺	山王廃寺	前橋市教育委員会	2012. 2. 10	
9	山王廃寺　別冊	山王廃寺　別冊	前橋市教育委員会	2012. 2. 22	
10	元総社蒼海遺跡群（37）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2012. 3. 22	
11	元総社蒼海遺跡群（38）	元総社蒼海遺跡群	前橋市教育委員会	2012. 3. 18	
12	朝倉伊勢西No.２遺跡	朝倉伊勢西No.２遺跡	前橋市教育委員会	2012. 3. 27	

(4) 平成２３年度　試掘調査一覧表

	所 在 地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調　査　結　果
1	西善町	64. 17	個人住宅建設	4月5日	平安時代水田跡
2	稲荷新田町	2,244. 81	宅地造成	4月7日	平安時代水田跡
3	総社町高井	1,513. 00	コンビニエンスストア建設	4月13日	溝跡
4	日吉町三丁目	3,183. 00	中学校建設	4月18日～ 4月19日	平安時代水田跡の可能性
5	南町二丁目	2,198. 00	特別養護老人ホーム建設	4月21日	平安時代水田跡
6	元総社町	705. 19	医院建設	4月27日	平安時代住居跡、溝跡、土坑
7	田口町	5,000. 00	山頂部分の整地	5月12日	古墳時代終末期の円墳
8	樋越町	1,809. 00	宅地造成	5月16日	遺構の検出なし。縄文土器片

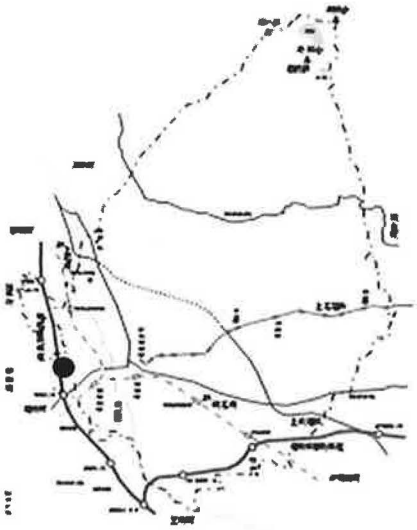
9	六供町	900.00	土地区画整理	5月17日～ 5月18日	遺構の検出なし。古墳時代前期土器片
10	富士見町時沢	1,355.00	集合住宅建設	5月23日	遺構の検出なし。土師器、須恵器
11	西大室町	1,200.00	道路整備	5月25日	遺構の検出なし。縄文時代前期石器剥片
12	江木町ほか	216,000.00	宅地造成	5月26日	埋蔵文化財検出なし
13	総社町総社	176.70	携帯電話無線基地局	5月31日	平安時代住居跡、溝跡、土器、瓦
14	大手町一丁目	842.27	保育園建設	6月6日	近世堀跡（前橋城堀跡）
15	力丸町	339.00	個人住宅建設	6月7日	埋蔵文化財検出なし
16	西大室町	4,781.00	有料老人ホーム建設	6月21日	埋蔵文化財検出なし
17	西大室町	1,035.57	集合住宅建設	6月22日	遺構の検出なし。中世土器片
18	上大屋町	1,300.00	道路築造	6月30日	埋蔵文化財検出なし
19	富士見町原之郷	2,208.00	宅地造成	7月5日	埋蔵文化財検出なし
20	川曲町	4,473.00	有料老人ホーム建設	7月7日	平安時代水田跡
21	五代町	2,900.00	有料老人ホーム建設	7月13日～ 7月14日	奈良・平安時代住居跡、溝、土師器、須恵器
22	飯土井町	500.36	個人住宅建設	7月26日	埋蔵文化財検出なし
23	田口町	1,937.52	知的障害者支援施設建設	8月2日	溝跡
24	総社町総社	375.00	土地区画整理	9月12日	溝跡
25	総社町植野	1,100.00	集合住宅建設	9月15日	埋蔵文化財検出なし
26	樋越町	2,093.41	宅地造成	9月20日	遺構の検出なし。縄文時代土器片
27	中内町	2,824.51	介護施設建設	9月22日	中世溝跡、埴輪片、中世土器、砥石
28	上新田町	1,609.00	介護施設建設	9月28日	平安時代水田跡、溝跡
29	富士見町原之郷	1,318.00	アパート建設	10月4日	遺構の検出なし。土器片
30	樋越町	2,998.00	宅地造成	10月13日	埋蔵文化財検出なし
31	富士見町時沢	2,697.00	宅地造成	11月4日	埋蔵文化財検出なし
32	荒子町	11,476.00	育雛舎・管理棟建設	11月24日～ 11月25日	埋蔵文化財検出なし
33	文京町四丁目	350.00	土地区画整理	12月1日	埋蔵文化財検出なし
34	東片貝町	2,640.00	有料老人ホーム建設	12月7日	埋蔵文化財検出なし
35	富士見町時沢	992.00	宅地造成	12月9日	埋蔵文化財検出なし
36	西大室町	436.62	鉄塔新設	12月20日～ 12月21日	埋蔵文化財検出なし
37	朝倉町一丁目	1,118.09	幼稚園建設	12月26日	遺構の検出なし。埴輪片
38	亀泉町	1,084.00	診療所建設	1月12日	遺構の検出なし。縄文土器片
39	南橘町	683.00	市営住宅建設	1月25日	埋蔵文化財検出なし
40	富士見町原之郷	1,291.24	アパート建設	1月30日	時期不詳溝跡
41	下新田町	1,960.00	宅地造成	2月2日	平安時代水田跡
42	宮地町	998.00	診療所建設	2月8日	平安時代水田跡
43	昭和町三丁目	2,056.00	高齢者向け住宅建設	2月16日	埋蔵文化財検出なし
44	粕川町室沢	3,378.92	道路築造	3月13日～ 3月15日	縄文時代晩期包含層、縄文土器
45	三俣町一丁目	165.61	個人住宅建設	3月22日	遺構の検出なし。土師器片
46	元総社町	512.00	土地区画整理	3月26日	平安時代住居跡・柱穴、中世溝跡
47	北代田町	4,815.00	宅地造成	3月28日	時期不詳溝跡

(5) 平成２３年度　立会調査一覧表

	所 在 地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調 査 結 果
1	総社町総社	1,282.00	店舗建設（ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ）	4月18日	埋蔵文化財検出なし
2	富士見町時沢	993.00	歯科医院建設	5月6日	埋蔵文化財検出なし
3	新堀町	－	看板建設（みなみモール）	5月9日	埋蔵文化財検出なし
4	新堀町	－	店舗建設（珈琲店）	5月13日	埋蔵文化財検出なし
5	新堀町	－	店舗建設（書店）	5月25日	埋蔵文化財検出なし
6	新堀町	－	店舗建設（書店）	5月27日	埋蔵文化財検出なし
7	富田町	－	道路側溝設置	5月30日	埋蔵文化財検出なし
8	六供町	268.00	個人住宅建設	6月22日	埋蔵文化財検出なし
9	新堀町	－	看板建設（みなみモール）	6月27日	埋蔵文化財検出なし
10	六供町	435.00	個人住宅建設	7月6日	埋蔵文化財検出なし
11	東金丸町	3,410.00	牛舎・堆肥舎建設	7月14日	埋蔵文化財検出なし
12	前箱田町	331.53	個人住宅建設	7月14日	埋蔵文化財検出なし
13	新堀町	1,000.00	店舗建設（化粧品店）	8月22日	埋蔵文化財検出なし
14	総社町総社	426.48	個人住宅建設	8月29日	埋蔵文化財検出なし
15	小屋原町	2,804.65	ドライブイン建設	8月29日	埋蔵文化財検出なし
16	総社町総社	20.00	道路改良工事	8月30日	宝塔山古墳関連の遺構
17	下佐鳥町	－	区画道路建設工事	9月2日	古墳時代、奈良・平安時代の水田
18	青梨子町	－	道路改良工事	9月8日	埋蔵文化財検出なし
19	富士見町横室	25.00	携帯電話基地局建設	9月15日	埋蔵文化財検出なし
20	新堀町		店舗建設（靴店）	9月16日	埋蔵文化財検出なし
21	粕川町女渕	1,200.00	道路拡幅工事	9月26日	埋蔵文化財検出なし
22	大友町三丁目	202.94	個人住宅建設	9月26日	埋蔵文化財検出なし
23	富士見町原之郷	1,298.00	道路改良工事	9月29日	縄文時代中期土器片、平安時代土器片
24	大手町一丁目	－	保育園建設	9月29日	前橋城堀跡
25	富士見町小沢	956.00	宅地造成	10月13日	埋蔵文化財検出なし
26	天川大島町一丁目	1,472.60	建売分譲住宅用地	10月20日	埋蔵文化財検出なし
27	駒形町	1,010.06	診療所建設	11月15日	埋蔵文化財検出なし
28	馬場町	2.00	携帯電話基地局建設	12月19日	埋蔵文化財検出なし
29	朝倉町一丁目	1,118.09	幼稚園建設	1月10日	埋蔵文化財検出なし
30	富士見町原之郷	2,479.17	ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ建設	1月24～25日	埋蔵文化財検出なし
31	六供町	1,200.00	駐車場整備	2月15日	平安時代水田跡
32	横沢町	215.00	個人住宅建設	2月24日	埋蔵文化財検出なし
33	新堀町	－	店舗建設（家具店）	3月19日	As-B層の堆積が不良のため畦畔は確認できず
34	昭和町一丁目	438.84	集合住宅建設	3月21日	埋蔵文化財検出なし

(6) 平成２３年度埋蔵文化財発掘調査の内容

① 元総社蒼海遺跡群 (38) (23A130-38)



遺跡位置図

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町、総社町総社
調査期間　平成23年5月10日から
　　平成23年12月21日まで
担 当 者　細野泰宏・藤坂和延・瀧澤重雄・並木勝洋・阿久澤智和
調査面積　3,000 ㎡

調査の経緯　平成23年4月22日付で前橋市長高木政夫(区画整理第二課)より、元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。これを受けて、平成23年5月10日から発掘調査を行なった。

調査の成果　元総社蒼海遺跡群(38)は調査地が点在するため調査区を1～15区に区分した。

遺跡群北東部の1、2、14～16区では古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡23軒、溝跡8条、土坑15基、竪穴状遺構2軒、井戸跡2基を検出した。牛池川沿いの16区からは古墳時代後期の水田跡が確認できた。また、多くの土器が集中して出土した祭祀跡が15区から検出された。

推定国府域北部の3～6区では古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡46軒、溝跡10条、土坑4基、土坑墓1基、井戸跡3基を検出した。4～6区を南北に走行する蒼海城の堀跡が検出された。3区では多数検出された竪穴住居跡の中からベルトの装飾品である丸鞆が検出された。

推定国府内の7区では古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡21軒、溝跡3条、土坑3基、道路状遺構1条、井戸跡7基を検出した。東西方向に走行する蒼海城の堀跡や古墳時代の竪穴住居跡、10世紀代の竪穴住居跡が確認された。国府に関係する遺構、遺物は見つからなかった。

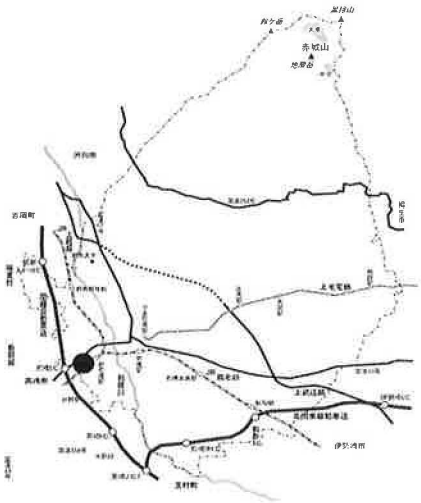
遺跡群南西部の8～11、13区では古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡14軒、溝跡10条、土坑19基、竪穴状遺構7軒、井戸跡3基を検出した。8区からは蒼海城の堀跡と竈構築材採掘坑が検出された。また、9区からは竈の構築材に複数の瓦が使用されている竪穴住居跡があり、その中から文字瓦2枚が確認できた。

15区　祭祀跡

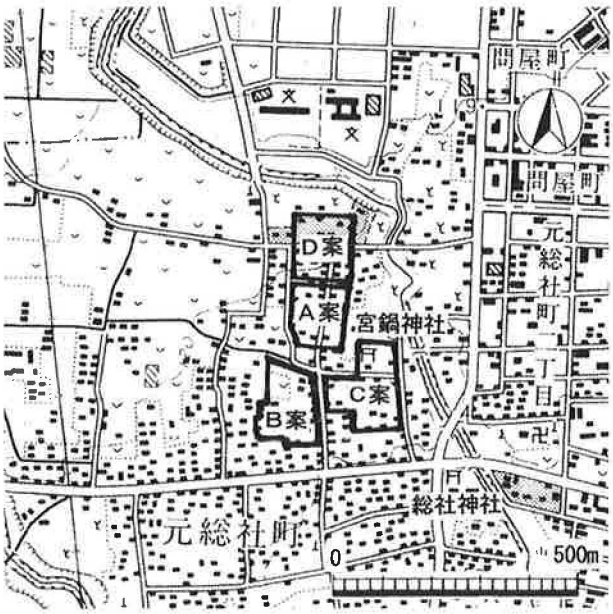
16区　古墳時代後期の水田跡

3区　丸鞆の出土状態

② 上野国府等範囲内容確認調査(23A147)



事 業 名　上野国府等範囲内容確認調査
所 在 地　前橋市元総社町2025番地ほか
調査期間　平成23年7月25日から12月22日まで
担 当 者　阿久澤智和・並木勝洋
調査面積　307㎡
調査の経緯　上野国府は前橋市元総社町付近に設置されていたと考えられているが、その中心施設である国庁のほか、その詳細が不明なため、平成23年度から5ヵ年計画で上野国府の概況を把握することを目的とした「範囲確認調査」を行うこととした。本年度はその1年次である。
調査の成果　平成23年度は「上野国府の国庁推定地」のA案周辺に9ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。



上野国府の国庁推定地4案

（1）A案北東部の調査
古墳時代の竪穴式住居跡3軒、平安時代の竪穴式住居跡4軒、溝跡1条、土坑1基、ピット3基を検出した。溝の時期については、覆土上部に浅間B軽石の堆積が見られたことや遺構との重複関係から、古墳時代以降から浅間B軽石降下以前であると考えられる。
（2）A案東部の調査
平安時代の竪穴式住居跡2軒、中世以降の溝跡1条を検出した。
（3）A案中央部の調査
古墳時代の竪穴式住居跡1軒、平安時代の竪穴式住居跡1軒、溝跡2条、土坑2基、ピット2基を検出した。溝跡については、近世以降のものと古墳時代から浅間B軽石降下以前のものであると考える。
（4）A案南西部の調査
古墳時代の竪穴式住居跡2軒、平安時代の竪穴式住居跡4軒、時期不明の竪穴式住居跡3軒、溝跡4条、井戸跡3基、土坑3基、ピット13基を検出した。溝跡については中世または中世以降が3条、残りの1条（6トレンチ　W－2号溝）については、覆土中位付近で道路として使用したことによって形成されたと考えられる硬化面が溝の平面を覆うような状態で確認された。また、下部では部分的に砂の水成堆積が確認されたことから、溝には水流もしくは水が溜まっていたことが考えられる。この溝の延長である元総社蒼海遺跡群(14)のW－32の覆土最上部で浅間B軽石の堆積が確認されていることから、浅間B軽石降下時にはこの溝はほぼ埋没していたと考えられる。

6トレンチ　W－2号溝（東から）

まとめ　今回調査したトレンチから上野国府に関係する遺構、遺物の検出はできなかった。「宅地」「長谷川」の地名を残すほぼ長方形の地割りは、中世の溝に囲まれた区画とほぼ一致しており、溝に囲まれた区画が現在の地割りに反映されていると考えられる。またA案の全域で中世面及び総社砂層への漸移層が確認できたが、南西部では表土直下が総社砂層であった。このことから蒼海城築城の際に広範囲に渡る造成が行われたと推測できる。

③ 元総社蒼海遺跡群(39)
(23A130-39)

工房址全景(西から)

遺跡位置図

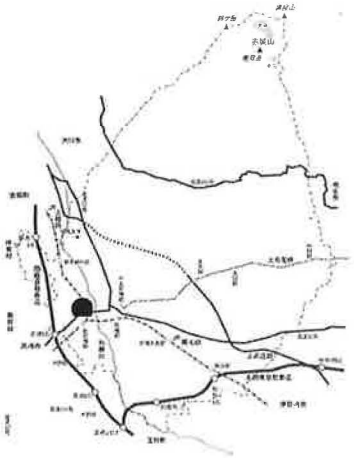
事業名　元総社蒼海土地区画整理事業
所在地　前橋市元総社町3097他
調査期間　平成24年3月10日から
平成24年6月29日まで
担当者　福田貫之(前橋市教育委員会)・伊藤順一(有限会社毛野考古学研究所)
調査面積　828㎡
調査の経緯　平成24年1月25日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成24年2月16日付けで前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　現在調査中ではあるが、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が確認されている。調査中ではあるが、竪穴住居跡は30軒を超えており、元総社蒼海遺跡群(27)・(28)・(32)・(37)と同様に、8～9世紀代にかけての竪穴住居跡が存在していないのが特徴的である。また、10世紀代に帰属する竪穴住居跡は工房址と推定され、小鍛冶の炉址と思われる箇所が検出されている。また、この遺跡の特徴としては、鉄鏃や小札等の武具の出土が比較的多いことが挙げられる。

小札出土状況

また、矩形に走行する中世の溝跡が検出されている。溝内は浅間B軽石の混土で覆われており、馬骨が出土している。矩形に走行する溝跡は過年度調査の元総社小見内Ⅲ遺跡で検出された遺構と繋がるようである。竪穴住居跡や溝跡等の詳細は報告書に委ねたい。

④ 前橋城(三の丸門東地点)
(23H54)

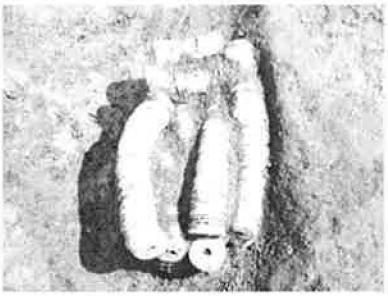
調査区全景(南から)



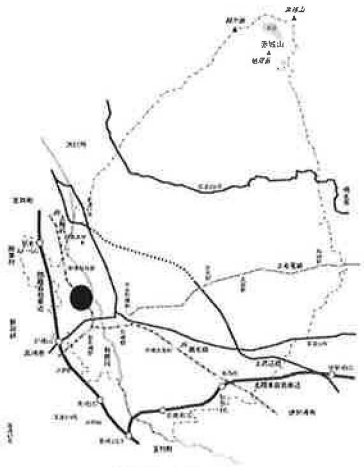
遺跡位置図

事業名　旧中央公民館解体工事
所在地　前橋市大手町二丁目3番1　他
調査期間　平成23年5月11日から
平成23年6月20日まで
担当者　福田貫之(前橋市教育委員会)・小林朋恵(株式会社シン技術コンサル)
調査面積　248㎡
調査の経緯　平成23年2月10日付けで前橋市管財課より旧中央公民館解体工事の際、隣接する駐車場の一部を掘削することが示された。当該地は、平成21年12月14・16日に群馬県教育委員会が実施した試掘調査により前橋城の堀跡が確認されているため、事前の発掘調査が必要な旨回答した。掘削を伴う解体工事は不可避なため発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織を導入して発掘調査を実施することとし、前橋市の合意も得られたため、市教育委員会の監理・指導の下発掘調査を実施することになり、平成23年5月9日付けで前橋市と㈱シン技術コンサルとの間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　平安時代以前の遺構として、竪穴住居跡が2軒検出された。また、平安時代の土器は近世の遺構からも一定量出土している。なかでも須恵器の稜碗や小型短頸壺、古瓦など仏教関連の遺物が出土していることが注目される。このほか、少数ではあるが埴輪・石器が出土している。近世前橋城関連では、再築前橋城三の丸外堀跡が東西方向に調査区を横断して検出された。この堀跡の南側に平行して道路状遺構とその北側の側溝である石組の溝跡が検出された。絵図から道路状遺構は酒井氏時代から存在する「十人小路」と呼ばれる道路であることが判明した。そのほか再築前橋城以前の掘立柱建物跡や井戸跡、多数のピットが検出された。三の丸外堀跡から出土した築石からは、「△」や「十一人口」、「八月　卯ノ六　八人遣」の墨書が確認された。本調査は短期間ではあったが、絵図や史料に恵まれ、豊富な成果を得ることができた。今後、前橋城に関して更なる解明が進むことを期待したい。

⑤　大渡道場遺跡(23A144)



貨幣出土状況(北から)



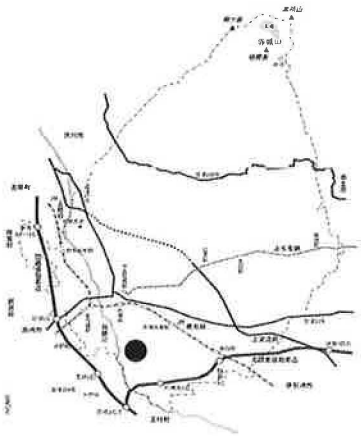
遺跡位置図

事業名　消防署新築工事
所在地　前橋市大渡町2-3-5
調査期間　平成23年4月19日から
平成23年6月21日まで
担当者　福田貫之(前橋市教育委員会)・伊藤順一(有限会社毛野考古学研究所)
調査面積　840㎡
調査の経緯　平成23年1月20日付けで前橋消防局西消防署移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成23年4月15日付けで前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果　発掘調査は遺構に影響を及ぼす庁舎棟と備蓄水防倉庫の2箇所について行なった。その結果、調査区からは、Hr-FA 降下直下の水田跡、Hr-FA 降下以後の畠跡、平安時代の竪穴住居跡8軒と溝、中世以降の掘立柱建物跡2棟と地下式坑1基、土坑23基、柱穴321基、井戸跡2基、火葬墓1基、貨幣埋納遺構1基、溝跡が確認された。このうち、10 世紀代と考えられる竪穴住居跡からは石帯（丸鞆）や鉄鏃が出土しており注目したい。中世に帰属する土坑は墓坑と思われ、このうち1基の墓坑からは、蔵骨器と思われる完形で「女」と刻書された陶器壺が埋設されていた。残念ながら、壺内の土壌からは人骨や人工遺物、動植物遺体は確認できなかった。また、中世に帰属する溝跡の底面から貨幣埋納遺構が検出された。備蓄銭は植物質の撚紐が通された「緡」の状態で六緡出土した。五緡は同一方向に折り重なるようにして密着しており、一緡は二つ折にされて近接して出土した。88～97 枚を一緡とし、総枚数は572枚、総重量は1982.78ｇを量り、銭種は41種に分類される。

本遺跡の周辺には県内最古級の城郭である蒼海城が存在し、東方には石倉城、南方に大友城が存在するなど、中世上野国の中核地域の一つであり、備蓄銭の出土は、これら城郭と共に考えると興味深いものである。

⑥　朝倉工業団地遺跡群(23G74)

調査区全景(南面から)

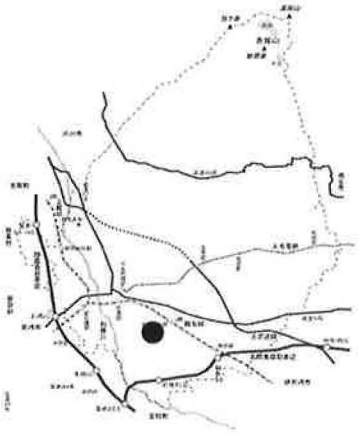


遺跡位置図

事業名　土地区画整理事業
所在地　前橋市下佐鳥町20番ほか
調査期間　平成23年5月25日から
平成23年8月19日まで
担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・和久拓照（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積　6,365㎡
調査の経緯　平成22年11月29日付けで前橋工業団地造成組合（以下前工団）より朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、平成23年1月11日～2月17日の期間に試掘調査を実施し、古墳時代後期及び平安時代の水田跡や古代の溝、住居跡などを確認した。この結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前工団と協議を行った。業務委託については、前工団の合意も得られたため、市教育委員会の監理・指導の下発掘調査を実施することになり、平成23年5月24日付けで前工団と㈲毛野考古学研究所の間で発掘調査業務契約を締結し、全体を3区に分け発掘調査を開始した。
調査の成果　1･2区においては、主として平安時代末期の水田跡が検出された。2区西部では、部分的な調査ながら、古墳時代後期の水田跡が検出された。3区においては、12 軒の竪穴住居跡が検出されが、ここは7世紀後半に集落設営のピークがあり、その後300年近くの空白期をはさみ10 世紀代に再び占地がみられるという、特徴的な盛衰をたどっている。また、同じ3区では、居館跡の一部をなす可能性が考えられる溝跡も検出された。遺物としては、3区の住居跡から、県内において数例の出土しかない三環鈴の鈴部破片や須恵器盤・高盤が出土した。三環鈴は、古墳の副葬品として出土する事例が比較的多く、本遺跡の北東に位置する広瀬古墳群との関連が想起される。多くの遺構や遺物から、本遺跡地は古代より地域の穀倉地帯としての機能を果たしてきた様子が窺える。

⑦　朝倉伊勢西№.2 遺跡 (23G71)

2区調査区全景(西から)



遺跡位置図

事業名　都市計画道路江田天川大島線道路改良工事

所在地　前橋市朝倉町145ほか

調査期間　平成23年10月21日から平成24年1月23日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・小林朋恵・小林一弘（株式会社シン技術）

調査面積　1,684㎡

調査の経緯　平成23年9月21日付けで前橋市より都市計画道路江田天川大島線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼書が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、平成23年10月12日付けで前橋市と株式会社新技術コンサル前橋営業所長との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果　前年度発掘調査を行なった朝倉伊勢西№.1遺跡を挟むように調査区は分かれる。前年度の調査区西側に隣接する1区からは竪穴住居跡71軒、掘立柱建物跡2棟、土坑75基、井戸跡7基、溝跡、柱穴等が検出された。前年度に低地部が検出された東隣に位置する2区では低地部から微高地への立上がりが検出され、微高上からは竪穴住居跡50軒、土坑30基、井戸跡6基、溝跡、柱穴、粘土採掘坑が確認された。1区の北側に位置する3区からは竪穴住居跡12軒、土坑3基、柱穴、溝跡が検出された。古墳時代に帰属する遺構は竪穴住居跡1軒、覆土下層にAs-Cが堆積する土坑1基等と少数である。一方、平安時代に属する遺構は群を抜いて多く、朝倉伊勢西№.1遺跡の低地部を挟んで東西に平安時代の集落が展開していたことが判明した。また、1区で検出された井戸跡は上位を石積で下位は木製部材を転用した木組みで構築されていた。科学分析の結果、部材は9世紀から10世紀にかけての伐採であることが判明した。部材は比較的大形であるため、転用以前の使用箇所や用いられた場所については、今後の課題となろう。今回の調査により、低地部東端からの微高地にも朝倉伊勢西№.1遺跡と同様な集落が営まれていたことが判明したことが大きな成果といえる。

⑧　総社稲荷塚大道西№.2 遺跡 (23A132-2)

調査区全景(南から)

遺跡位置図

事業名　携帯電話用無線基地局新設工事

所在地　前橋市総社町総社3026番

調査期間　平成23年9月26日から平成23年10月25日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積　106㎡

調査の経緯　平成23年5月17日付けで株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店より携帯電話無線基地局新設工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年5月31日に試掘調査を実施し、竪穴住居跡や溝を確認した。この結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、建設予定地の変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により民間調査組織に業務を委託するよう㈱ＮＴＴドコモ群馬支店に回答をした。民間調査組織への業務委託については、㈱ＮＴＴドコモ群馬支店の合意も得られたため、市教育委員会の監理・指導の下発掘調査を実施することになり、平成23年9月26日付けで㈱ＮＴＴドコモ群馬支店とスナガ環境測設㈱との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果　本遺跡の調査により、9世紀初頭から10世紀後半の竪穴住居跡8軒、竪穴状遺構1軒、溝跡2条、土坑9基、ピット23基が検出された。

本遺跡は、14世紀以後上野国を治めた長尾氏の居城である蒼海城の北側に位置している。築城の際の土木工事の影響を受けていると思われ、遺跡南側では砂質凝灰岩層まで削り取られた落ち込みが見られる。本遺跡と同様な土木工事が見られる遺構が、元総社蒼海遺跡群(17)の西通線調査区で見られる。今回の調査で平安時代の住居跡や中世のピットを検出し貴重な資料を得ることができた。

⑨　総社町屋敷南遺跡２
(23A139)

宝塔山古墳の周掘(北東から)

遺跡位置図

事業名　市道18-449、18-457号線道路改良工事

所在地　前橋市総社町総社1602番2

調査期間　平成23年6月6日から平成23年6月14日まで

担当者　福田貫之（前橋市教育委員会）・佐野良平（技研測量設計株式会社）

調査面積　197㎡

調査の経緯　平成21年7月3日付けで前橋市道路建設課より市道 18-449、18-457 号線改良工事に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、該当地が周知の埋蔵文化財包蔵地（宝塔山古墳）に属するため、前橋市と記録保存を目的とした発掘調査について度重なる調整を行った。平成23年5月11日付で前橋市より発掘調査依頼が提出され、これを受け、市教育委員会では直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織を導入して市教育委員会の監理・指導の下発掘調査を実施することになった。平成 23 年5月 30 日付けで前橋市と技研測量設計㈱との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果　宝塔山古墳の北東部にあたる周堀が確認され、その他中世以降の溝、土坑、ピット、耕作具痕が検出された。

宝塔山古墳に関しては、平成元年に白石太一郎氏らによる墳丘測量・石室実測調査、平成 20 年度に周堀と古墳範囲確定のための試掘調査、平成 21 年度に総社公民館建設に伴う発掘調査を実施するなど、墳丘や周堀の規模等を明らかにするための調査が行われてきた。

今回の成果により、宝塔山古墳の周堀北外郭ラインはほぼ確定されたと考えられる。また、周堀築造時の痕跡を匂わす溝状遺構や古墳築造後の周堀の在り方を考えさせる耕作具痕跡も確認され、宝塔山古墳を研究する上での有益な情報を得ることができた。

周堀底部の状況（手前が耕作具痕跡）

5　市内遺跡発掘調査事業

(1)　事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地外の規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

(2)　事業の内容

①　調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の１割程度を基本に調査をした。

②　記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

(3)　調査結果

試掘調査は、４７件実施した。このうち、３１件で埋蔵文化財が確認できた。

①　確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認した。

②　調査した遺構

住居跡、古墳、水田跡等。

③　試掘調査から発掘調査をした主な遺跡

ア　朝倉工業団地遺跡群

古墳～平安時代の集落跡・水田跡、中世の居館跡（溝跡）

イ　大渡道場遺跡

縄文時代の水田跡、古墳時代の畠跡、奈良時代の集落跡、平安時代の屋敷跡、埋納備蓄銭

ウ　総社稲荷塚大道西No.２遺跡

平安時代の集落跡、中世以降の溝跡

6　遺跡台帳整備事業

(1)　前橋市遺跡地図の作成事業

文化財保護法第95条に規定されている埋蔵文化財包蔵地を周知するための遺跡分布地図の作成を行った。平成24年度を目標とした「前橋市遺跡分布地図」刊行に向け遺跡集成図などの作業を行った。

(2)　遺跡ＧＩＳの作成事業

開発協議への迅速な対応、前橋市総合情報化推進計画中の文化の振興へ寄与するため文化財情報の整備を行っている。今年度は文化財情報公開を検討するため、項目の追加と見直しを行った。

7　埋蔵文化財普及事業

(1)　普及パンフレット「い・せ・きワールド・イン前橋」の作成

平成２３年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、Ａ３版の両面印刷(表面カラー)の「い・せ・きワールドin前橋2012 平成２３年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。

表面はカラーということで写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたのか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。7000部作成し、平成２４年度初めに市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係機関等に配布し、文化財の普及を進めた。

「い・せ・きワールドin前橋2012」表面

「い・せ・きワールドin前橋2012」裏面

(2)　「山王廃寺」パンフレットの作成

平成１８年度から５年計画で進めてきた山王廃寺等範囲内容確認調査が大きな成果を残しつつ平成２２年度で終了した。平成２３年度ではその成果の普及用としてパンフレットを作成した。

パンフレットはカラー刷り１６ページで、これまでの調査で判明した内容をふまえてまとめた山王廃寺の概要を中心として、そのほかに山王廃寺との深い関係が考えられる総社古墳群、さらには上野国府、上野国分寺にも触れるなど、山王廃寺を中心として、上野国の中心地であった古代の総社・元総社地区について概説的にまとめている。

3,000 部作成し、地元への配布や出前講座開催時のテキストと使用し、文化財の普及を進めた。

「よみがえる白鳳の世界　山王廃寺跡」

(3)　普及パンフレット「上野国府」の作成

平成２２年度で山王廃寺等範囲内容確認調査が終了したことを受けて、総社・元総社地区の古代を解明するという観点から、その所在や詳細が不明である上野国府の範囲内容確認調査を平成２３年度から行うこととなった。それにあわせて、上野国府について簡単にまとめた普及用パンフレットを作成した。

パンフレットはカラー刷りＡ３判二つ折りで、国府推定地である元総社町周辺で発掘調査によって出土した国府に関連すると考えられる遺物や遺構の紹介のほか、平成２３年度からの発掘調査の位置決定の根拠となる国庁の推定地４案の説明、さらには国府・国庁とはどういう施設であるかを簡単にまとめた概説的内容も含んだものとなっている。

パンフレットは5,000 部印刷し、地元への配布等で活用し、文化財の普及を進めた。

「解明！古代群馬の中心　上野国府」

(4)　三俣ギャラリー玄関展示に関すること

三俣町の文化財保護課事務所にある玄関展示コーナー(通称、三俣ギャラリー)を大々的にリニューアルした。山王廃寺、上野国府、前橋天神山古墳、大室古墳群、前二子古墳石室復元市民プロジェクトに関する出土品や復元品、複製品を照明付の展示ケースに並べ、見学者の動線を考え、効果的に配置した。展示品 400 点、展示パネル 50 枚を数える。

平成23年夏　文化財保護課

(5)　出土資料の活用（貸し出し展示）

元総社公民館、けやきウォーク、サンデンフォレスト等において出土遺物の常設展示を行った。

また、11 月には富士見地区文化祭において主に富士見地区から出土した縄文土器の遺物展示を行った。

8　埋蔵文化財資料整備事業

(1)　富士見地区の要覧作成

平成 23 年度は、富士見地区未整理遺跡 17 箇所についての要覧を作成した。主な遺跡は、旭久保Ｃ遺跡、陣場・庄司原遺跡である。

(2)　東日本大震災で被害を受けた出土品の復元

平成 24 年 3 月 11 日の東日本大震災で被害を受けた縄文土器等の復元を行った。

(3)　蒼海遺跡群全体図・蒼海城関連資料集成

今年度は1/2500都市計画図原形図に元総社蒼海地区の発掘調査箇所を貼りいれることにより、過去の調査で確認された遺構の全体的な把握に資する資料を作成した。

(4)　旧市内未整理遺跡の遺物

旧市内未整理遺跡の遺物については、王山古墳の埴輪類・前二子古墳の副葬品の整理を行った。

他の旧市内未整理遺跡の遺物については今後とも進めていく予定である。

9　文化財資料管理

(1)　寄贈図書用務

平成23年度の他市町村教育委員会等からの寄贈図書（埋蔵文化財発掘調査報告書が、ほとんどである。）は、1，150冊だった。

(2)　県内図書（報告書等）書架の整備

この5年間、毎年1，000冊近くの寄贈図書があり、その収蔵に苦慮していた。

そのため、県内図書（報告書）書架を整備することとし、設置場所については事務室に近い旧中央玄関とした。中央玄関に収納されていた遺物収納箱については、プレハブ収蔵庫や遺物収蔵庫等に分散して収納した。図書については使用頻度の高い報告書を中心に配架した。

中央玄関に整備された書架

(3)　報告書のｐｄｆファイル化に関すること

平成23年度にｐｄｆファイル化した報告書等は217冊であった。例年同様にｐｄｆファイルはパソコンハードディスクとCD-R正副に保存した。

次年度は、上野国府に関連する資料等を中心に事業を進める予定である。

10　山王廃寺等保存整備事業

(1)　山王廃寺等調査委員会の実施概要

山王廃寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された山王廃寺等調査委員会（平成12年度に発足）において、山王廃寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施してきた。特に平成18年度から22年度にかけて、国庫補助金を活用して「山王廃寺範囲内容確認調査」を実施し、山王廃寺の伽藍の配置・規模が概ね判明するなど大きな成果が得られた。本年度は、総括を兼ねた平成22年度調査報告書を作成した。

5か年の調査の終了により、山王廃寺については一応の区切りが着いたため、本年度は、新規事業として5か年計画で行う「上野国府等範囲確認調査」の初年度を実施した。しかし、国府に直接関係する遺構が確認できなかったため、発掘調査中の現地視察は行わず、通常の定例会1回を開催した。第17回目になる委員会は、平成23年2月24日に市庁舎3階31会議室で開催した。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。

(2)　第17回山王廃寺調査委員会

開催日　平成24年2月24日

関連する埋蔵文化財の発掘調査報告

①山王廃寺発掘調査の成果と問題点について

②上野国府に関連する既出資料の集成について

③元総社蒼海遺跡群発掘調査について

第17回委員会の様子

《協議》上野国府範囲確認調査計画（案）について

①上野国府範囲内容確認調査計画書について

国庫補助金を活用して、平成23年度から27年度までの5か年の発掘調査計画（国庁推定箇所A案、B案、C案、D案）の内容について提案した。

委員からは、提案内容よりもより広範囲な調査を行うようにすること、御霊神社・宮鍋神社は国府に関係すると考えられるため、調査にあ

たり両神社について十分に考慮すること等の意見が出された。

②平成23年度事業の成果について

A案を中心に9ヶ所のトレンチを設定し調査を行ったが、国府政庁に直接関係する遺構、遺物は検出されなかった。

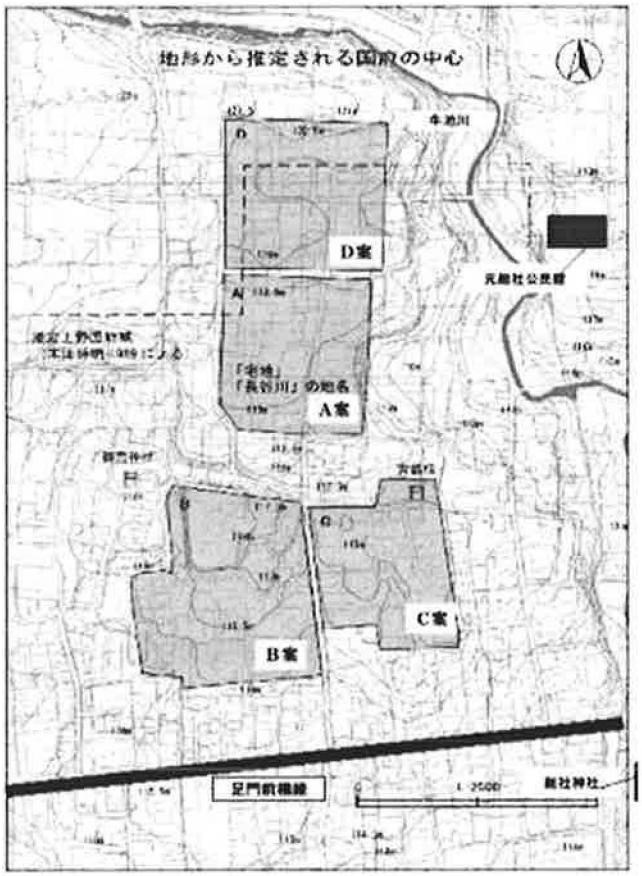
③平成24年度事業計画について

B案を中心にA案の補足、C案の先行調査について提案した。委員からは、調査箇所は住宅密集地であるが、調査面積の拡大を検討するようにとの意見が出された。

④委員会名称の変更について

平成24年度から「上野国府等範囲内容確認調査」が主事業になることから、委員会の名称を「上野国府等調査委員会」に変更することを提案、了承された。

なお、開催回数についてはそのまま継続（次回の委員会は第18回）し、上野国府についての解明、保存・活用について各委員から指導をいただき、効率的で円滑な調査実施に努める。



上野国府範囲内容確認調査A案～D案

11　上野国府に関連する既出資料の集成について

平成23年度から上野国府の調査を進めるにあたって既出資料の集成作業を行う必要が生じた。対象とした区域は、前橋市元総社町を中心とし、総社町総社、大友町、問屋町、鳥羽町、高崎市中尾町、稲荷台町、塚田町、引間町、東国分町の一部とした。具体的には、東西は関越自動車道から産業道路まで、南北は北を元総社小学校・元総社中学校付近、南は高前バイパスとした。主な遺跡としては、元総社明神遺跡、元総社蒼海遺跡群、寺田遺跡、元総社寺田遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡、鳥羽遺跡、上野国分層寺・尼寺中間地域遺跡、天神遺跡、弥勒遺跡、弥勒Ⅱ遺跡、閑泉樋遺跡、元総社小校庭遺跡等をあげることができる。

1　これまでの調査遺跡

(1)尾崎研究室の国府調査

かつて上野国府に関する発掘調査が、昭和36年から昭和43年度までの9次にわたって実施された。その概要は以下のとおりである。

1次　昭和36年11月　元総社小学校校庭　住居跡
2次　昭和37年8月　元総社小学校校庭　2×5間の掘立柱建物跡
3次　昭和38年8月　元総社小学校校庭　2×4間の掘立柱建物跡
4次　昭和39年8月　元総社小学校校庭　特になし
5次　昭和40年7～8月　大友町372ほか　ピット、溝
6次　昭和41年7～8月　大友町雲雀街道　掘立柱建物跡、大溝
7次　昭和41年9～10月　元総社小学校校舎跡　住居跡
8次　昭和42年8～12月　大友町周辺　住居跡
9次　昭和43年8～12月　昌楽寺周辺　住居跡

このときの調査では、国府そのものの解明はできなかったものの、元総社小学校校庭から発見された2×4間、2×5間の掘立柱建物跡は柱穴規模やその形状から国府の施設に関連する建物と考えられる。

(2) 閑泉樋遺跡の大溝

昭和58年2月に閑泉樋遺跡の調査でほぼ東西方向に走る大溝が調査された。この大溝の覆土上部に浅間B 軽石層純層の堆積が見られ、出土した土器は9世紀後半のものが主体を占めていた。この大溝は、木津博明氏らによって、国府の北限を画するものといった解釈がなされ、国府域を確定する重要な遺構となっている。

(3)元総社明神遺跡の調査

また、昭和57年から平成8年まで13年間に亘って元総社明神地区の区画整理に伴う発掘調査が実施された。この調査では、多くの住居跡が検出されたことから集落エリアであることが判明した。しかし、その中で南北方向の大溝が都合5ヶ所の調査区から南北に直線に並んだ状態で発見された。閑泉樋遺跡の大溝に比較するとやや小規模なものとなる。

(4)牛池川改修に伴う調査

河川改修に伴う調査が昭和63年から開始された。沖積地部分の調査のため水田跡の生産遺構や植物や動物依存体の出土が期待された。その期待に沿うように元総社明神遺跡Ⅷの調査では人形が3点発見された。その後に調査された元総社寺田遺跡でも人形5点のほか「国」、「厨」、「国厨」、「曹司」と書かれた墨書土器がみつかっている。

(5)関越自動車道の調査

国分寺を東西に2分する関越自動車道の建設に伴って発掘調査が昭和50年代から開始された。中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡など大規模集落遺跡が次々に解明された。この中で、特筆されるのは鳥羽遺跡の神社遺構、鍛冶工房遺構であろう。その他、国府や国分寺に関連する遺物も多数出土した。

(6)元総社蒼海遺跡群の調査

元総社蒼海地区に区画整理に伴う発掘調査が平成11年から開始され現在も継続中である。現在までの調査では住居跡が中心を占めている。その中で、元総社公民館用地から3×10間の堀立柱建物跡が検出され

ている。また、国分尼寺の西側から「大館」、「少」と書かれた墨書土器が発見されている。

2　既出資料について

以上のように昭和36年から開始された国府調査であるが、過去には宮鍋神社の周辺を中心に方８町や方６町の区域が国府域と推定された時期があった。これについては山口県防府市の周防国府が方８町とされた論考に影響を受けたものと考えられる。しかし、周防国府の方８町は後の研究で、中世に形成されたものであることが判明したため、現在では、遺存地割から推測する方法は採られていない。

国府の遺跡群とその機能は、佐藤信氏によれば次のように分類される。

①儀礼…国庁、国司館、②財政…正倉院、③宗教・祭祀…国府付属寺院、律令的祭祀（人形など水辺の祭祀）、④国府内神社、国内諸社を勧請した総社、⑤文書機能…曹司、木簡、⑥給食…国厨、国司館、⑦手工業編成…官営工房、⑧交通…陸上交通（東山道駅路国府ルート）、水上交通（河川）があげられているため、これも加味しながら今までに検出されている遺構、遺物に若干の検討を加えてみたい。

（1）工房エリア…鳥羽遺跡の調査では長さ 20mを超える長方形の鍛冶工房遺構が６基発見されている。長方形の竪穴建物の中央に２列に複数の炉を備える。竈を造りつけていないことから鍛冶専用施設である。カナクソやフイゴ、未製品と思われる鉄が出土しており、８世紀前半から中葉にかけて稼動したものと思われる。

（2）神社遺構…鳥羽遺跡では鍛冶工房跡に近接する区域から神社遺構が発見されている。武蔵国府でも同様な神社遺構が発見されている。北西の方位は、元来の鬼門とされ、この方位に神を祀るのである。平安時代の記録書である『日本三代実録』を見ても、都にある幾つかの官庁に戌亥隅神が祀られていた。武蔵国府では、この遺構が国府を守護する社であった可能性は十分にあると考えている。

（3）国司の居宅…国府のマチは広大で、場所によっては色々な機能を持ち、様々な施設があったはずである。その中には都から赴任する国司の居宅すなわち館もあったのである。国司の定員は国の等級によって差がある。上野国の場合は十四郡を管轄する大国であったから、守（かみ）を筆頭に介（すけ）１名、じょう２名、目（さかん）２名という構成で、これに加えて史生（ししょう）という書記官３名も都から派遣されていた。それぞれが館を構えて、移動もあるから営まれた国司の館は相当数にのぼる。こうした中で、現在のところ、国司の館の存在を示す資料が見つかっている。「大館」と書かれた８世紀前半の墨書土器であり、国分尼寺の西側から発見されたものである。「大館」は国府の中でも最も大きい館の意味である。したがって国司の筆頭である守の館を指すものであろう。残念ながらこの地区から館と思われる掘立柱建物跡はみつかっていない。

（4）官衙エリア…元総社小学校校庭から発見された掘立柱建物跡は近接した場所から「曹司」といった墨書土器が発見されていることから官衙エリアの存在が考えられる。

（5）祭祀エリア…元総社明神遺跡から人形３点、元総社寺田遺跡から人形５点と計８点の木製人形が牛池川の河道から発見された。いずれも1108年降下の浅間Ｂ軽石層に覆われていた。人形は牛池川の調査では、これより北の調査区からは全く発見されないことから、総社神社あたりで儀式がなされ、川に流されたものと考えられる。都から伝えられた律令祭祀である。

（6）高級陶磁器などを出土するエリア…鍛冶工房跡と神社に隣接するあたり一帯からは、緑釉陶器、白磁、青磁、陶硯、銅椀、腰帯などが住居跡から多数出土している。天神遺跡や弥勒遺跡、弥勒Ⅱ遺跡などがあげられる。

（7）集落エリア…元総社蒼海遺跡群の調査結果から集落エリア①とした。時期的には古墳時代から平安時代までの集落が展開している。今後時期別の住居分布の検討が必要である。元総社明神遺跡についても同様に集落エリアが展開されるため集落エリア②とした。

（8）大溝…大溝については断面形は上が広く、下が狭い台形である。閑泉樋遺跡の大溝①は東西溝、元総社明神遺跡の大溝②は南北、関越自動車道路沿いの大溝③は南北、国庁推定Ａ案付近の大溝④、その南西に斜め方向の大溝⑤の５カ所が存在する。かつては国府を画する大溝と認識されたが、再度検討を必要としよう。

（9）東山道駅路国府ルート…東山道駅路国府ルートの存在も見過ごせない。その建設時期は９世紀後半と

もいわれているが、この官道の開削によって陸上交通の要衝となった。
（10）日高道…国庁想定区域から一直線に伸びる条里の基軸といわれている通称「日高道」が存在する。東山道駅路と日高道の交点の北側には約120m四方で周囲に堀が巡らされ、２区画が並置する。この地点を木下良氏は群馬駅家を想定している。日高道は横倉興一氏によれば七世紀末に施行されたことが考えられている。
（11）元総社蒼海遺跡群の調査ではすでに奈良・平安時代の住居跡が1300軒調査されている。これらの住居跡を四半世紀毎に時期別に分類して分布図を作成し分析を進める必要がある。さらに掘立柱建物跡や鍛冶遺構、道路跡、井戸跡、溝跡、氷室遺構なども集成し分析を進めていく。
（12）官衙遺跡には、一般集落と異なるものとして墨書土器、木製人形、斎串、金属製品、畿内系暗紋土器、陶硯、須恵器、腰帯類、陶磁器類、銅椀等の出土点数の多さがあげられる。今回の集成の結果からみると一般集落を遥かに超える点数が出土しており、この付近に国府が設置されたことを補強する材料となっている。今回、集成資料の一部を参考に掲載しておいた。

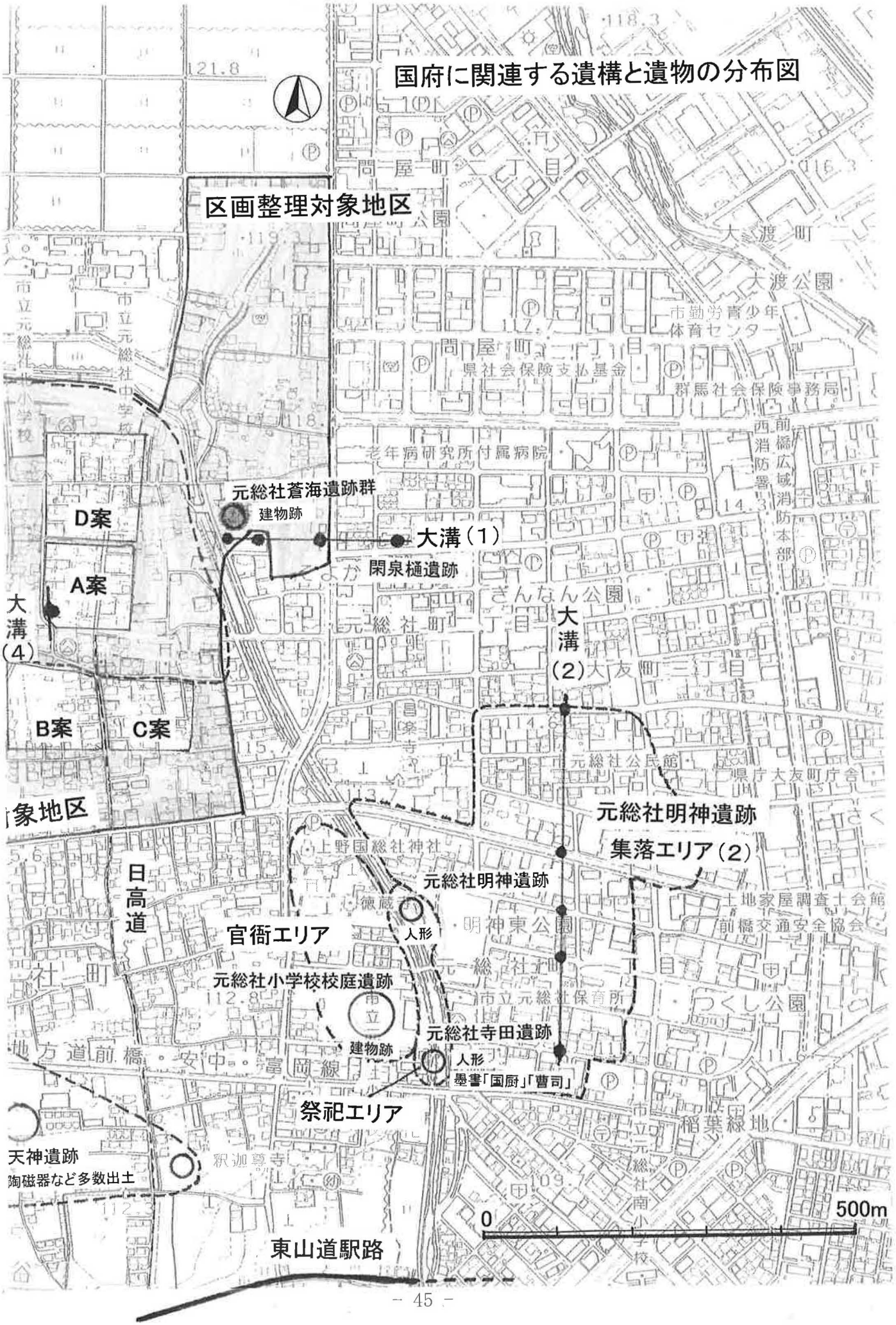
3　国庁推定案について

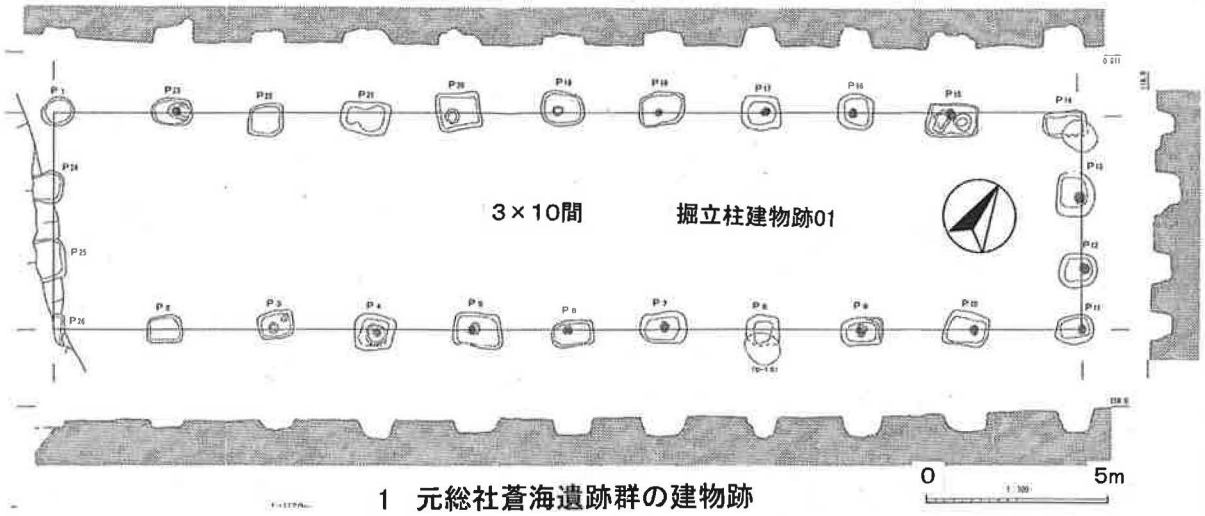
すでに区画整理地内には場所は未定であるが、蒼海中央公園用地として約11,000 ㎡の面積が割り当てられている。この予定している公園用地については主管課である区画整理第二課より本課に以下の要望が寄せられている。「一刻も早く国府の中心地を探し当てていただき、その場所を公園として決定し、活用を図りたいため、早急な回答をお願いしたい」とのことである。したがって区画整理地内での国府の検出を優先して行っていく必要があるため、平成19年5月に文化財保護課から区画整理第二課宛てに『国庁推定案』を提出した（文化財保護課『年報38』参照）。この推定案の策定にあたっては、①地形の分析…中心施設が設置できる100m四方を超えるような広い平坦な場所、②古い地図の分析…耕地図や地租改正図などにみられる地境や区画、③宮鍋神社、御霊神社（学校院若御子明神）、庁ヤ、長谷川などの地名との関連、④中世蒼海城の地割り等も加味して、A案からD案までの4案を策定した。A案からD案までの順番については、特に優位性を持たせてはいない。
今回の国府調査では、区画整理地内について緊急性が高いため優先して調査を行って行きたいと考えている。ただし、対象とした区域の全体にも常に目を配っていくことが肝要と思われる。
今後、継続した範囲確認調査の実施と既出の資料の分析を踏まえながら、上野国府の位置、内容、構造等について一日も早く解明して行きたいと考える。

○参考文献

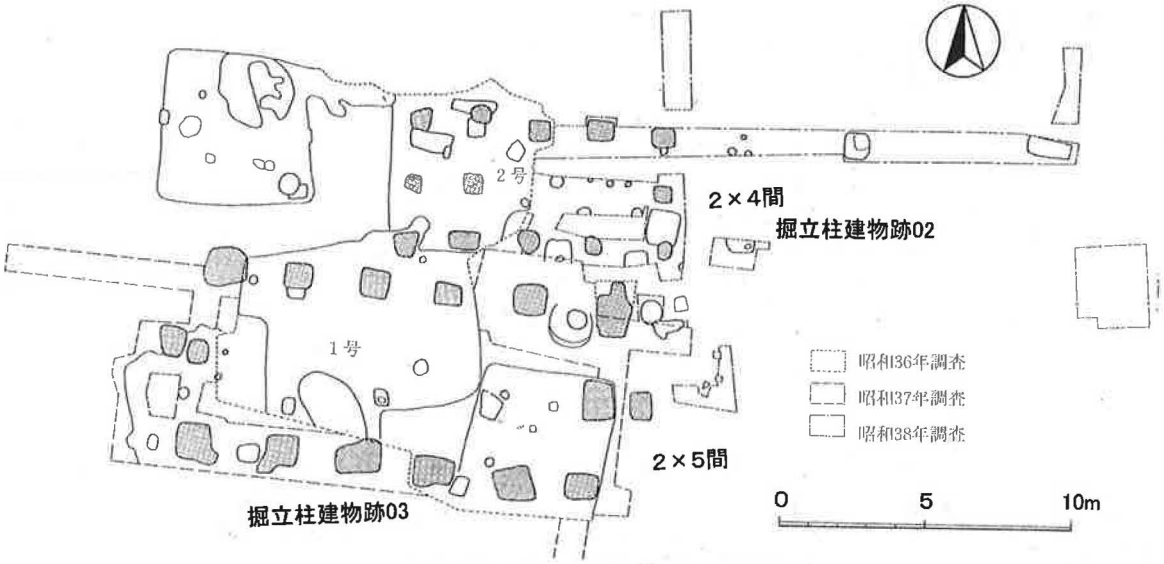
1983 前原　豊「閑泉樋遺跡」『年報13』前橋市教育委員会
1983～1997 岸田治男ほか『元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1986～1992 綿貫邦夫ほか『鳥羽遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
1986 松島榮治「元総社小校庭遺跡」『群馬県史通史編2』
1987 新保一美ほか『天神遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1987～1992 木津博明ほか『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（1）～(8)』群馬県埋蔵文化財調査事業団
1987 金子正人ほか『寺田遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1990　新保一美ほか　『弥勒遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
1993～1996 藤巻幸男ほか『元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ』群馬県埋蔵文化財調査事業団
2000～2005　斎木一敏ほか　元総社蒼海遺跡群①～⑬　前埋文・前橋市教育委員会
2003　井川達雄　『元総社西川・塚田中原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
2006～2012　近藤雅順ほか　『元総社蒼海遺跡群(1)から(36)』前埋文・前橋市教育委員会
2006　前原　豊「弥勒Ⅱ遺跡」『年報36』　前橋市教育委員会

国司の館？
墨書「大館」
国分僧寺
国分尼寺
国分寺中間遺跡
元総社蒼海遺跡群
集落エリア（1）
元総社西川遺跡
大溝（3）
大溝（5）
高級陶磁器など多数出土
区画整理対
鳥羽遺跡工房エリア
高級陶磁器など出土するエリア
弥勒遺跡
高級陶磁器など多数出土
弥勒Ⅱ遺跡
高級陶磁器など多数出土
鳥羽遺跡神社遺構
牛池川
蒼海公園
梅が丘公園
塚田
稲荷台児童館
東部コミュニティー施設
金堂基壇
塔基壇
上野国分寺跡

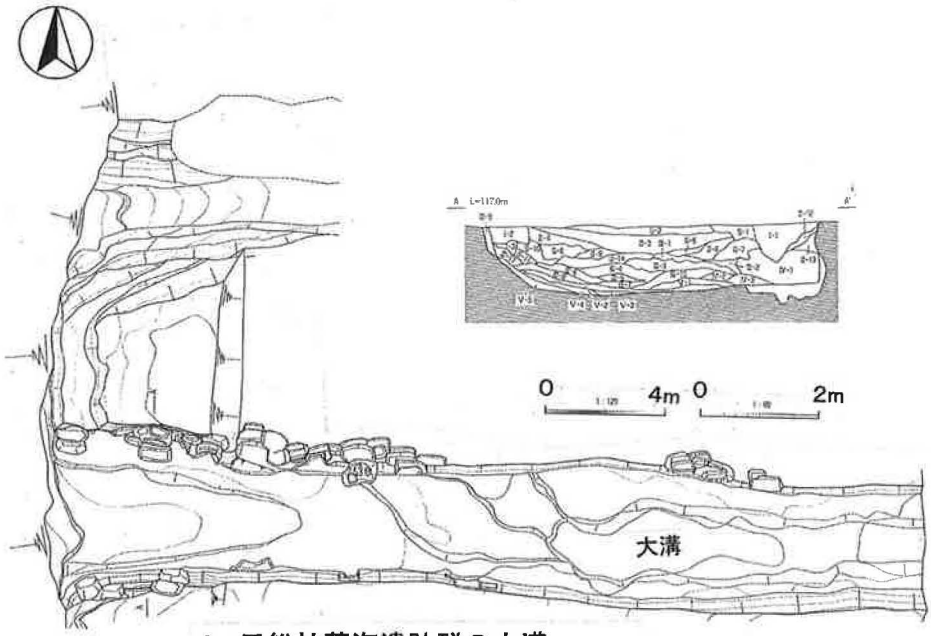

国府に関連する遺構と遺物の分布図
区画整理対象地区
元総社蒼海遺跡群
建物跡
大溝（1）
閑泉樋遺跡
D案
A案
B案
C案
大溝（4）
大溝（2）
元総社明神遺跡
集落エリア（2）
元総社明神遺跡
人形
官衙エリア
元総社小学校校庭遺跡
建物跡
元総社寺田遺跡
人形
墨書「国厨」「曹司」
祭祀エリア
日高道
天神遺跡
陶磁器など多数出土
東山道駅路
0
500m



1　元総社蒼海遺跡群の建物跡

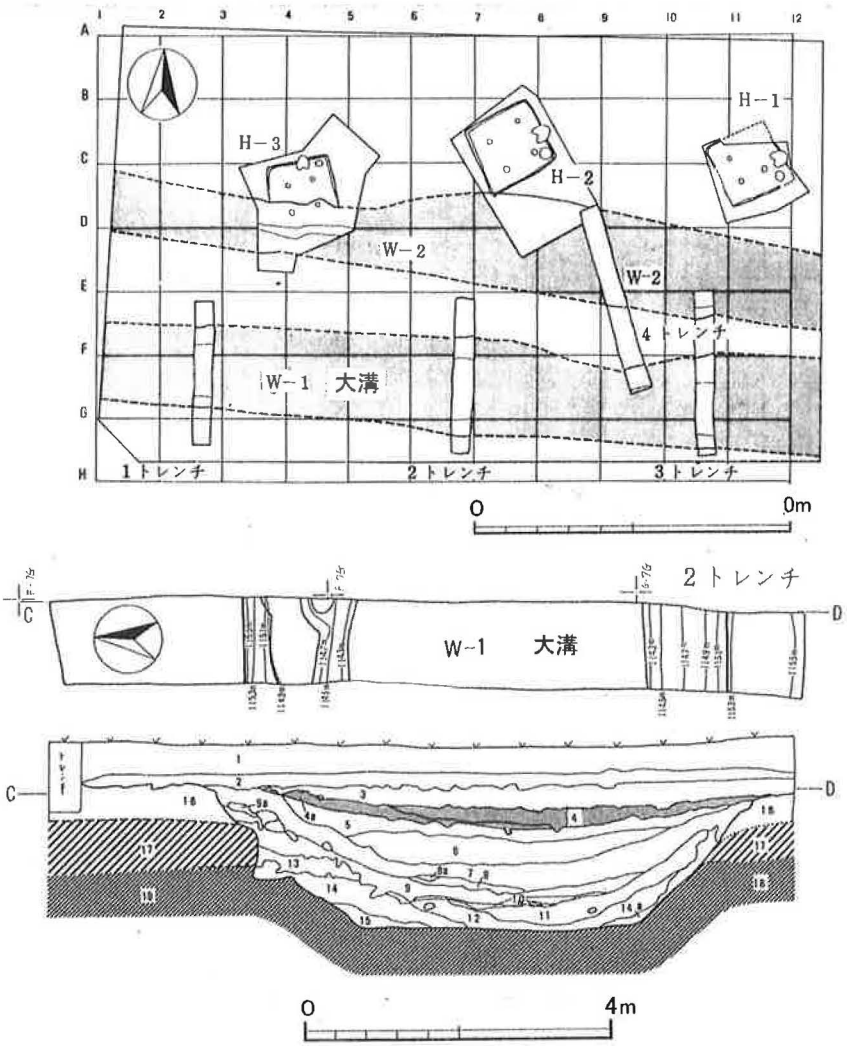


2　元総社小学校校庭遺跡の建物跡

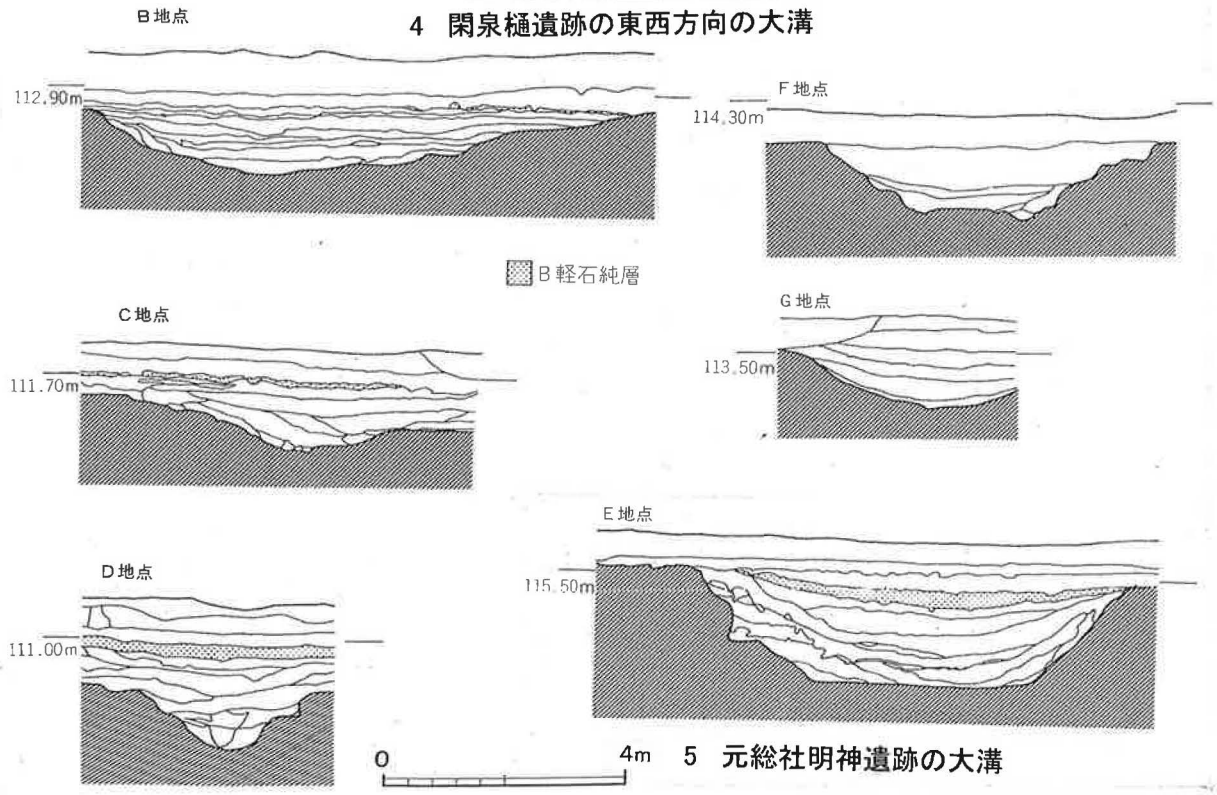


3　元総社蒼海遺跡群の大溝

図1　推定上野国府周辺遺跡の遺構(1)



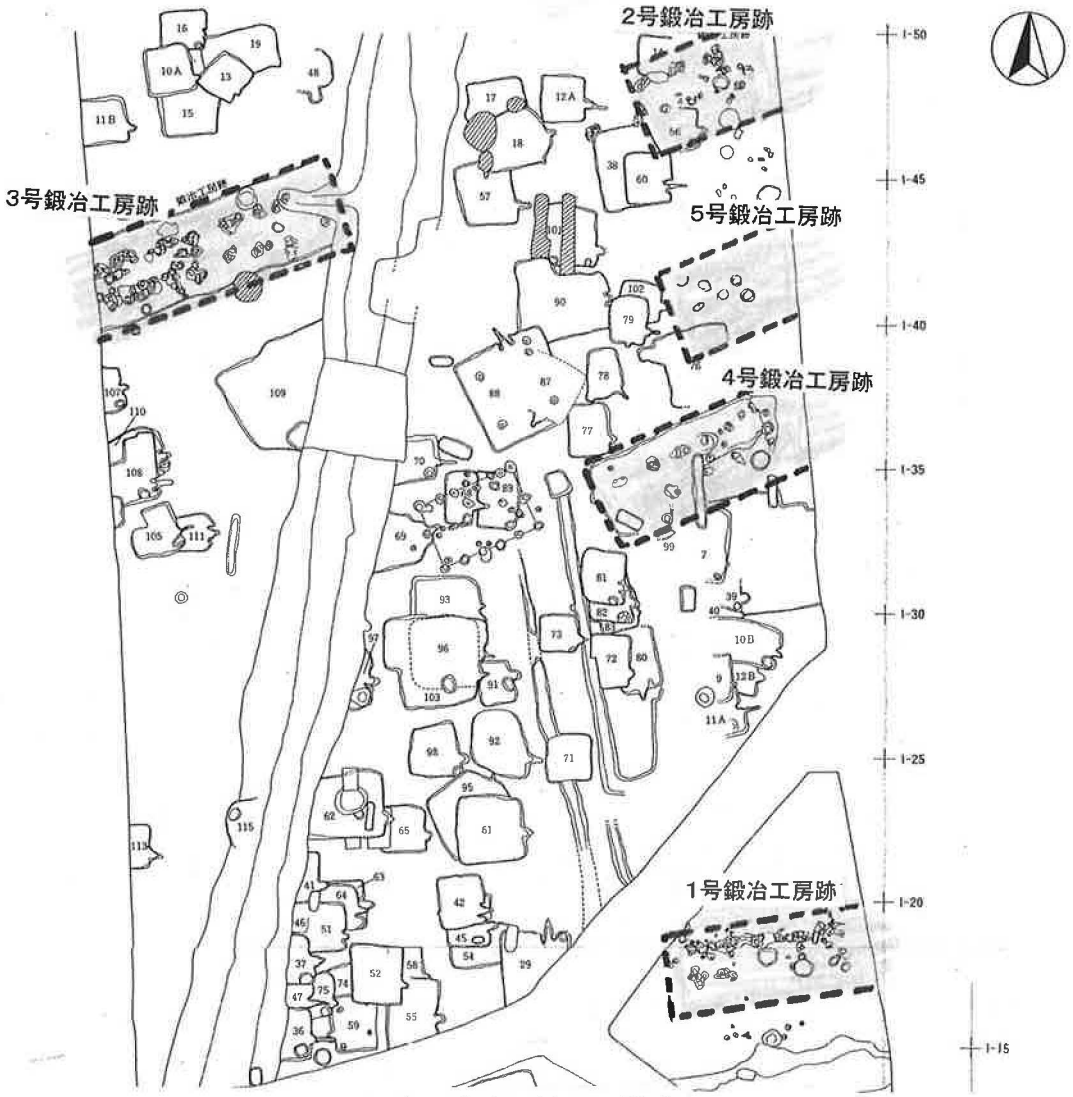
4 閑泉樋遺跡の東西方向の大溝



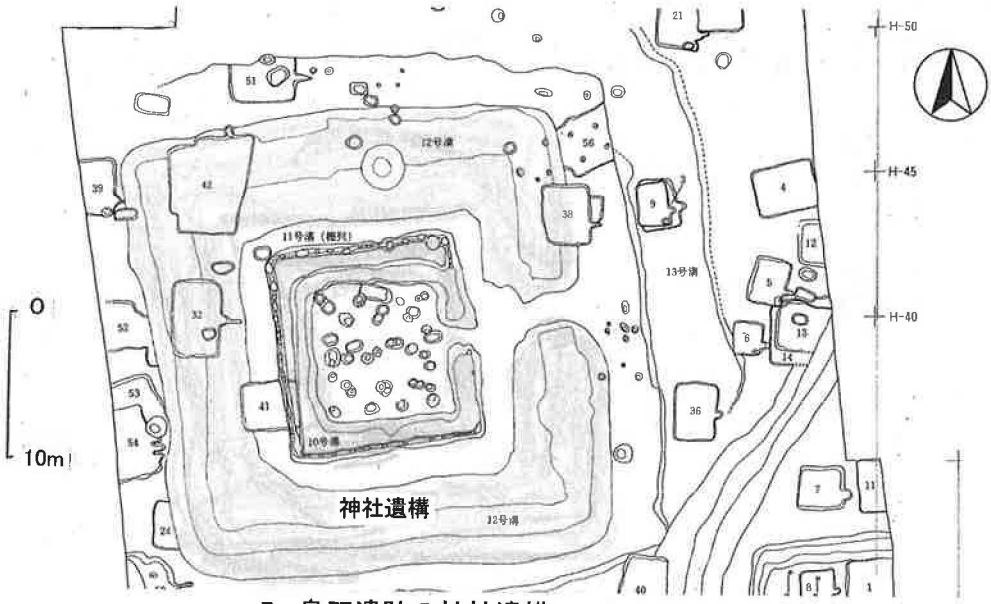
5 元総社明神遺跡の大溝

図2 推定上野国府周辺遺跡の遺構(2)

6号鍛冶工房跡



6　鳥羽遺跡の鍛冶工房跡



7　鳥羽遺跡の神社遺構

図3　推定上野国府周辺遺跡の遺構(3)

1	元総社蒼海遺跡群	6・7	5	鳥羽遺跡	
2	元総社明神遺跡	8~10	6	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	15.16
3	元総社寺田遺跡	1~5. 11~14	7	天神遺跡	
4	元総社西川遺跡				

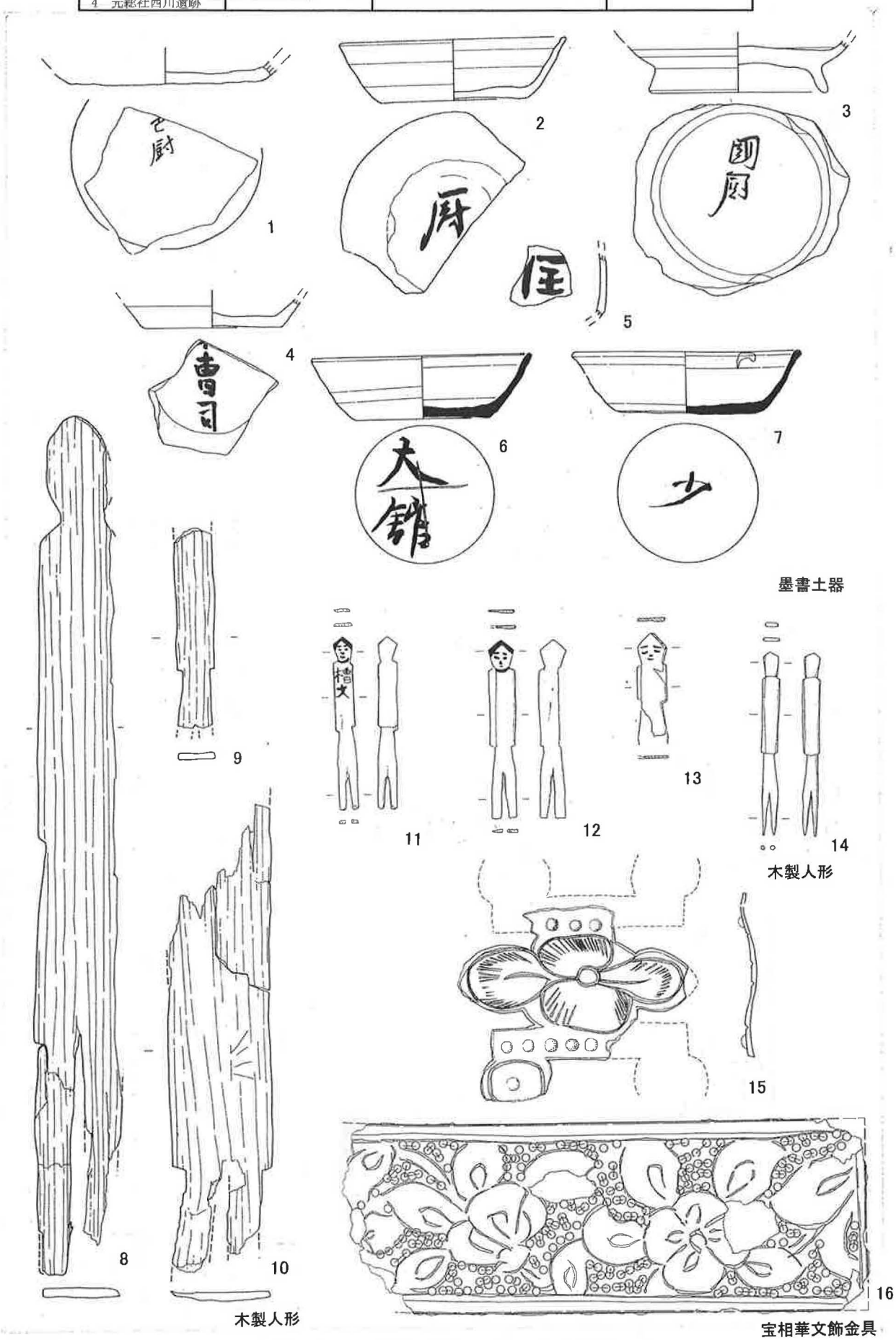


図4　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(1)

1	元総社蒼海遺跡群	17～27.28	5 鳥羽遺跡	
2	元総社明神遺跡		6 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	29.30
3	元総社寺田遺跡		7 天神遺跡	
4	元総社西川遺跡			

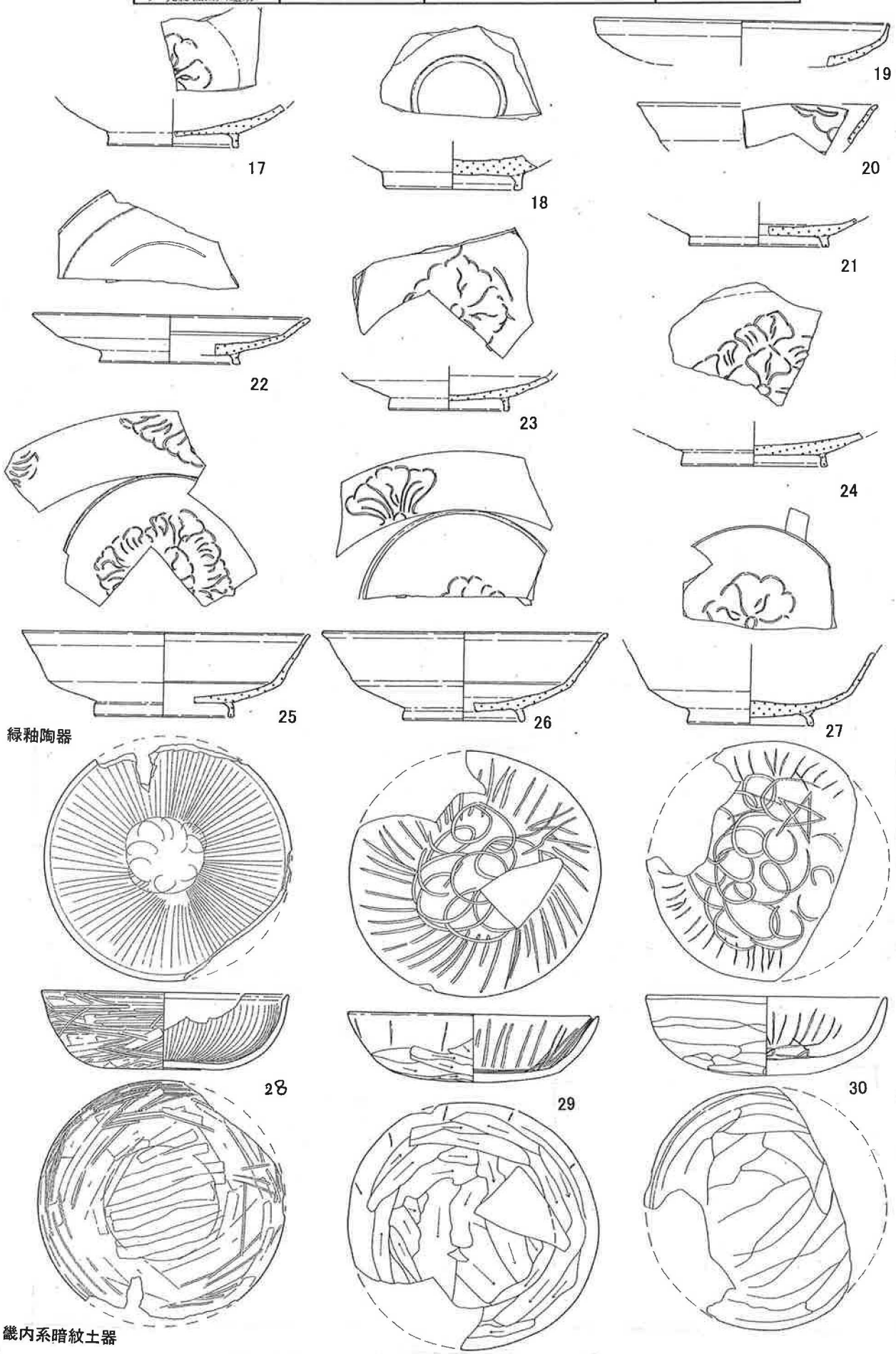
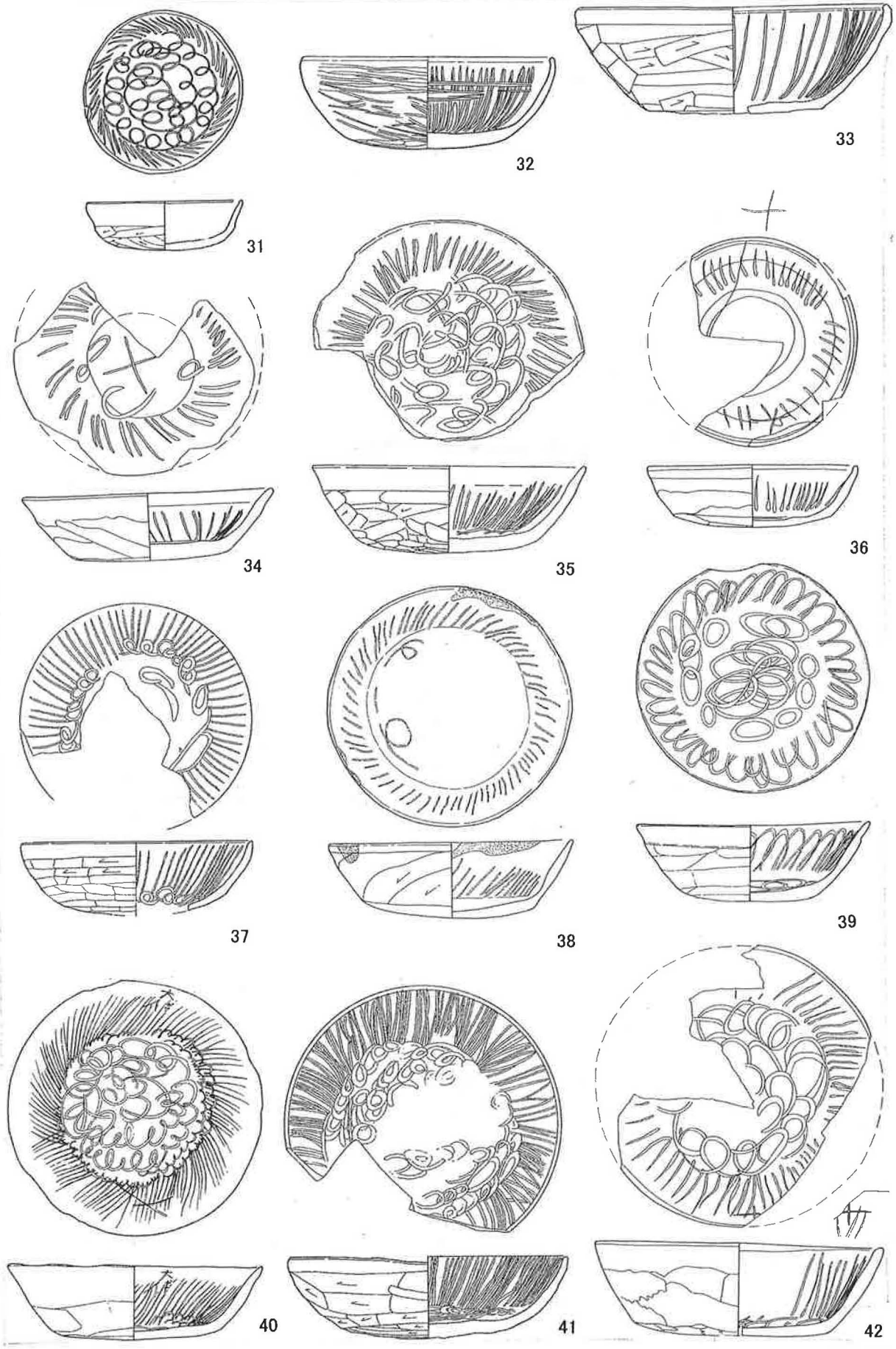


図5　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(2)

1	元総社蒼海遺跡群	32.33.35.37.41	5	鳥羽遺跡	39.40.
2	元総社明神遺跡	31.	6	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	34.36.38.42
3	元総社寺田遺跡		7	天神遺跡	
4	元総社西川遺跡				



畿内系暗紋土器

図6　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(3)

1 元総社蒼海遺跡群	47	5 鳥羽遺跡	44~46.52.53
2 元総社明神遺跡	43.	6 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	48
3 元総社寺田遺跡		7 天神遺跡	
4 元総社西川遺跡	49·50·51		

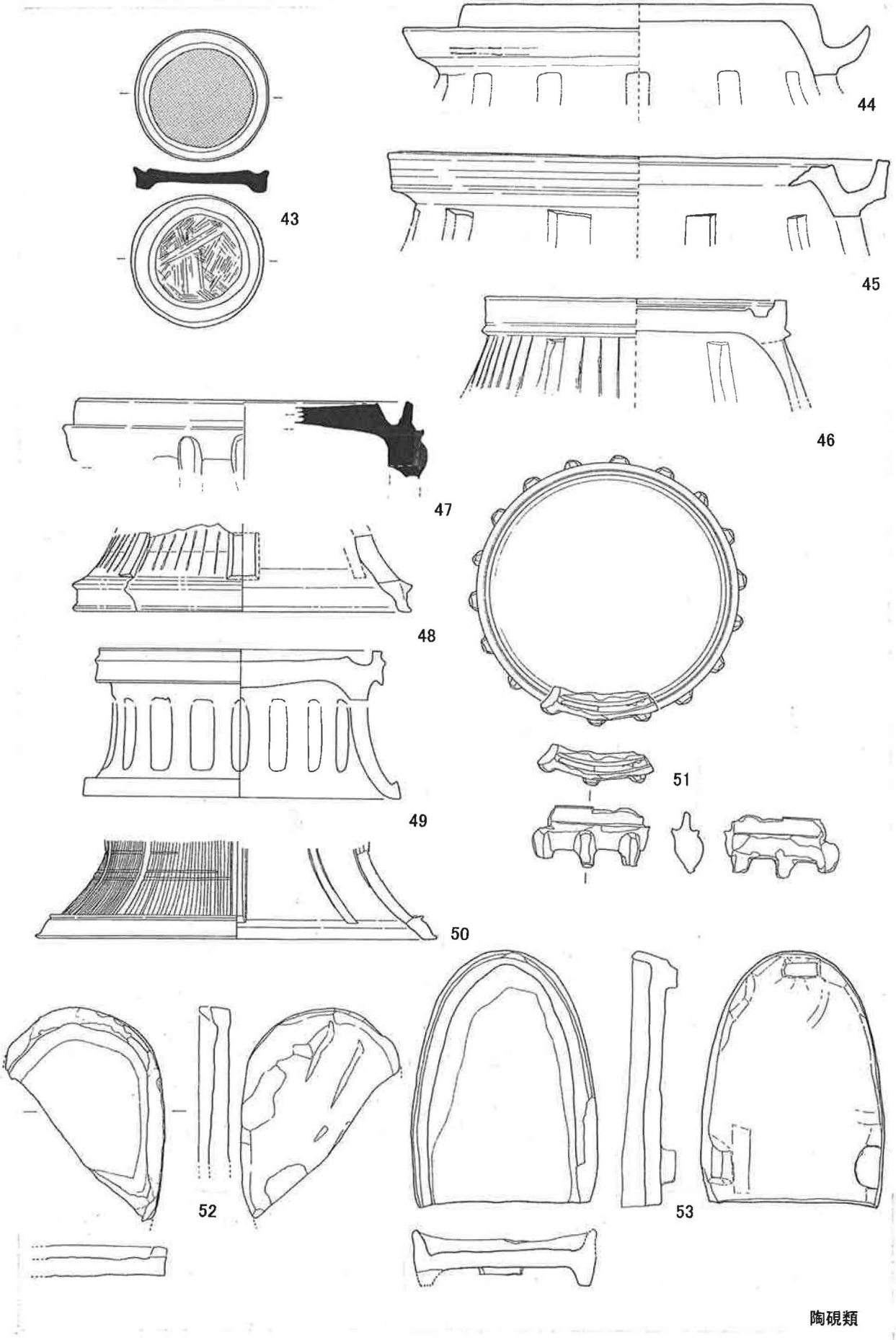


図7　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(4)

1	元総社蒼海遺跡群	66.71.	5	鳥羽遺跡	63~65.72
2	元総社明神遺跡	54.57	6	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	58~61.70
3	元総社寺田遺跡	55.67~69	7	天神遺跡	56.
4	元総社西川遺跡		8	寺田	62

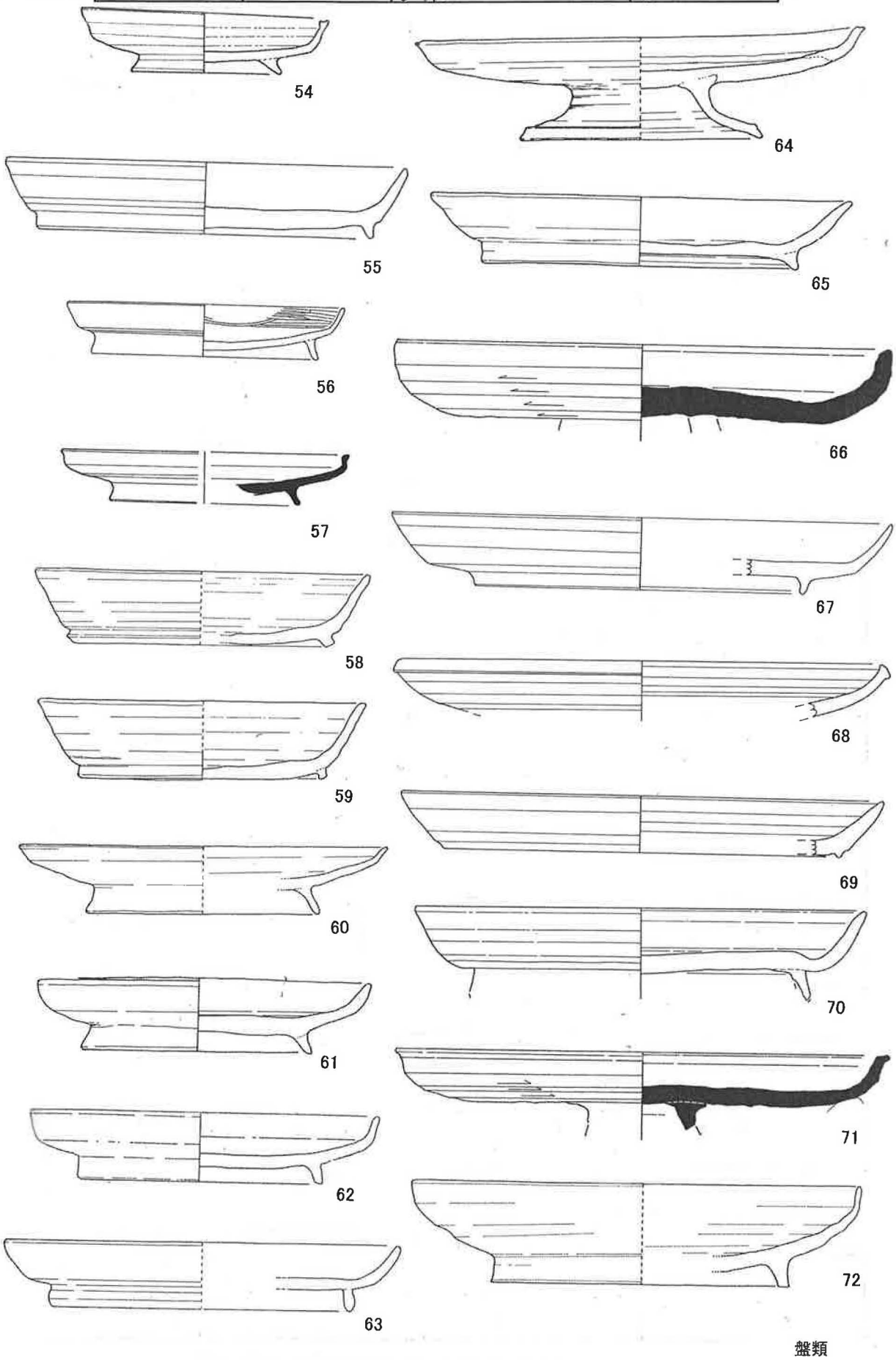


図8　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(5)

1	元総社蒼海遺跡群	79.81	5	鳥羽遺跡	73~77.78.80.85
2	元総社明神遺跡		6	上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡	84.95.97
3	元総社寺田遺跡		7	天神遺跡	82.88.98.99~101
4	元総社西川遺跡	83.89.			

86.87.90~92.93.94.96

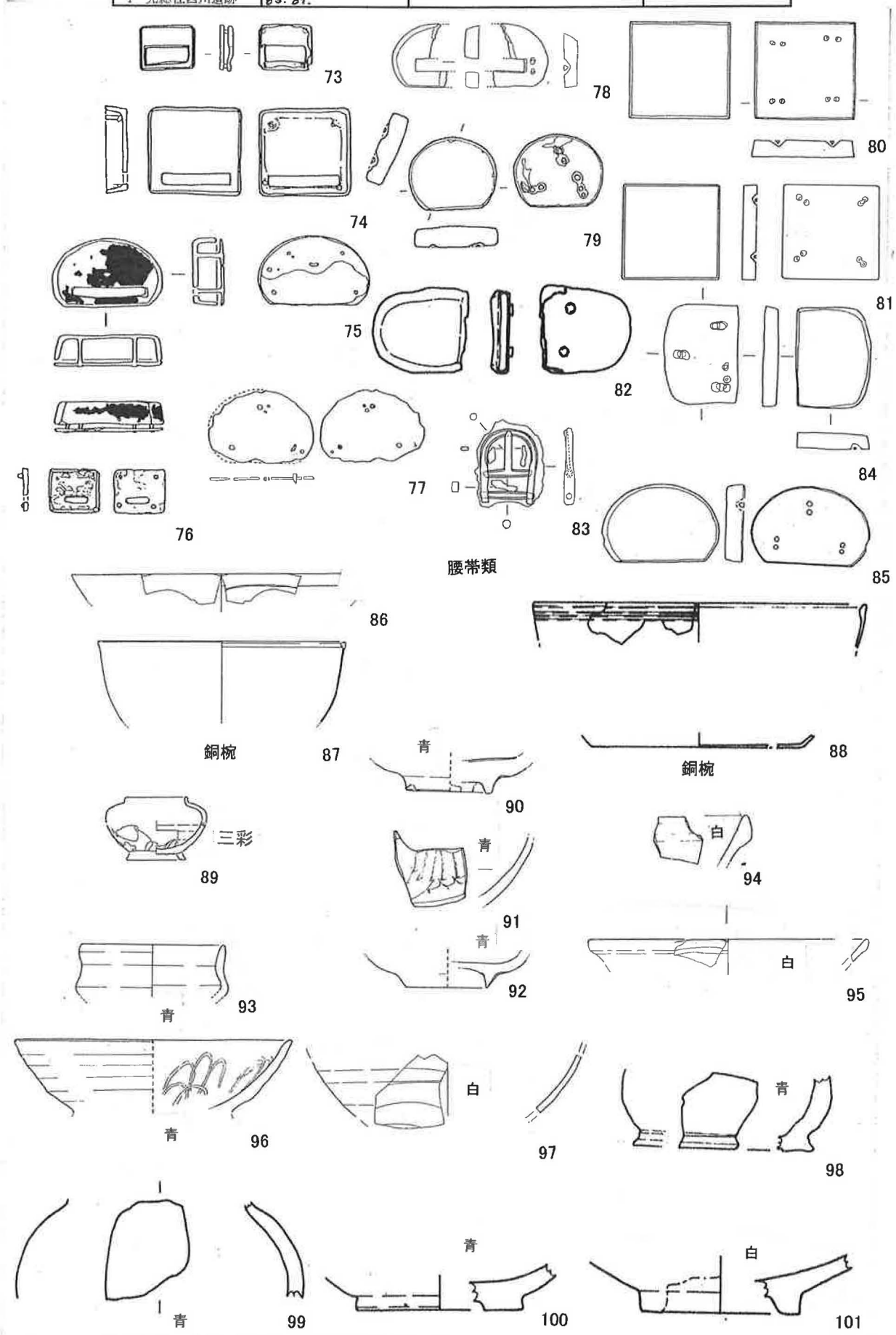


図9　推定上野国府周辺遺跡の出土遺物(6)

表1　元総社蒼海遺跡群①～⑮報告書一覧表

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群① 総社閑泉明神北遺跡	遺物包含層	縄文時代		加曽利E式土器、後期土器	五輪塔の地輪には「文明四年（1472年）」の紀年名及び金泥
	生産跡	古墳時代	浅間C軽石下畠跡、FA下水田跡	土師器、須恵器、木製品	
	遺物包含層	平安時代	住居跡		
	遺物包含層	中世	溝、井戸、土坑	中世陶器、五輪塔、石臼	
元蒼遺跡群② 元総社小見遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　3軒 性格不明遺構　2基	諸磯b・c式土器、加曽利E4式土器、石鏃、石鋸、石匙	5区の住居跡から浄瓦、7区で2間×3間の総柱建物跡
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡　90軒 掘立柱建物跡　1棟竪穴状遺構　2基性格不明遺構　3基道路状遺構　4条溝跡 8条土坑　24基	土師器坩・台付甕・須恵器蓋・坏・高台付坏・無蓋高坏・高台付皿・耳皿・羽釜・円面硯・灰釉陶器碗・段皿・短頸壺・水瓶、緑釉陶器高台付皿、金属製品（鉄鏃・引手・逆輪・刀子・鎌・釘・火打石元豊通宝）、土製品（紡錘車・丸瓦・平瓦）、石製品（臼玉・支脚）	
元蒼遺跡群③ 総社甲稲荷塚大道西遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、柱穴	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	重複多数
元蒼遺跡群③ 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、溝跡、土坑、柱穴、落ち込み	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	10世紀河川の氾濫
元蒼遺跡群③総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡、竪穴状遺構、溝跡、土坑、柱穴、井戸跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄器　他	重複多数
元蒼遺跡群④ 元総社小見内Ⅲ遺跡	遺物包含層	縄文時代～弥生時代	住居跡	加曽利E式土器、石器類、弥生式土器、紡錘車	浅間B軽石以前の道路状遺構。さらに、この道路状遺構の両側には平行している溝跡が検出
	集落跡 道路、溝跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、溝跡、土坑、井戸、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、陶器類、瓦、風字硯、金属製品、石製品	
	墓域、区画溝跡 道路	中世	土坑墓、火葬墓、溝跡、道路状遺構	陶器、五輪塔、石臼	
	墓域	近世	土坑墓		
元蒼遺跡群⑤ 元総社小見Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡、土坑	加曽利E式土器、石器	調査区の東側中世の溝は、底辺の広い逆台形で、底面の両側に側溝状の小溝を持ち、中央部は全体に硬化している。
	集落跡	古墳時代	住居跡	土師器、須恵器	
	集落跡	奈良・平安	住居跡、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、輸入陶磁器	
	溝跡、道路	中世	溝跡、道路状遺構	金属製品、陶器類、石製品	
	墓域	中世	井戸、土坑		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群⑥ 元総社小見Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡	加曾利E式土器、石器類	規模の大きい薬研状の断面を持つ中世溝跡
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、柱穴列、溝跡、井戸、土坑、土坑墓	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄製品	
	溝跡、土坑墓	中世	道路状遺構、土坑、溝跡、井戸跡、土坑墓	陶磁器、石臼、五輪塔	
元蒼遺跡群⑥ 元総社草作Ⅴ遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、土坑	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、瓦、鉄製品、陶器類	住居跡からの白磁椀
	溝跡、土坑墓、　火葬跡	中世	溝跡、井戸跡、土坑、土坑墓、火葬跡	陶器類	
元蒼遺跡群⑦ 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡37軒、竪穴状遺構1軒、井戸跡5基、溝13条、畠跡他	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、石器、鉄器他	
元蒼遺跡群⑦ 総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代、古墳～平安時代	竪穴住居跡25軒、井戸跡1基、溝1条、土坑12基　他	縄文土器、土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
元蒼遺跡群⑧ 元総社小見内Ⅳ遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・中世	住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、土坑墓、柱穴　他	土師器、須恵器、灰釉土器、青磁、カワラケ、瓦、鉄製品　他	
元蒼遺跡群⑨ 元総社小見Ⅳ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡3軒	縄文土器、石器	1200点あまりの瓦片が検出。「山田」「當」という押印を持つものや、「伴一」「手」「石」「日」を篦書するもの。
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡1軒	土師器	
	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡24軒	須恵器、石器、鉄器、瓦	
	集落跡	中世	溝2条		
	集落跡	その他	土坑1基　他		
元蒼遺跡群⑩ 元総社小見Ⅴ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡3軒	縄文土器、石器	
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡2軒	土師器	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡11軒	土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
	集落跡	中世以降	掘立柱建物跡1軒、畠跡、土坑13基　他		
元蒼遺跡群⑩ 元総社小見内Ⅵ遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡1軒	土師器	粘土採掘坑
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡7軒、溝8条	土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
	集落跡	中世以降	井戸跡3基、土坑11基他		
元蒼遺跡群⑪ 元総社小見内Ⅶ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡2軒、土坑1基　他	縄文土器、打製石斧、多孔石　等	厨屋的存在と考えられる竪穴住居跡2軒
	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡2条、土坑1基　他	土師器、須恵器、鉄器・鉄製品、石製品、瓦等	
	集落跡	中世以降	溝跡、畠跡、土坑墓他	古銭　等	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元蒼遺跡群⑫ 元総社小見内Ⅷ遺跡	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡14軒　他	土師器、須恵器、かわらけ、鉄器・鉄製品、石製品、瓦　等	火砕流（Hr-FPF1）で被災した水田跡
	集落跡	中世以降	竪穴状遺構1軒、溝跡5条　他		
元蒼遺跡群⑫ 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	畠跡	古墳時代	畠跡、溝跡　他		
	畠跡	中世以降	畠跡、溝跡、井戸跡他		
元蒼遺跡群⑬ 元総社小見内Ⅸ遺跡	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡23軒　他	土師器、須恵器、瓦他	
	集落跡	中世	溝跡、井戸跡		
元蒼遺跡群⑬ 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡2軒	土師器、須恵器	
	水田跡	古墳時代	竪穴住居跡2軒、「小区画水田」跡1面、溝1条他	土師器、須恵器、加工材	
元蒼遺跡群⑭ 元総社小見Ⅵ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡2軒、土坑11基	縄文土器、石器	転用硯が検出された住居跡
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡15軒	土師器、須恵器	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡68軒、溝跡2条、土坑7基	土師器、須恵器、鉄製品、瓦	
	集落跡	中世	土坑2基		
元蒼遺跡群⑮ 元総社小見内Ⅹ遺跡	包蔵地	縄文時代		縄文時代中・晩期土器、石器類	9号住居跡で、平安時代と考えられる金片が出土。金属などを加工した工房跡と考えられる。8号溝跡では、青磁片・滑石製印判が検出。 採土坑は、灰白色のシルトを採取した可能性がある
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、工房跡、道路状遺構	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、金片、金粒	
	工房跡	古墳～奈良・平安時代	粘土採掘抗、土坑、周溝状遺構、畝状遺構、溝跡、井戸跡		
	生活跡	中世	土坑、溝跡、井戸跡、土壙墓	陶器類、人骨、滑石製印判、銭貨	

表2　元総社蒼海遺跡群(1)～(36)報告書一覧表

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(1)	集落	古墳時代	住居跡4　他	土師器、須恵器等	蒼海城関連堀跡
		奈良・平安時代	住居跡32、掘立柱建物跡2、溝跡11　他	土師器、須恵器、鉄器、石製品、瓦	
		中世以降	溝跡7	かわらけ、陶磁器片	
元総社蒼海遺跡群(2)	集落	古墳時代	住居跡 1	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡22、竪穴状遺構1、溝跡7	土師器、須恵器、鉄製品、瓦	
		中世以降	竪穴状遺構2、溝跡7、井戸跡1		
元総社蒼海遺跡群(3) 元総社小見Ⅶ遺跡	集落	縄文時代	住居跡7、土坑7	縄文土器、石器	As-B下の溝跡。南北方向に直線に走行し、断面形状が椀形。上幅4.7m～6.2m、下幅3.2m～4.8m、確認面からの深さ0.7m～0.8m。
		古墳時代	住居跡8	土師器、須恵器、紡錘車	
		奈良・平安時代	住居跡43	土師器、須恵器、紡錘車、瓦、鉄製品	
		不明	住居跡3、土坑9、ピット42、集石遺構	土師器、須恵器	
元総社蒼海遺跡群(4)	集落	縄文時代	住居跡2、土坑2基	縄文土器、石器	
		古墳時代	住居跡4	土師器、須恵器、石製模造品	
		奈良・平安時代	住居跡18、竪穴状遺構1、溝跡4	土師器、須恵器、鉄製品	
		中世	溝跡2、井戸跡1	石製品、土製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群(5)	集落 墓跡	古墳時代	住居跡1	土師器、須恵器他	
		奈良・平安時代	住居跡22、溝跡1	土師器、須恵器他	
		中世以降	溝跡4、周溝状遺構1、土壙墓58、火葬墓2	かわらけ、板碑、五輪塔、銅銭他	
		不明	溝跡4、土坑40、ピッ		
元総社蒼海遺跡群(6)	集落	奈良・平安時代	住居跡28、鍛冶工房跡1、溝1	土師器、須恵器、瓦、鉄器、石製品等	
		中世	溝5、土壙墓2、土坑		蒼海城関連堀跡
元総社蒼海遺跡群(7)	集落	奈良・平安時代	住居跡2、溝跡5、土坑2	土師器、須恵器、鉄器、石製品、瓦	国府北辺の区画溝ヵ
		中世以降	溝跡7　他		
元総社蒼海遺跡群(8)	集落	古墳時代	住居跡2	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡44、溝跡8	土師器、須恵器、鉄製品、緑釉陶器、瓦	
		中世	溝跡7、井戸跡1		
元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	集落	縄文時代	住居跡2	縄文土器、石器	晩期の遺構・遺物
		古墳時代	住居跡6	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡43、掘立柱建物跡1、溝跡1、土坑32　他	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、瓦　他	大形掘立柱建物跡(3×10間)
		中世	溝跡1　他		
元総社蒼海遺跡群(11)	集落	古墳時代	住居跡7	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡28、竪穴状遺構3、溝跡2	土師器、須恵器、瓦	
		中世	溝跡5		
元総社蒼海遺跡群(12)	集落	古墳時代	住居跡2、竪穴状遺構1	土師器	
		奈良・平安時代	住居跡74、竪穴状遺構1、溝跡3、井戸跡2	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡12、井戸跡4、土壙墓1	鉄製品	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(13)	集落	縄文時代	住居跡4、土坑18	縄文土器、土偶、石器	
		古墳時代	住居跡21	土師器、須恵器他	
		奈良・平安時代	住居跡68、竪穴状遺構5、工房跡1、溝跡12	土師器、須恵器、三彩・緑釉陶器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡16、土壙墓1		
元総社蒼海遺跡群(14)	集落	古墳時代	住居跡14、水田址、畝状遺構	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡6、掘立柱建物跡2、溝跡4	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡4、井戸跡13、竪穴状遺構1	軟質陶器、石製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群(15)	集落 墓跡 その他	奈良・平安時代	住居跡15、掘立柱建物跡1、溝20、井戸2、土壙墓1、土坑81、ピット221	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、中世・近世陶磁器他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(16)	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡16、溝5、井戸1、土坑36、ピット260、風倒木痕1、畠跡1、道路状遺構1	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、中世・近世陶磁器他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(17)	集落	古墳時代	住居跡13	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡28、竪穴状遺構2、溝跡4、土坑、ピット	土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器、鉄製品	
		中世以降	土壙墓2、土坑10、ピット231、井戸跡2、溝跡5	灯明皿、軟質陶器、板碑、石臼	
		不明	住居跡9、溝跡2		
元総社蒼海遺跡群(18)	集落 その他	奈良・平安時代	住居跡31、溝5、井戸4、土坑94、土壙墓2、ピット311、風倒木痕2、掘り込み状遺構1	縄文土器、石器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、銅製品、舶載青磁・白磁、かわらけ、古銭　他	
		中世			
		近世			
元総社蒼海遺跡群(19)	水田址	古墳時代	小区画水田	木器、土師器、須恵	
		中世	井戸跡	漆器	
元総社蒼海遺跡群(20)	集落 その他	古墳時代	住居跡6	土師器・須恵器他	
		奈良・平安時代	住居跡61、竪穴状遺構2、溝跡10、土坑51	土師器・須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡13、土壙墓1	鉄製品、石製品	
元総社蒼海遺跡群(21)	上野国府関連遺構、蒼海城跡	平安	竪穴状遺構4、土坑137(内、井戸5. 竪穴状遺構1)、溝9、ピット759、盛土状遺構(土塁)1	須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、陶磁器、かわらけ	蒼海城改修前後の堀を確認
		中世			
元総社蒼海遺跡群(22)	集落 その他	古墳時代	住居跡56、竪穴状遺構5、土坑66、溝跡55、ピット105	縄文土器・石器、弥生土器、灰釉・緑釉陶器、須恵器、土師器、瓦、石製品、鉄製品、陶磁器、古銭	10区弥生時代の土坑。10区鍵出土
		奈良・平安時代			
		中近世			
元総社蒼海遺跡群(23)	集落、上野国府関連遺構、蒼海城跡	古墳時代	住居跡20、性格不明遺構1、土坑35(内、井戸7、風倒木痕1)溝14、ピット101	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鉄製品、銅製品、陶磁器、かわらけ	蒼海城の改修前後の堀を確認
		奈良・平安時代			
		中世			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(24)	集落	縄文時代	住居跡2軒、土坑7基	縄文土器・石器	
		古墳時代	住居跡5軒	土師器・須恵器	
		奈良・平安時代	住居跡27軒、竪穴状遺構6基、溝跡7条、土坑64基	土師器・須恵器・灰釉陶器、鉄製品、石製品、皇朝十二銭	
		中世	方形竪穴5基、井戸2基、溝4条	銅製品、石製品、北宋銭	
元総社蒼海遺跡群(25)	集落	古墳時代	住居跡10軒、土坑4基、溝1条、ピット30基	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、陶磁器	南宋～元時代(13～14世紀)の青白磁梅瓶が2個体完形で出土
		平安時代			
		中世			
元総社蒼海遺跡群(26)	集落	古墳時代	住居跡9軒	土師器、須恵器他	
		奈良・平安時代	住居跡90軒、竪穴状遺構9基、溝跡16条、土坑38基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡2条、土壙墓3基	鉄製品、石製品	
元総社蒼海遺跡群(27)	集落、上野国府関連遺構、蒼海城関連遺構	古墳時代	住居跡51軒、溝17条、土坑49基、ピット3基、竪穴状遺構4基、井戸1基、焼土跡1基、掘立柱建物跡2棟	土師器、須恵器、羽釜、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製模造品、石製品、瓦	古墳時代前期から平安時代の集落。8世紀代と想定される掘立柱建物跡を確認。
		奈良・平安時代			
		中世			
元総社蒼海遺跡群(28)	集落、蒼海城関連遺構	弥生時代	住居跡47軒、溝18条、土坑26基、ピット1基、竪穴状遺構5基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、石製模造品、常滑大甕、石製品、瓦	弥生時代後期から平安時代の集落
		古墳時代			
		奈良・平安時代			
		中世			
元総社蒼海遺跡群(29)	集落、その他	古墳時代	住居跡26軒	灰釉陶器、須恵器、土師器	古墳時代～平安時代の集落
		奈良・平安時代			
		中・近世	堀・溝跡12条、掘立柱建物跡1軒、墓壙14基、火葬跡2基、地下式坑1基、井戸・土坑・ピット333基	かわらけ、宝篋印塔、五輪塔、板碑、古銭	蒼海城に伴うと推定される堀跡。中近世の土壙墓・火葬跡。
元総社蒼海遺跡群(30)	集落、その他	古墳時代	住居跡6軒	雁又鏃、灰釉陶器、須恵器、土師器	古墳時代～平安時代の集落遺跡
		奈良・平安時代			
		中世	道路跡1条、堀・溝跡6条、墓坑2基、火葬跡1軒、井戸・土坑・ピット23基	かわらけ、五輪塔、古銭	中世期の道路状遺構と蒼海城の堀と推定される堀跡。中世期の土壙墓・火葬跡。
元総社蒼海遺跡群(31)	集落、その他	古墳時代	住居跡16軒	須恵器、土師器	古墳時代後期の集落
		中近世	道路状遺構1、堀・溝跡5条、井戸1基、土坑21基、ピット51基	かわらけ、陶磁器、五輪塔、古銭	蒼海城の堀跡

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(32)	集落	古墳時代	住居跡42軒、竪穴状遺構2基、溝3条、土坑10基	土師器、須恵器	
		奈良・平安時代			
		中世	溝2条、道路状遺構2条、土壙墓1基	鉄製品	
元総社蒼海遺跡群(33)	集落	古墳時代	住居跡48軒、掘立柱建物跡1棟、粘土採掘坑1、道路状遺構1条	土師器、須恵器、鉄製品、瓦	
		奈良・平安時代			
		中世	竪穴状遺構2基、溝跡10条、井戸跡10基、土壙墓6基	土師器、須恵器、鉄製品、砥石	
元総社蒼海遺跡群(34)	集落、その他	奈良・平安時代	住居跡18軒、溝跡13条、土壙墓3基、土坑26基、ピット14基、竪穴状遺構5基、その他3基	土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品、鉄製品、銅銭、かわらけ 他	
		中近世			
元総社蒼海遺跡群(35)	集落、その他	1区縄文時代	住居跡1軒	縄文土器、石器	
		古墳時代	住居跡22軒、掘立柱建物跡2棟、土坑・ピット等	土師器、須恵器、灰釉陶器、畿内産土師器、鉄製品、古銭	古墳～平安の集落。畿内産土師器。布堀を伴う掘立柱建物跡。蒼海城関連の堀跡。
		平安時代			
		中世	堀・溝跡4条、土壙墓1基		
		2区奈良時代他	住居跡4軒、溝・土坑・ピット	土師器、須恵器	奈良時代他の集落
		3区古墳時代	住居跡12軒、掘立柱建物跡1棟、溝・土坑・ピット	土師器、須恵器	古墳時代後期の集落。5×4間の掘立柱建物跡。
		奈良時代以降			
元総社蒼海遺跡群(36)	集落、その他	古墳時代	溝跡3条、畠跡		
		平安時代	住居跡17軒、竈構築材採掘坑跡2、水田7区画	土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、砥石、鉄製品	鉄製紡錘車、鉄鏃
		平安～中近世	溝跡8条、堀跡4条、土坑17基、井戸跡2基	土師器、須恵器、埴輪、かわらけ、石臼、板碑、内耳土鍋、陶器、焙烙	地下式土坑状

表3 元総社蒼海遺跡群遺物集計表

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
1	元総社蒼海遺跡群①	0	1	16	1	1	43	0	2	2	0	5	0	0	0	0	0
3	元総社蒼海遺跡群②	4	8	41	0	2	32	0	5	1	0	9	1	0	0	0	0
4	元総社蒼海遺跡群③	0	6	20	0	7	50	1	7	0	0	12	0	0	0	0	0
5	元総社蒼海遺跡群④	3	16	74	2	8	63	7	8	0	0	8	1	0	1	0	0
6	元総社蒼海遺跡群⑤	5	18	23	3	3	51	1	13	0	0	5	5	0	1	0	0
7	元総社蒼海遺跡群⑥	13	3	33	4	4	40	7	7	0	0	11	1	0	0	2	0
8	元総社蒼海遺跡群⑦	0	4	3	0	2	20	9	9	1	0	0	0	0	0	0	0
9	元総社蒼海遺跡群⑧	20	1	50	19	5	52	25	14	33	0	5	0	0	1	0	0
10	元総社蒼海遺跡群⑨	21	4	27	19	2	69	0	162	1	0	1	0	0	0	0	0
11	元総社蒼海遺跡群⑩	15	5	36	10	1	34	5	55	0	0	2	0	0	0	0	0
12	元総社蒼海遺跡群⑪	27	3	43	3	4	23	0	13	0	0	2	0	0	0	0	0
13	元総社蒼海遺跡群⑫	12	2	28	2	4	31	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0
14	元総社蒼海遺跡群⑬	4	1	8	19	4	111	2	17	2	0	7	1	0	0	0	0
15	元総社蒼海遺跡群⑭	40	10	50	13	2	109	8	26	0	0	10	3	0	0	8	0
16	元総社蒼海遺跡群⑮	4	2	8	21	4	46	4	12	9	0	4	0	0	0	0	0
17	元総社蒼海遺跡群(1)	1	27	60	1	1	45	0	38	0	0	7	1	0	0	0	0
18	元総社蒼海遺跡群(2)	2	7	17	7	12	47	10	13	0	1	3	1	0	0	0	0
19	元総社蒼海遺跡群(3)	1	9	15	0	13	56	0	21	1	0	2	0	0	0	0	0
20	元総社蒼海遺跡群(4)	1	13	50	0	1	17	1	34	0	0	5	1	0	0	0	0
21	元総社蒼海遺跡群(5)	0	5	43	0	0	15	45	4	230	0	1	0	0	0	0	0
22	元総社蒼海遺跡群(6)	0	2	0	4	4	31	16	109	2	0	2	0	0	0	0	0
23	元総社蒼海遺跡群(7)	0	2	6	0	2	11	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0
24	元総社蒼海遺跡群(8)	0	18	25	1	6	52	0	19	0	0	4	25	0	0	0	0
25	元総社蒼海遺跡群(9)･(10)	0	9	58	2	24	110	0	10	0	3	9	0	0	0	0	0
26	元総社蒼海遺跡群(11)	4	8	19	1	8	55	0	14	0	0	4	0	0	0	0	0
27	元総社蒼海遺跡群(12)	7	42	81	0	5	71	0	25	0	0	1	1	0	2	0	0
28	元総社蒼海遺跡群(13)	3	12	104	4	25	42	0	30	0	1	7	9	1	0	0	0
29	元総社蒼海遺跡群(14)	0	10	27	2	1	32	3	4	3	1	3	3	0	0	0	0
30	元総社蒼海遺跡群(15)	2	0	0	0	12	42	0	21	0	0	6	0	0	0	0	0
31	元総社蒼海遺跡群(16)	0	3	8	5	24	53	0	20	0	0	2	0	0	0	0	0
32	元総社蒼海遺跡群(17)	3	21	39	1	10	41	2	7	6	0	1	0	0	0	0	0
33	元総社蒼海遺跡群(18)	2	4	11	12	17	51	0	42	1	0	6	0	0	2	0	0
34	元総社蒼海遺跡群(19)	0	10	15	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	元総社蒼海遺跡群(20)	24	29	86	12	11	85	1	73	3	2	10	2	0	0	0	0
36	元総社蒼海遺跡群(21)	0	0	0	1	1	21	40	1	0	0	3	0	0	3	4	0
37	元総社蒼海遺跡群(22)	10	17	67	7	12	154	0	15	3	0	11	3	0	0	0	0
38	元総社蒼海遺跡群(23)	0	8	27	0	7	56	78	19	3	0	2	0	0	17	20	0
39	元総社蒼海遺跡群(24)	0	9	36	3	11	67	0	33	2	0	11	0	0	1	0	0
40	元総社蒼海遺跡群(25)	0	1	0	0	9	10	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
41	元総社蒼海遺跡群(26)	17	35	73	6	16	144	1	47	6	0	4	1	0	0	0	0
42	元総社蒼海遺跡群(27)	2	30	58	17	27	99	0	27	1	2	26	2	0	0	0	1
43	元総社蒼海遺跡群(28)	22	52	61	2	27	81	0	41	1	3	13	3	0	0	0	0

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
									縄文											
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	土器	石器	その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋杯	人形	国府関連墨書	備考	合計
0	2	1	15	3	25	1	0	0	9	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	133
0	0	2	7	28	0	2	0	0	6	7	1	0	0	1	0	0	0	1	0	158
0	0	0	3	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115
0	0	5	6	30	0	2	0	1	1	1	0	12	1	0	0	2	0	3	0	255
0	0	0	1	16	0	1	0	0	9	2	1	0	0	0	1	0	0	3	0	162
0	19	0	10	12	0	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	173
0	0	0	3	7	0	0	0	0	1	5	0	1	0	0	0	6	0	0	0	71
0	0	0	2	9	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	242
0	0	2	0	7	0	0	0	0	26	11	0	0	0	0	1	1	0	0	0	354
0	0	0	3	9	0	2	0	0	38	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	227
0	0	0	3	6	0	0	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	135
0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	110
0	0	0	6	14	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	203
0	0	0	1	7	0	0	0	2	20	3	0	0	1	1	0	2	0	2	0	318
0	8	0	7	0	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140
0	0	0	2	12	0	3	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	203
0	0	1	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130
0	0	1	8	9	0	0	0	0	111	14	5	0	0	1	0	0	0	3	0	270
0	0	6	4	9	0	5	0	0	24	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	178
0	0	0	1	16	0	4	0	21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	386
0	0	0	4	16	0	1	1	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	210
0	0	0	1	11	0	0	0	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	45
0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153
0	0	4	21	19	0	3	0	5	118	71	4	1	0	0	0	0	0	0	0	471
0	0	1	7	4	0	7	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150
0	0	0	5	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	255
0	0	3	6	17	0	4	0	1	79	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	354
0	8	0	10	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	115
0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89
0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120
0	1	0	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	145
0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	154
0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	66
0	6	1	40	27	0	1	0	0	22	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	440
0	8	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	92
0	0	0	7	3	0	5	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	3	0	331
0	19	1	0	2	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288
1	1	4	18	19	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	257
0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
0	3	0	35	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	4	0	424
0	10	4	21	13	0	2	0	0	7	11	0	6	0	0	0	0	0	0	0	366
0	7	3	7	13	0	1	0	0	7	12	0	8	0	0	1	0	0	0	0	365

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
44	元総社蒼海遺跡群(29)	1	9	18	0	11	43	3	3	86	0	7	0	0	0	0	0
45	元総社蒼海遺跡群(30)	0	3	1	1	0	11	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
46	元総社蒼海遺跡群(31)	6	4	28	2	2	3	2	0	14	2	0	0	0	0	0	0
47	元総社蒼海遺跡群(32)	4	7	103	1	11	52	1	34	0	0	5	1	0	0	1	0
48	元総社蒼海遺跡群(33)	3	18	24	0	16	39	34	31	1	0	1	0	0	0	2	0
49	元総社蒼海遺跡群(34)	0	0	6	1	3	41	20	22	14	0	2	0	0	0	0	0
50	元総社蒼海遺跡群(35)	0	18	76	0	0	22	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0
51	元総社蒼海遺跡群(36)	0	1	7	6	0	44	6	10	1	3	1	0	0	0	0	0
	合計	283	527	1709	215	385	2518	344	1130	434	19	246	65	1	30	37	1

表4　元総社明神遺跡遺物集計表

No.	遺跡名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		土師器			須恵器			かわらけ	瓦	古銭	埴輪	陶器			磁器		
		大	中	小	大	中	小					灰釉	緑釉	三彩	青	白	青花
1	元総社明神遺跡Ⅰ	4	7	6	3		5										
2	元総社明神遺跡Ⅱ	1	209	405	13	205	330	3	7		2	51					
3	元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ		8	31	2	4	49	2				2					
4	元総社明神遺跡Ⅴ		7	45		7	63		1	5							
5	元総社明神遺跡Ⅵ		7	45		7	63		1	5							
6	元総社明神遺跡Ⅶ		7	45		7	63		1	5							
7	元総社明神遺跡Ⅷ		5	81		1	32		19			3			5	30	
8	元総社明神遺跡Ⅸ		7	45		7	63		1	5							
9	元総社明神遺跡Ⅹ		2	12			4	11	51	4							
10	元総社明神遺跡ⅩⅠ		7	45		7	63		1	5							
11	元総社明神遺跡ⅩⅡ		1	9		8	10	8	1	1			1				
12	元総社明神遺跡ⅩⅢ		7	45		7	63		1	5							
	合計	5	274	814	18	260	808	24	84	35	2	56	1	0	5	30	0

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
									縄文											
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	土器	石器	その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋杯	人形	国府関連墨書	備考	合計
0	3	0	31	10	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	227
0	0	1	6	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
0	20	2	23	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	112
0	0	3	7	10	0	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	248
3	8	3	45	5	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	240
0	10	1	7	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	133
0	0	0	5	3	0	1	0	0	2	6	0	0	0	0	2	1	0	0	0	143
0	6	0	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99
4	172	56	420	446	26	57	1	61	553	209	34	48	12	12	11	29	0	22	0	10,117

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
									縄文											
鉄釉	陶磁器類	土製品	石製品	金属製品	木製品	装身具	自然遺物	その他	土器	石器	その他	弥生土器	腰帯	硯	盤	螺旋状暗紋杯	人形	国府関連墨書	備考	合計
		1																		26
									18	1	2				1					1248
					39									1						138
	15	8	9			4		3												167
	15	8	9			4		3												167
	15	8	9			4		3												167
	1	7	14		128	14	116	1	14	14		31					3	2		521
	15	8	9			4		3												167
	3	3	18	2				1		1					3				9	124
	15	8	9			4		3												167
			6	1											1					47
	15	8	9			4		3												167
0	94	59	92	3	167	38	116	20	32	16	2	31	0	1	5	0	3	2	9	3106

表８　国府関連資料集成表

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
		2000.3	2001.3	2002.3	2003.3	2002.3	1984.3	1988	2003.11	1990.3	1987.3	1987.3	
		国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ	国府南部遺跡群Ⅲ	国府南部遺跡群Ⅳ	国府南部遺跡群Ⅴ	上野国分尼寺北辺遺跡	中尾遺跡	史跡上野国分寺跡	元総社西川・塚田中原遺跡	国分境遺跡	下東西遺跡	天神遺跡（破片数）	
1	硯								5		5		10
2	転用硯		1						1				2
3	螺旋状暗紋土器										8		8
4	銅椀							1	3				4
5	金銅像	1											1
6	緑釉			1	2		10		16	4	6	90	129
7	青磁			4	5		1		2			12	24
8	白磁					1		1	14			6	22
9	巡方						4		1		2		7
10	丸鞆						1			1			2
11	瓦塔	2								1			3
12	国府関連墨書、刻書												0
	合計	3	1	5	7	1	16	2	42	6	21	108	212

あ と が き

平成２３年度は、３月１１日に起きた東日本大震災の対応で始まりました。地震により倒壊大破した重要文化財の苗ヶ島町の石灯籠の保存修理、屋根の瓦や壁などが一部で落下、剥落した所管施設の修理など、いつも以上にあわただしいスタートとなりました。復旧工事に際しては、関係各位の多大なるご協力をいただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

また、２３年度は市民ボランティア解説員の養成を目的とした歴史学習講座の開講や１２年ぶりとなる「前橋の文化財」の全面改訂、上野国府の解明に向けた範囲内容確認調査の開始など新たな試みも手がけた年となりました。

平成１８年度から続いた史跡整備委員会も、「歴史のまち前橋」の創出という提言書が出され、同じく、１８年度から始まった山王廃寺の発掘調査も総括の報告書がまとまり、一応の完結を見た年となりました。

自然の猛威とその惨禍からの復活、新たな事業のスタート、そして継続した事業の完結という文化財保護課にとっても大きな節目の年となりました。

本書が多くの皆様に活用され、文化財保護行政をご理解いただくための一助となれば幸いです。

平成 24 年 6 月 15 日

文化財保護課長　松村　親樹

平成 23 年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗 二
井 上　唯 雄
梅 澤　重 昭
片 山　満 秋
松 島　榮 治（23 年 6 月 30 日まで）
村 田　敬 一

平成 23 年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	松村　親樹
文化財保護係	
課長補佐兼文化財保護係長	小島　純一
副主幹	堤　敏範
〃	岩瀬　孝弘
主　査	小田　哲生
主　任	小田　浩和
〃	小沼　安美
〃	宮沢　竜一
〃	下田　大介
文化財整備指導員	能登　健
埋蔵文化財係	
課長補佐兼埋蔵文化財係長	前原　豊
副主幹	山下　歳信
主　査	岩丸　展久
〃	細野　泰宏
主　任	藤坂　和延
〃	眞下　晃
〃	瀧澤　重雄
〃	坂本　高広
〃	並木　勝洋
〃	福田　貫之
〃	阿久澤智和

年報 第 42 集 平成 23 年度文化財調査報告書
平成 24 年 6 月発行
発行 前橋市教育委員会 管理部 文化財保護課
前橋市三俣町二丁目 10 番地 2

表紙　新指定重要文化財　前橋領主松平大和守家の甲冑